

【決議事項】

1. 2020 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）
 - 1-1. 同 事業報告
 - 1-2. 同 財務諸表等
 - 1-3. 同 監査報告書
2. 新名誉会員の推薦
3. 一部役員の任期満了による新役員の選任

【報告事項】

1. 2021 年度に係る計画等
 - 1-1. 同 事業計画書
 - 1-2. 同 収支予算書
2. 会費滞納会員の取り扱い

2021 年 6 月 8 日

一般社団法人 情報処理学会

<https://www.ipsj.or.jp/>

目 次

【決議事項】

1. 2020 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）

1-1.	同	事業報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-2.	同	財務諸表等	・・・・・・・・・・・・・・・・	53
1-3.	同	監査報告書	・・・・・・・・・・・・・・・・	61

2. 新名誉会員の推薦 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

3. 一部役員の任期満了による新役員の選任 ・・・・・・・・ 65

【報告事項】

1. 2021 年度に係る計画等

1-1.	同	事業計画書	・・・・・・・・・・・・・・・・	66
1-2.	同	収支予算書	・・・・・・・・・・・・・・・・	84

2. 会費滞納会員の取り扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

[第 1 号議案]

1-1. 2020 年度事業報告

1. 概況：重点活動
 2. 会員の異動状況
 3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 5. 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
 6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
 10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
 11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
 12. 法人運営
- 付 1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
- 付 2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
- 付 3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
- 付 4. 国際会議一覧
- 付 5. 表彰等
- その他・附属明細書

2020 年度 事業報告

1. 概況および重点活動

本会創立 60 周年を迎えた 2020 年度は、コロナ禍が社会活動全般に多大な影響を及ぼす中、ニューノーマルへの対応を支える情報処理技術分野での指導的役割を担う学会としての様々な情報発信や、学会イベント等のオンライン化などの喫緊の対応に加え、学会事業の将来にわたる健全な継続、発展に向けた中長期視点での各事業の見直しと強化を進めてきた。コロナ禍の影響は学会運営にも大きく影響し、年度当初は会員の大幅減も危惧される状況であったが最終的には 2019 年度並みに持ち直し、会員サービスの拡充や各種キャンペーンにより、ジュニア会員は 255 名増、ジュニア会員から学生会員への移行が 40 名と、着実に若年層会員を拡大させている。財務的にも収支が予算計画から大幅に改善し黒字化したことで、依然として中長期の成長のための大型投資が可能な財務状況を維持している。こうした中で、2019 年度から長期戦略理事が中心となり進めてきた各事業の課題洗い出しの結果を踏まえ、2021 年度中の着手を目指して、投資を伴う中長期施策の検討を進めている。また、社会に対して本会の専門性を還元するため、情報教育への貢献や、情報科目の大学入試への導入に向けた活動、情報処理技術の使い手である IT 業界との関係強化のための日本 IT 団体連盟との提携などの取り組みを行った。調査研究活動、学会誌の発行、論文誌編集活動、学術講習会の開催、標準化活動においては、コロナ禍を受けての活動のオンライン化を進めつつ、新たな取り組みにも挑戦して成果を上げている。

特筆すべき改革や成果としては、下記のものがあげられる。

- 学会創立 60 周年記念として、記念全国大会、記念会誌、記念論文、記念出版、記念週間イベントの各事業を実施し、“More local and more diverse for global values”をテーマとした 60 周年宣言を掲げ、国内に根ざす学会として本会が目指す姿を発信した。
- 参加無料の第 1 回情処ウェビナーの開催、note 上での会誌記事の公開、Twitter での情報発信の充実など、オンラインでの発信強化とサービスの拡充を図った。
- 学会誌において、緊急オンライン開催となった第 82 回全国大会で得られた知見に関する記事の掲載（2020 年 6 月号）と当該記事のオープンアクセス化、コロナ禍における IT 活用実践・報告に関する 2 度の小特集の企画など、コロナ対応に関する積極的な情報発信を行った。
- 量子ソフトウェア研究会を新設し、100 名以上の研究会登録者を集め、2 回の研究会で 49 件の発表を行うなど、活発に活動している。
- 初等中等教員の入会を促進するキャンペーンを実施し、初等中等教員を通じての将来にわたる安定的なジュニア会員獲得の布石を打った。
- 初等中等教育における情報分野教員の養成支援、教材開発や出張事業などによる教育現場支援、「情報 I」の高校教員向け MOOC 教材の開発・公開などにより、情報教育支援をさらに推進した。また、大学入試科目への「情報」の導入に関する提言や、国の情報教育の方向および内容に関する提言の発信など、日本の情報教育をリードする活動を行った。
- 高度 IT 人材の資格制度である「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度」では、認定総数が累計で、2019 年度末の 9,853 名から 10,306 名へと増大し、制度開始時に設定したマイルストーンを達成した。
- 委員会体制の見直しや学会事務局の BCP/DX 推進により、学会運営の一層の効率化を図った。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会としてのトラディショナルな活動は今までも大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① コロナ禍の影響により年度当初は会員的大幅減も危惧されたが最終的には 2019 年度並みに持ち直し、各種イベントのオンライン対応、情処ウェビナーや会誌オンラインなどのサービスの拡充や各種キャンペーンの効果もあり、ジュニア会員は 255 名増、ジュニア会員から学生会員への移行が 40 名と、着実に若年層会員を拡大させている。
- ② 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等を継続的に実施するために、2020 年度は 8 支部 Web サイトのシステム統合について先行的に九州支部のサイトの移行を進めた。
- ③ 長期戦略理事を中心に進めてきた、各事業の健全な継続性に向けた現状把握と課題の洗い出し結果を踏まえ大型投資を伴う中長期施策の具体化に向けた検討を進めた。
- ④ アドバイザリーボードからの「社会が求める情報処理学会とは」、それに伴う「学会運営の仕組み」といった観点からの提言をうけ、企画政策委員会で検討した。
- ⑤ 会員数の増加を図る為にジュニア会員向けサービス拡充や理事を中心に入会促進活動を行った。
- ⑥ 本会創立 60 周年各種記念事業を行った（詳細本総会資料付録「創立 60 周年記念事業報告書」）。
- ⑦ 公益目的支出計画が 2019 年度に完了した。その結果、学会の事業区分を本学会自らが自由に設計できるようになった。2020 年度は財務状況の見える化を通して財務的に健全な学会運営を見据えて財務理事を中心に事業区分見直しに向け検討に着手した。

1.2 実務家・IT エンジニア向け活動の強化

- ① 高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度」では、個人認証の取得を推奨する企業と同社のグループ企業の社員からの受審の増大や、技術士（情報工学）の資格取得が順調に推移し、個人認証は増大基調で推移した。また、企業認定においては、今年度初めて更新審査（3社）を実施するとともに、データサイエンティスト職種・専門分野に対応した認定を開始した。CITP認定総数は累計で、2019年度末の9,853名から10,306名へと増大し、制度開始時に設定したマイルストーンに達成した。
- ② デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、ITフォーラムなど、各種の実務家・ITエンジニア向け活動を通じて集客に貢献した。
- ③ 日本 IT 団体連盟（IT 連）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）、先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）、インターネット協会（IAJ）、情報通信技術委員（TTC）、日本データ通信協会（JADAC）、新世代 M2M コンソーシアム（NGM2M）、日本規格協会（JSA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）などの実務家・IT エンジニアを対象とする団体との連携を深めた。

1.3 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む活動を推進した。
- ② グーグル合同会社の協力の元、情報処理教育委員会、会誌編集委員会、新世代企画委員会の合同主催で、高校生に向けた情報処理の最先端の講義セッションとして「高校生のためのコンピュータサイエンスオンラインセッション 2020」をオンラインで実施した。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者、ジュニア会員のためのイベントを企画し、開催した。また、学生や若手を対象とした賞を授与した。

1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing (以下, JIP) のインパクトファクタ取得について, ESCI データベースへの登録を済ませ, 現在返事待ちの状態にある。
- ② 国際的に広く使われている商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts の運用を行い, JIP を中心に査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させ, 利用ノウハウの蓄積を進めた。
- ③ 研究会活動を中心に, 国際会議の主催や共催を推進した。
- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会との連携 (学会員向けサービス等) に加え, 若手向け表彰として「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」および「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」を継続推進した。
- ⑤ アジア地域の国々との連携の機会を検討し, タイで Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform 2020 (APRIS2020) を行う予定だったが, オンライン開催となった。
- ⑥ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) の CNCC2020 で本会会長が, 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) の KSC2020 で本会副会長が, 招待講演を行った。

1.5 会員サービスおよび広報の充実

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルを推進するために, 会誌記事に関するオンライン化やオンラインメディアnoteの活用等を進めた。
- ② 学会Webページのスマホ対応を進め, アクセシビリティを向上させた。
- ③ Twitterでの情報発信を充実させ, 4000人以上のフォロワーを新規獲得した。
- ④ 参加無料の「情処ウェビナー」の第1回を開催し, 約1000人の聴講者を得た。

1.6 情報システムの拡充

2018 年度に運用を開始したクラウド型 (SaaS, ASP 型) 新学会情報システムについて, 会誌の冊子版の要不要を会員自身が選択できるようにする等, 機能追加を実施した。また, 8 支部サイトのコンテンツ統合のために, 1 台のクラウドサーバ上に複数の VPS を動作させ, また, メールサーバについては支部単位で必要に応じて契約可能な構成とすることを決定した。また, 最も優先度が高い九州支部の移行を先行的に推進した。

1.7 学会創立 60 周年記念事業の推進

本会創立60周年記念事業として, 記念全国大会, 記念会誌, 記念論文, 記念出版①「60年のあゆみ」, 記念出版②「情報処理技術遺産とパイオニアたち」, 記念週間 (記念式典は中止), 以上6つの事業を実施した。各記念事業の実施内容詳細は, 本総会資料付録「創立60周年記念事業報告書」または60周年記念事業サイト (<https://www.ipsj.or.jp/60anv/index.html>) に掲載。

2. 会員の異動状況

下記の取り組みを実施し, 会員数の増加に努めた。

2.1 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。ジュニア会員については, ジュニア会員向けの諸活動が功を奏し増加となったものの, 正会員の減少は依然継続しており, 学生会員の入会も伸び悩み, 今年度の個人会員合計は 2019 年度に比べ 5 名の減少となった。

- ① ジュニア会員制度を推進し若い世代の入会促進に努めた。
- ② 各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。特に 2020 年度前半はコロナ禍の下、会費滞納者が激増したが、重ねての督促対応などにより会費未納者数は前年度並みになっている。
- ③ 連続セミナー・IT フォーラム 2021 の開催、デジタルプラクティス改革など実務家・IT エンジニアに向けた活動を推進した。なお、入会費用の無料施策により今年度は、CITP 認定者のうち 15 名（個人 10 名、企業 5 名）の無料入会があった。
- ④ 産業界に属する会員への学会価値向上に向けて検討を行った。

2.2 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会（時限）を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進した。
- ② ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知するとともに、会誌「先生、質問です!」コーナー、ジュニア会員の論文掲載料無料化全国大会での第 3 回中高生情報学研究コンテスト（オンライン開催）等々の施策を行い、学生会員育成活動を推進した。
- ③ 春(4月～6月)と秋(10月～12月)の2回、ジュニア会員獲得の施策として、ジュニアを指導する初等中等教員の入会を促進するキャンペーンを実施した。その結果、新たな会員層を発掘（52名）するとともに、初等中等教員の既存正会員の継続（37名）を促した。
- ④ ジュニア会員をサポートするシニア会員へのアンケートを実施し、今後の活性化の検討を行った。
- ⑤ 学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。
- ⑥ 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として 1 研究会への無料登録を継続した。
- ⑦ 学会ホームページ上でのジュニア会員向け Web ページのコンテンツを整備、リニューアルし入会メリットの訴求に努めた。

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2020 年度の異動内訳				
	① 2020 年度末	② 2019 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	43	40	3	1 2	新入会 正会員から異動	0		
正会員	15,008	15,211	-203	491 863 0	学生会員から異動 ジュニアから異動	1,054 2	名誉会員に異動	501
学生会員	2,525	2,585	-60	1,323 40	ジュニアから異動	508 863 0	正会員に異動 ジュニアに異動	52
ジュニア会員	2,182	1,927	255	867 0 0	正会員から異動 学生から異動	572 0 40	正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	19,758	19,763	-5	3,587		3,039		553
賛助会員 (口数)	265 (609)	275 (621)	-10 -(12)	17 (19)		27 (31)		

*2020 年度期末正会員数には終身会員 689 名を含む。

3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により総会、理事会をはじめ、法人運営、調査研究活動、人材育成活動、事業活動、機関誌／出版活動、標準化活動、国際活動に関する各種委員会を殆どオンラインで開催した。詳細は付録1（p. 19～p. 32）に掲載する。

4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等 [所掌：調査研究運営委員会および各領域委員会]

41研究会、5研究グループ（内2研究グループは調査研究運営委員会所属）により活動し、研究発表会（154回 内147回はオンライン開催、内7回はハイブリッド開催*）およびシンポジウム等（19回 内18回はオンライン開催、内1回はハイブリッド開催*）を開催した。詳細は付録2（p. 33～p. 39）に掲載する。

*新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催もしくは現地開催とオンライン開催を併用したハイブリッド開催となった。

※前年度参考：40研究会、5研究グループ、研究発表会155回、シンポジウム22回

[1] コンピュータサイエンス領域

10研究会により、研究発表会（40回 全てオンライン開催）、シンポジウム等（6回 全てオンライン開催）を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが、中でも特記事項は次の通りである。

- ① ソフトウェア工学(SE)研究会が IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter の共催と多くの協賛団体のもと、「ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2020 (SES2020) (2020年9月10日～12日、オンライン)」を開催した。参加者は333名であった。
- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、領域共通の積立金を活用して2020年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を18名に授与した。
- ③ コンピュータサイエンス領域の研究会分野において、顕著な功績のあった7名に対し、領域共通の積立金を活用して2020年度コンピュータサイエンス領域功績賞を授与した。

[2] 情報環境領域

16研究会により、研究発表会（62回 内57回はオンライン開催、内5回はハイブリッド開催）、シンポジウム等（9回 内8回はオンライン開催、内1回はハイブリッド開催）を行った。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクト（期間2020年11月1日～2021年10月31日）を募集し、シンポジウム開催支援1件のプロジェクトを採択した。個々の研究会活動を越えた領域共通プロジェクトの支援をより柔軟に行うために、これまで年一回であった募集形態を、支援の必要が生じた時点で随時応募できるように改めた。
- ② 10研究会*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に「DICOM02020シンポジウム（2020年6月24日～26日、オンライン）」を開催した。例年のDICOM0 シンポジウムは、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による開催であったが、今回は新型コロナ禍に鑑みオンラインで開催した。参加者は410名であった。

※マルチメディア通信と分散処理 (DPS)，グループウェアとネットワークサービス (GN)，モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL)，コンピュータセキュリティ (CSEC)，高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS)，ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)，インターネットと運用技術 (IOT)，コンシューマ・デバイス&システム (CDS)，セキュリティ心理学と

トラスト（SPT），デジタルコンテンツクリエイション（DCC）各研究会

- ③ 5研究会*が合同で「インタラクション2021シンポジウム（2021年3月10日～12日，学術総合センター内一橋講堂とオンラインのハイブリッド開催）」を開催した。参加者は500名を超えた。学生会員とジュニア会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。

※ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），グループウェアとネットワークサービス（GN），ユビキタスコンピューティングシステム（UBI），デジタルコンテンツクリエイション（DCC），エンタテインメントコンピューティング（EC）各研究会

- ④ 情報環境領域の研究会分野において，顕著な功績のあった個人・団体に贈呈する情報環境領域功績賞の設置を検討して今年度より実施し，6名および1グループに対し授与した。

[3] メディア知能情報領域

14研究会，3研究グループにより，研究発表会（52回 内50回はオンライン開催，内2回はハイブリッド開催），シンポジウム等（4回 全てオンライン開催）を行った。特記事項は次のとおりである。

- ① エンタテインメントコンピューティング（EC）研究会が「エンタテインメントコンピューティング2020シンポジウム（2020年8月29日～31日，オンライン）」を開催し，参加者は160名であった。
- ② 複数研究会でニコニコ生放送等にて研究発表会の動画中継を行った。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して，山下記念研究賞，業績賞，情報処理技術研究開発賞，マイクロソフト情報学研究賞，IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research，IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award，若手奨励賞を贈呈した。付録5（p. 46～p. 49）に掲載する。

(2) 調査研究活動に関する情報共有

調査研究運営委員会・3領域委員会合同委員会において，新型コロナ禍におけるシンポジウム・定例研究会開催形態に関する情報共有の時間を設けた。また，全国大会企画イベント「New Normalにおける学会活動在り方デザイン」に参画した。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

J17のフォローアップ作業を行った。また，一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEについて，フォローアップ作業を行った。また，一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEに準拠した教科書『ITText 一般教育シリーズ 一般情報教育』を執筆し，発行した。新たに，専門課程におけるデータサイエンスカリキュラムについて，先行するカリキュラムを比較検討し，策定を推進した。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続した。関連して，認定校・受審予定校のコミュニティの育成，専門職大学

院認証評価などの活動支援を行った。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め、ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。JABEEの審査基準の変更に委員を派遣し、審査基準の個別基準の変更作業を行った。今年度は、JABEE審査3件を担当の予定であったが、コロナ禍により各国とも審査ができないため、今年度に審査が必要な予備審査のみを実施し、他の継続審査と中間審査に関しては次年度に実施することとした。

5.3 教員免許更新講習の開催 [所掌：情報処理教育委員会]

2014年度から実施している高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を、コロナ禍により実施形態をオンラインで実施した。当初、東京・大阪・京都・名古屋の4地区で、8月・12月・1月に予定していたが、地区を限定せず8月8日と、12月26日から28日の3日間に開催した。「情報」に特化し、【選択必修】「メディア・リテラシーとICT活用」、【選択】「情報科学の教育とプログラミング教育手法」、および「初等中等教育における情報教育」の更新講習を実現した。これらは、高校の情報科教員の知識の更新（アップデート）に役立つものであった。

5.4 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会、個人認証審査委員会、企業認証審査委員会]

高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度」では、個人認証の取得を推奨する企業と同社のグループ企業の社員からの受審の増大や、技術士（情報工学）の資格取得が順調に推移し、受審者が増大基調で推移した。また、企業認定においては、今年度初めて更新審査（3社）を実施するとともに、データサイエンティスト職種・専門分野に対応した認定を開始した。CITP認定総数は累計で、2019年度末の9,853名から10,306名へと増大し、制度開始時に設定したマイルストーンを達成した。CITPホルダーによるコミュニティ定例会議は、コロナ禍の中で第29回は中止となったが、その後オンラインにより第30～32回が開催されている。また、SIG（Special Interest Group）の活動においては、「プログラミング教育支援SIG」は、小学校での教育支援や自治体の教育委員会との意見交換などがコロナ禍で活動することが難しい状況にあるが、「シビックテックSIG」は、毎年、石巻専修大学で情報関係の授業の1コマをCITPが担当するとともに、今年度は新たに東京都市大学および横浜国立大学でも同様の授業を実施した。また、「知の発信SIG」ではJUASのアドバンス研究会に登録し、その資金援助により、毎年CITPコミュニティ全体の活動をまとめたアニュアルレポートを発行、「アラサー技術者交流SIG」では、1月に「機械学習」のテーマでオンライン交流会を開催している。

5.5 初等中等教育での情報教育支援 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 初等中等教育への支援

初等中等教育現場の情報分野教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進した。コロナ禍による3月から5月の小中高の一斉休校に対し、自宅学習教材として『コンピュータ博物館』を推薦し、文部科学省に採用された。ジュニア会員を対象に、会誌のバックナンバーの無料配布を行った。高専プロコン交流育成協会（NAPROCK）との連携により、高専プロコン連携シンポジウムの実施を行った。

(2) 高校教員への支援活動

2022年からの新指導要領で必須科目となる「情報I」の教員向け研修教材に基づき、関連団体の協賛・支援を得て、MOOC教材を開発・公開した。とくに、トピックとされる「プログラミング」分野と、「情報通信ネットワークとデータの活用」分野を対象とした。今後、教員研修での活用が期待される。

5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

コロナ禍の中、教育に関するシンポジウムならびにコンテストを休止することなくオンラインでの企画

を行い、すべてを運営した。第 82 回全国大会で企画セッションとして実施する予定であった情報入試に関するシンポジウムを 5 月 16 日にオンライン開催として企画し、運営した。高校教科「情報」に関するシンポジウムを、テーマ【COVID-19 で注目された学習指導と情報科】として、10 月 31 日にオンラインで開催した。大学の一般情報教育に関するシンポジウム「これからの大学の情報教育」をテーマ【新テキスト『IT Text 一般教育シリーズ 一般情報教育』】として、12 月 12 日にオンラインで共催した。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために、情報システム教育コンテストを第 83 全国大会の企画セッションとして開催した。また、若い世代への本会のプレゼンス向上を目指して、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を、オンライン開催であったが例年どおりに推進した。第 83 回全国大会では、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストは、2019 年度を大きく上回る 87 件の発表を集め、オンラインにて実施した。同大会では、初等中等教員研究発表セッションも 8 件の研究発表で開催した。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

「情報」における「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための試験問題について、今までに作った問題の整理を継続して行った。大学入学共通テストに「情報」が設置される方向が公表されたことに基づき、提言の発信、および模擬問題の解説を新たなメディア note で発信することとした。国の情報教育の方向および内容に関して、他学協会とも協調行動を起こし、提言を行った。活動の報告として、第 83 回全国大会の企画セッションとして開催した。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ペタ語義」などの教育関連連載記事を企画・編集した。新たなメディア note への企画も行った。

(4) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈した。
- ② 教材、講義素材、講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行った。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を行った。
- ④ 国際会議「World Conference on Computers in Education (WCCE2021)」の日本開催を新型コロナウイルス感染症の影響により 2022 年開催に延期し、計画の練り直し、準備検討が進められた。
- ⑤ ACM/IEEE-CS を中核とする「Computing Curricula 2020 (CC2020)」に関して、支持表明をした。
- ⑥ NII グローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」プロジェクトの運営に参画し、受講生の支援や審査等を行った。
- ⑦ 情報教育に関する活動の広報活動を積極的に行った。

6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

※各開催状況の詳細は付録 2（p. 39～p. 40）に掲載する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第 83 回全国大会 [所掌：全国大会運営委員会]

第 83 全国大会を 2021 年 3 月 18～20 日にオンライン開催した。当初、大阪大学 豊中キャンパスでの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への対策として 2020 年 9 月にオンライン開催への変更を決定・通知した。イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施を行い、「第 9 回国際人工知能プログラミングコンテスト (Samurai Coding 2020-21) 決勝」はオンラインでの審査を行った。また、本プログラミングコンテストについては、本コンテストの主旨に類する他のコン

テストが増えてきたことなどから、当初の目的を果たしたと考え、今回をもって終了することとした。オンライン開催に伴い、聴講参加費は例年の実地開催での金額に対して半額とした。

講演件数は、1,164 件（一般セッション 983 件、学生セッション 181 件）、参加者数は 3,486 名（参加券発行数）であった。※前年度参考：講演件数 1,141 件、総参加者数 2,419 名

(2) 第 19 回情報科学技術フォーラム (FIT2020) [所掌：FIT 運営委員会]

FIT2020（第 19 回情報科学技術フォーラム）を、2020 年 9 月 1～3 日にオンライン開催した。当初、北海道大学 札幌キャンパスの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への対策として 2020 年 5 月にオンライン開催への変更を決定・通知した。イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施した。オンライン開催に伴い、聴講参加費は例年の実地開催での金額に対して半額とした。講演件数は 383 件、総参加者数は 2,036 名であった。船井業績賞受賞者広島修道大学教授（東京大学名誉教授）／プロメテック CG リサーチ所長 西田友是氏による受賞記念講演を実施した。イベント企画（計 12 件）、FIT2019 から開催のトップコンファレンスセッション（3 日間で 8 セッション、42 件）も実施した。今回は企業によるインダストリアルセッション（5 社）と IT 情報系キャリアセッション（7 社）を開催した。また、スポンサー 9 口を獲得した。※前年度参考：講演件数 529 件、総参加者数 1,336 名

(3) 表彰 [所掌：全国大会運営委員会]

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録 5 (p. 48, p. 49, p. 51) に掲載する。

6.2 セミナー／IT フォーラム 2020／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2020 [所掌：セミナー推進委員会]

「人間中心社会を支える情報技術の新潮流」を全体テーマとし、全 6 回のセミナーを開催した。当初計画では現地での開催を想定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により全 6 回を全てオンライン開催に切り替え 10 月から 12 月にかけて開催し、452 名（内賛助会員特典参加他 106 名）の参加があった。

※前年度参考：全 6 回、東京／大阪／東北延べ参加者数 659 名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に、次の短期集中セミナーを開催した。

- ・「DX時代のITガバナンスとITサービスマネージメント～国際標準化への取り組み～」(2月)

参加者：110名

- ・「新生SC29によるJPEG/MPEG標準化最新動向～機械学習応用・実用化技術・将来像も交えて～」(2月)

参加者：47名

(3) IT フォーラム 2021 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

大規模なセミナーイベントとしてのソフトウェアアジアから、コミュニティ活動主体の IT フォーラム 2021 へと形式を変更して開催した。また、今年度はオンラインにて開催した。参加者：405 名。

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に 3 回（第 62 回プログラミング・シンポジウム、夏のプログラミング・シンポジウム 2020、第 53 回情報科学若手の会）のシンポジウムを開催した。いずれも昨今のコロナ禍の状況を考慮し、オンライン形式での開催となった。

6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

- ① 2020 年度はサービスサイエンスフォーラム、コンタクトセンターフォーラム、CITP フォーラムの 3 つの IT フォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。

- ・サービスサイエンス：集まって議論できないため、昨年までのような活発さは薄れ気味である。今年度は、研究会から出版することができなかった。
 - ・コンタクトセンター：コロナの影響により前半は活動を見合わせていたが、オンライン会議の仕組みを使って数回の活動ができた。
 - ・CITP：年間4回の全体コミュニティ会合を実施（2021年3月開催予定を含む）。4つの専門部会（SIG）が随時活動①シビックテック、②『知』の発信、③プログラミング教育支援、④アラサー技術者交流。2つのフォーラム運営委員会が随時活動①幹事会、②プラットフォーム委員会。
- ② ITフォーラム2021において、関連団体*との連携イベントを推進した。
- ※先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）

6.4 AI プログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

- ① 学生および若手技術者の育成を目的として、世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding2020-21」を開催した（オンライン予選と決勝戦）。1月25日（日本時間 1月26日 21:00JST）を締切としたオンライン予選には、22チームの参加があった。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催が中止となったため予選同様オンラインにて開催した。国際：1チーム、国内：15チームの全16チーム27名が予選結果から選抜された。
- ③ 本プログラミングコンテストについては、本コンテストの主旨に類する他のコンテストが増えてきたことなどから、当初の目的を果たしたと考え、今回をもって終了することとした。委員会は2021年度まで活動を継続し、これまでのコンテストで作成してきたゲームシステムや各種ドキュメントの資産を整理、公開するための活動を行う予定である。

6.5 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

支部連合大会、講習会、講演会、セミナー等、各支部において活発に活動がなされた。なお、ジュニア会員向けイベント等一部のイベントに関しては新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止・延期となった。詳細は、付録2（p.41）および付録5（p.50）に掲載する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※発刊状況の詳細は付録3（p.42）に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第61巻5号から第62巻4号まで計12号（（本文991ページ、広告70ページ、平均発行部数14,740部／号、電子版本文530ページ）を編集発行した。
- ② 会誌のハイブリッド刊行に向けて、61巻11号から特集本編はオンライン版（情報学広場）のみの掲載とし、オンライン版のみの記事（電子図書館およびnoteに掲載）も公開開始した。
- ③ 学会誌「情報処理」noteを2020年10月15日に開設し、過去記事と新規記事あわせて62記事を公開した。
- ④ 「読まれる学会誌」を目指して、会員サービス、および会員増という観点から編集を行い、時宜を得た特集、連載、単発記事が提供できるよう努めた。
- ⑤ 学会Webとの連動企画として、昨年に引き続き9月号「研究会推薦博士論文速報」では、本誌に簡略版、Webにその詳細を掲載した。
- ⑥ さまざまなITに関する企画を取材し、マンガ表現で分かりやすく解説する「IT紀行」の連載を継続し

た。

- ⑦ 会議レポートの掲載数を増やし、会員へ国内外会議の周知、また、積極的な参加を呼びかけた。
- ⑧ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」、著名人による「巻頭コラム」、連載「古機巡礼/二進伝心」、連載「ビブリオ・トーカー私のオススメー」、連載「5分で分かる!? 有名論文ナメ読み」、連載「情報の授業をしよう!」、連載「集まれ! ジュニア会員!!」、連載「先生、質問です!」、教育コーナー「ぺた語義」、連載「買い物自慢」を引き続き掲載し、概ね好評を得た。また、書籍化した「ビブリオ・トーカー私のオススメー」の今年度の販売部数は940部であった。
- ⑨ 学会創立60周年記念特集「2050年の情報処理」（61巻5号）を掲載した（詳細本総会資料付録「創立60周年記念事業報告書」）。
- ⑩ コロナ禍におけるIT活用実践・報告として、小特集「情報化社会のニューノーマル」（61巻9号）、小特集「データ・AIガバナンスとCOVID-19：アジアにおける中長期的展望」（61巻10号）などを掲載した。
- ⑪ 教育委員会の執筆・編集による情報入試の記事をnoteに掲載した。
- ⑫ デジタルプラクティスから独立した、実務家向けの記事を掲載する「デジタルプラクティスコーナー」を設置した。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 冊子版に掲載された広告を Web カタログとして学会 Web 上に掲載するサービスを継続した。
- ② 付録として発行している学生向けの「インターン・就職情報誌」（61 巻 7 号, 61 巻 12 号, 62 巻 4 号）の掲載企業は 30 社であった。
- ③ メールニュースをより魅力的なものとするため、昨年に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ④ Kindle/Fujisan での電子版の販売を継続した。
- ⑤ 「情報処理学会 学会誌『情報処理』note」を開設し、無料/有料記事を公開。また、Twitter での情報発信を充実させるなどオンラインメディアでの発信を強化した。
- ⑥ IPSJ メールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。
- ⑦ 58 巻 4 号特別企画として作成した「情報処理学会 LINE スタンプシール」のダウンロード数は今年度までで累計 11,813 件となった。
- ⑧ 学会の知名度向上をはかるため、技術書の展示会「技術書典 8, 9, 10 オンライン」に会誌編集委員会として出展し、会誌特集別刷を作成して販売した。
- ⑨ 学会の知名度向上をはかるため、世界最大級のバーチャルイベント「バーチャルマーケット」に会誌編集委員会として IPSJ ブース出展をした。
- ⑩ 全国大会にて「『先生、質問です!』公開セッション」を cluster を使ったバーチャル空間で開催した。
- ⑪ 「高校生のためのコンピュータサイエンス・オンラインセッション」（8 月）にて講演を行った。
- ⑫ 学会 60 周年記念事業として、Web サイト「情報処理カタログ『JOSYORI』」を編纂し 2021 年 3 月に公開した（詳細本総会資料付録「創立 60 周年記念事業報告書」）。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※各発行状況の詳細は付録3（p. 42～p. 44）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、目標 230 編に対し 289 編（含 JIP preprint 97 編）が掲載された。招待論文を 2 編および特集号を 17 号発行した。ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が会員）し、投稿と同時に第一著者 47%の方が入会をした。2019 年度の第 82 回全国大会でのイベント企画「論文必勝法」は新型コロナウイルス感染の影響により中止となったが、第 83 回全国大会で実施し、出席者に論文投稿を促した。

② 論文誌編集委員の貢献に報いるため、論文編集委員会より論文編集貢献賞を選定し贈呈した。

③ 新編集長による編集委員会がスタートした。幹事会ともにコロナ禍の影響で、オンライン開催となった。Slack の開設、google doc によるノウハウの共有などを進めている。

④ 電子図書館対応検討 WG において、情報学広場からの移行の検討を行い、論文誌については、目次等を工夫することで、ほぼ問題なく移行が可能であることを確認した。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

年間論文掲載数の目標 70 編に対して掲載件数は 112 編（うち招待論文 5 編）であった。国外からの投稿に対する優遇策を継続して実施している。

(3) トランザクション（11 誌） [所掌：各トランザクション編集委員会]

① 研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」11 誌を年度内に計 30 回発行した。トランザクションの掲載論文は目標 130 編に対し計 102 編（含 JIP preprint 15 編）となった。

② DP 誌の一部を論文誌（トランザクション）に再編し、トランザクションデジタルプラクティスを 10 月に創刊、2020 年度は 2 号を発行した。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 [所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

① 計画どおり論文誌「デジタルプラクティス」は 43 号をもって終了し、2020 年 10 月発行分から、論文誌トランザクションデジタルプラクティス、会誌「デジタルプラクティスコーナ」、「DP レポート」の 3 本立ての運営に移行した。

② 論文誌「デジタルプラクティス」としては、通巻 42 号～43 号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲を行った（招待論文 12 編、JISA 招待論文 3 編、ユーザ会論文 1 編、特集号投稿論文 1 編、一般投稿論文 7 編、推薦論文 1 編を掲載）。

③ 会誌「デジタルプラクティスコーナ」（会誌 2020 年 11 月号および 2021 年 1 月号掲載）の特集号企画と編集、閲読を行った。（招待論文 11 編、JISA 招待論文 1 編を掲載）

④ 論文誌トランザクションデジタルプラクティスとして、通巻 1 号～2 号の特集号企画と編集、一般投稿論文、推薦論文の査読を行った。（特集号投稿論文 2 編、一般投稿論文 4 編、推薦論文 2 編を掲載）。

⑤ DP レポート投稿論文の審査を行った（2 編掲載）。

⑥ FIT2020 ではイベント企画「DX を推進する俊敏なシステム開発・運用—アジャイルにつなぐビジネスと ICT—デジタルプラクティスライブ—」を行った。

⑦ 著者に、より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために「デジタルプラク

ティス論文賞」の選考を行った。

- ⑧ 第 83 回全国大会で企画セッション「スポーツテック ～デジタルプラクティスライブ～」を開催した。
- ⑨ 実務現場における知見を社会全体で広く共有することを目的とし、FUJITSU ファミリー会に加え日立 IT ユーザ会、ユニシス研究会、NEC ユーザ会、IBM Community Japan の企業実践論文との提携を開始した。他のベンダーのユーザ会との提携も検討中。

(5) その他

- ① 各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティス論文賞等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 46, p. 50) に掲載する。
- ② 2019 年 6 月より募集予告を告知後、同年 11 月より正式公募を開始し応募投稿論文総数 14 編より慎重に審議を行った結果、論文 1 編を選定し表彰した。（詳細本総会資料付録「創立 60 周年記念事業報告書」）。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

IT Text シリーズ（一般教育）「一般情報教育」を刊行した。また、既企画のメンテナンスを中心に活動を行い、重版を 23 冊行なった。また、産業界向けに話題性の高い技術の企画出版を行い、新刊「量子コンピューティング 基本アルゴリズムから量子機械学習まで」を刊行した。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会、コンピュータ博物館小委員会]

- ① 「コンピュータ博物館」の今年度のアクセス数は、465,828 件（日英合わせ）、転載数 22 件であった。
- ② 第 83 回全国大会（オンライン）で特別セッション「私の詩と真実」で 2 件講演発表を行った。
- ③ 創立 60 周年記念出版として『情報処理技術遺産とパイオニアたち』を発行した（詳細本総会資料付録「創立 60 周年記念事業報告書」）。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① サイトライセンスサービスは目標契約数 74 件に対して 78 件であった。
- ② 会誌記事と論文誌ジャーナル掲載論文へ doi を付与した。
- ③ 電子図書館の運用面を検討する WG を設立し、財政面、運用面、プラットフォーム等の検討を、J-Stage (JST) や情報学広場 (NII) 等を交えて協議を進めてきた。費用面・今後の拡張性等を考慮すると、利用プラットフォームについては、継続検討していく必要がある。

9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

前年度から引き続き、メディア符号化 (SC 29)、デジタル記録媒体 (SC 23)、文字コード (SC 2) などの重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC 1 総会 (6 月、11 月 Zoom) に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。今年度は COVID-19 感染拡大防止のため、全ての国際会議は対面ではなく Zoom を用いたオンラインでの開催となった。

- ① 今年度の引き受け件数は、議長 3 件（全 22SC 委員会中）、セクレタリアート 10 件（全 22SC 委員会中）。その他、コンビーナ（各 SC 委員会傘下の WG 主査）15 件（89WG 中）、プロジェクトエディタ

延べ 97 名と昨年同様に貢献した。

- ② 重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。6 月の JTC 1 総会で設置された WG 14 (Quantum Computing) に対応する JTC 1/WG 14 小委員会 (量子コンピューティング) を設置して活動を開始した。
- ③ 日本提案による国際標準化の推進としては、新業務項目 (NP) の提案 (承認済) 4 件、国際標準 (IS) などの発行されたもの 16 件などである。
- ④ 国際会議の日本での開催： 11 月の岡山での JTC 1 総会をはじめとして、いくつかの国際会議を日本に招致する計画であったが、全て Zoom によるオンライン開催となった。JTC 1 総会については、2022 年 11 月に改めて日本に招致することを提案し、承認された。
- ⑤ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中、JTC 1 が取り組むテーマが ISO, IEC, および ITU-T と重複する傾向が進んでいるため、JTC 1 と連携テーマがある ITU-T への国内対応委員会を設置している (一社) 情報通信技術委員会 (TTC) との連携を維持した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 今年度の国際会議は全てオンライン開催となったため、渡航費等の支出は僅かとなった。278 回の標準化国際会議への参加者は、延べ 1,598 人と、例年並みであった。支出が減少したことから今年度は黒字の見込みであるが、翌年度以降の変化に対応するため、および標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持するために、残予算を繰り越すこととした。
- ② 国内においても COVID-19 感染拡大防止のため、機械振興会館での委員会等の対面会議開催を最小限に抑え、会合のオンライン化を推進した。また、事務局職員のテレワーク環境強化に努め、事務局機能の維持に努めた。
- ③ オンラインでの会議開催では、他の参加者とのネットワーキングや各国との調整などのロビー活動がうまくできず、今後の課題として検討していく必要がある。
- ④ 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。中長期戦略、予算策定、事務局情報システムなど、本部事務局とも情報共有を図りつつ運営を推進した。

(3) 広報活動とセミナーの実施

- ① 前年度に引き続き、委員会活動を広く紹介するための一般向けの広報誌としての活動報告を年 1 回発行した。
- ② 情報技術標準化フォーラムは、今年度は COVID-19 感染拡大防止のため中止とした。
- ③ SC 29 「新生 SC 29 による JPEG/MPEG 標準化最新動向～機械学習応用・実用化技術・将来像も交えて～」, SC 40 「DX 時代の IT ガバナンスと IT サービスマネージメント～国際標準化への取り組み～」の 2 件の短期集中セミナーを、COVID-19 感染拡大防止のため全てオンラインで実施した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 51) に掲載する。

10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP 委員会]

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
IFIP 総会 (9月24日～25日 オンライン) に相田 IFIP 日本代表が参加した。

- ② 今回の IFIP 総会より、IFIP 日本代表が村山優子氏から相田仁氏に交代となった。
- ③ 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌 (3月号) への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ④ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) へ継続的に参画している (IP3は 2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された)。

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2020年7月13日～17日にオンラインで開催された The 44th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2020) への技術協力を行った。
- ② 第83回全国大会において IEEE-CS 会長 Forrest Shull 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「75 Years of Computing - Celebrating History. Inspiring the Future.」
- ③ 姉妹学会 MOU を継続し、会員向けの連携サービスを継続。
- ④ IEEE-CS と本会との Joint Award として、「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」3名の受賞者を決定した。

(3) ACM との連携・協力

- ① ACM と本会との Joint Award として、「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」1名の受賞者を決定した。
- ② 第83回全国大会において、Joint Award 表彰式と ACM 会長 Gabriele Kotsis 氏の招待講演をオンラインで行った。演題「Computing Machinery Shapes Our Future - Let's Join Forces!」

(4) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力
 - ・ 10月のCCFの年次大会に本会から会長がオンライン出席し、講演を行った。
 - ・ 12月のKIISEの年次大会に本会から副会長がオンライン出席し、講演を行った。
 - ・ 第83回全国大会において、CCF会長 Mei Hong 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「Challenges and Responsibilities in Operation of IT Community
After the COVID-19 Pandemic」
 - ・ 第83回全国大会において、KIISE会長 Yunmook Nah 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「Impact of COVID-19 on education and academic activities in Korea」
- ② 他の海外学会との協力関係の継続
以下の海外学会との協力関係を継続するとともに、アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。
 - ・ Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
 - ・ Australian Computer Society (ACS)
 - ・ SEARCC (South East Asian Regional Computer Confederation)
 - ・ Computer Society of India (CSI)
- ③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(5) 国際会議の開催 (5 件) ※今年度内に終了報告が完了した国際会議

詳細は付録4 (p. 45) に掲載する。

なお、今年度内に開催された国際会議は以下のとおり (2件)。

- ・ The 15th International Workshop on Security (IWSEC2020) (2020年9月、オンライン開催)
- ・ 26th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC2021)
(2021年1月、オンライン開催)

11. その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会への参加、電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。特にコロナ対応の学会事業、事務局業務につき連携を図った。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）」ほか、研究発表会および学術講習会において、関連学協会等と適宜共催を行った。また、土木学会、電子情報通信学会と連携し第44回土木情報学シンポジウムの開催に協力した。機械学会との連携検討にも着手した。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、理学・工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

教育システム情報学会 第45回全国大会（一般社団法人教育システム情報学会主催，2020年9月2日～4日開催）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等102件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

「2021 IEEE 3rd Global Conference on Life Sciences and Technologies(Life Tech 2021)」(IEEE主催，2021年3月9日～11日開催)ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等12件を行った。

12. 法人運営

12.1 政策提言活動の推進

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言活動を推進し、以下4件の提言を発信した。

- ①「学会著作物を ICT 人材育成のためのオンライン教育に無償で利用いただけます ～新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受けてのオンライン教育等の利用拡大に向けて～」(2020年4月)
- ②「大学入学共通テストへの「情報」の出題について」(2020年12月)
- ③「数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラム ～AI×データ活用の実践～（案）」(2021年3月)
- ④「大学入学センターから出された大学入試共通テストの実施方式に対する、本会の賛同表明」(2021年3月)

12.2 運営体制の充実・改善等

(1) ニューノーマルに向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により社会が急激に変化していく中で、学会のイベント、委員会等各種活動のオンライン化ならびに事務局のBCP/DX化を推進した。また、「情報処理学会60周年宣言～More local and more diverse for global values～」のとおり、以下の3つを柱として学会の更なる進展を

目指し継続的に検討をしていく。

- ① 情報社会において各地域や各分野の担い手とともに先端技術で社会課題を解決し、そのプラクティスをグローバルに通ずる新価値創造に繋げる。
- ② 情報処理の最先端を先導する学会として常に新しい領域の開拓と人材ネットワークの構築に寄与する。
- ③ 情報に関する学びの場を提供し、生涯にわたる個々人の成長に寄与する。

(2) 運営体制の見直し

60 周年学会宣言の戦略的推進、ニューノーマル時代に対応した効率的な業務推進を目指し、委員会体制の見直しを検討した。

(3) IT 産業連携強化への取り組み

IT 産業の発展の為、また、本会活動および本会と IT 産業界の連携活動強化の為に、日本 IT 団体連盟 (IT 連) と覚書を締結するとともに、新たに「IT 産業連携理事」を設けた。

(4) 新世代発想の学会運営への取り込み

- ① 第 83 回全国大会において、これまで好評な企画である IPSJ-ONE (第 77 回に開始) をオンラインで継続実施した。
- ② 2018 年度に開始した会誌記事「先生、質問です!」の連載を引き続き行い、更には教員からの質問を受ける新企画として「先生が質問です!」を立ち上げた。また、記事の執筆者に謝金を払うよう制度化した。これらの連載を通して、情報系の研究の魅力や情報社会の方向性に関する情報発信を行った。
- ③ 特に博士学生を対象とした「予算申請書作成メンタリング」の企画を新たに立ち上げ、学振申請書の書き方に関する講演会、過去の申請書の共有アーカイブの設置、および有志メンティーによる申請書チェックの取り組みを開始した。
- ④ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績に繋がることをねらい、各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて、若手研究者に招待講演を依頼する際に、講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」の企画を新たに立ち上げた。

(5) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に進めてきた、各事業の健全な継続性に向けた現状把握と課題の洗い出し結果を踏まえ大型投資を伴う中長期施策の具体化に向けた検討を進めた。

(6) アドバイザリーボードによる運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードミーティングを 2020 年 11 月に開催し、ボードメンバーからの助言を実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

(7) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① オンラインメディア note の活用や、Twitter での情報発信の充実などオンラインメディアでの発信を強化した。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPSJ メールニュースの HTML 化を図った。
- ③ 会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニタ会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。
- ④ 学会の重要な広報チャネルである学会ホームページについて、わかりにくいとの声が多数寄せられているため、まずは現状の問題点の洗い出しに着手。2020 年度内にスマートフォン対応を完了させ、今後優先順位をつけて改善を推進する。

(8) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

今年度は、8 支部サイトのコンテンツ統合のために、1 台のクラウドサーバ上に複数の VPS を動作させ、

また、メールサーバについては支部単位で必要に応じて契約可能な構成とすることを決定した。また、最も優先度が高い九州支部の移行を先行的に推進した。また、他の支部に関してはそれぞれの移行を確認しながら次年度以降に展開を進めていく。

また、2018 年度に運用を開始したクラウド型学会情報システムについては計画通り継続的な拡充を進めた。また、学会 Web ページをスマートフォン閲覧に対応させるため、デザインを見直し、移行コンテンツを決定し 2021 年 4 月より稼働を開始した。

(9) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

著作権の利用許諾に関する対応などを行った。また、プログラムシン・ポジウムの過去論文の電子保存のための著作権許諾手続きを公開調査した。更に電子図書館コンテンツの Wikipedia への掲載についても検討に着手した。

(10) 参加しやすい総会を目指した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催となったが、普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらうことを目指し、2020 年 6 月の総会において講演会「データが流れる社会とのインタラクション（土井美和子氏（NICT 監事/奈良先端大理事/東北大理事））」を行った。

(11) ダイバーシティへの取り組み [所掌：Info-WorkPlace 委員会]

- ① note に Info-WorkPlace 委員会のマガジンを作成し、CASE1 として倉本到氏の記事を掲載した。また、同内容を会誌 61 巻 11 号に掲載した。
- ② 第 83 回全国大会でイベント企画「お届け Info」5 件を実施した。
- ③ 12 月 6 日に親子で情報処理技術に触れるオンラインワークショップ「電子手芸でクリスマス飾りを作ろう会 2020」を enPiT WiT 女性部会と共催した。

12.3 その他表彰等

(1) 顕彰、名誉会員・フェローの選定など

功績賞、学会活動貢献賞の贈呈のほか、フェロー認定、情報処理技術遺産認定を行った。詳細は付録 5 (p. 46, p. 49) に掲載する。

(2) 学会運営サポート

健全な法人運営のために、監査法人のほか弁護士、税理士、社労士、司法書士との顧問契約を継続している。

(3) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は 27 名（本部 20 名、規格 7 名、前年末は 27 名）である。

以上

付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

■総 会

[2020年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：132名

※総会成立定数：67名

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2020年度定時総会（ハイブ・リット開催） 2019年6月5日 議長：江村克己（会長） 出席：131名（内、委任状38名）	<決議事項> 第1号議案：2019年度に係る財務諸表等の件 第2号議案：新名誉会員の推薦の件 第3号議案：一部役員の任期満了による新役員の選任の件 <報告事項> 第1号報告：2020年度に係る計画等の件 第2号報告：会費滞納会員の取り扱いの件 <表彰報告（議事終了後）> 功績賞、フェロー論文賞、業績賞、研究開発賞、教材賞、学会活動貢献賞、感謝状、ほか	承認 承認 承認 報告 報告 ――

■理事会

[第645回までの構成（理事27名）]

会 長：江村克己

副 会 長：岡部寿男、中川八穂子

先任理事：川原圭博、楠 房子、倉本 到、栗原英俊、佐藤真一、高橋克己、田島 玲、寺田 努、中野美由紀、並木美太郎、平井規郎、湊 真一

後任理事：伊藤 智、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、清水佳奈、下條真司、高橋尚子、田中淳裕、長 健太、西垣正勝、西山博泰、本田新九郎

監 事：串田高幸、渡辺 尚

[第645回以降の構成（理事27名）]

会 長：江村克己

副 会 長：中川八穂子、萩谷昌己

先任理事：伊藤 智、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、清水佳奈、下條真司、高橋尚子、田中淳裕、長 健太、西垣正勝、西山博泰、本田新九郎

後任理事：井上創造、上原忠弘、鎌田真由美、岸野泰恵、高橋克己、辰巳丈夫、中小路久美代、中山泰一、西田知博、樋口 毅、松尾 豊、森嶋厚行

監 事：渡辺 尚、河内谷清久仁

※理事会成立定数：14名

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項 ※ [] 内：担当事務	会議の結果
決議の省略・報告の省略 2020年4月23日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2020年3月の新規入会申請[総務] 2. 2020年度終身会員の承認について[総務] 3. 支部運営委員会構成について[総務] 4. 領域委員会財務委員の交代について[調査研究] 5. シンポジウム等の開催願い/終了報告[調査研究] 6. Journal of Information Processing (JIP) 編集長の推薦について[論文誌] 7. (一社)データ流通推進協議会との連携について[技術応用] 8. 国内会議への協賛・後援願いについて[事業] 9. スーパーコンピュータコンテストへの共催申請および 寄付の扱い・運用要項(案)について[教育] 10. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2020年3月期開催会議[総務] 2. 2019年度功績賞受賞者：推薦文等[総務] 3. 第6回情報システム委員会議事録[総務] 4. 「高等学校共通教科情報科の大学入学共通テストでの実施に関する意見」提出について[総務] 5. 「数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラム ～データ思考の涵養～(案)」に対する意見提出についてご報告[総務] 6. 学会著作物の ICT 人材育成のためのオンライン教育での無償利用に関する表明文の公開 について[総務] 7. 第17回日本学術振興会賞の推薦について[総務] 8. 第254回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 9. 第70回情報処理学会教科書編集委員会議事録[会誌] 10. 2019年度第2回情報処理学会出版委員会実務書出版企画検討会議事録[会誌] 11. 第86回調査研究運営委員会議事録[調査研究] 12. トランザクション編集委員長の交代について[論文誌・調査研究] 13. 第469回論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会(幹事会)議事録抜粋 [論文誌] 14. 第25回技術応用運営委員会、第18回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録[技術応用]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認

	5. デジタルラテックス編集委員会の解散に伴う関連規定の改訂について[技術応用] 6. 国内会議への協賛・後援願いについて[事業] 7. 国際会議への協賛・後援願いについて[事業] 8. グローバルサイエンスキャンプ(GSC)「情報科学の達人」受託事業における手当支給規程(案)について[教育] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2020年6月期開催会議[総務] 2. 2020年度四半期損益管理表(6月分)[総務・財務] 3. 2020年度フェロ-およびマイクロソフト情報学研究賞選定手順等について[総務] 4. 第58回新世代企画委員会議事録[総務] 5. インター・就職情報の付録掲載について[会誌] 6. 第71回情報処理学会教科書編集委員会議事録[会誌] 7. 領域委員会報告(議事録抜粋)[調査研究] 8. IWSEC2020国際会議会場変更報告[調査研究] 9. 第26回技術応用運営委員会、第19回 IT フォラム推進委員会合同委員会議事録[技術応用] 10. 第69回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 11. 第119回デジタルラテックス編集委員会議事録[技術応用] 12. 2020年度全国大会運営委員会・第83回全国大会プログラム委員会第1回合同委員会議事録[事業] 13. 第74回FIT運営委員会議事録[事業] 14. FIT2020の開催について[事業] 15. 第78回プログラミングコンテスト委員会議事録[事業] 16. 情報処理教育委員会(2020-07-01開催2020年度第1回)議事録[教育] 17. 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)グローバルサイエンスキャンプ(GCS)「情報科学の達人」報告[事業] 18. 第378回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
決議の省略・報告の省略 2020年8月28日(監事確認日) 議決可能理事数: 全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2020年7月の新規入会申請[総務] 2. IT連盟との相互賛助会員化について[総務] 3. 学会SNS強度活用ワークingグループの設置について[総務] 4. IBM Community Japan との連携について[会誌] 5. 創立60周年記念論文について[論文誌] 6. 2020年度第1回CITP個人認証合格者承認依頼[技術応用] 7. 国内会議の協賛・後援等依頼[事業] 8. 国際会議の協賛・後援等依頼[事業] 9. CC2020に対する情報処理学会としての支持表明のお願い[教育] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2020年7月期開催会議[総務] 2. 2021年度役員・代表会員選挙日程[総務] 3. 第59回新世代企画委員会議事録[総務] 4. 第4回データサイエンティスト戦略委員会議事録[総務] 5. 第11回日本学術振興会育志賞の推薦について[総務] 6. 第257・258回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 7. WCGE2021国際会議開催延期報告[調査研究] 8. 第70回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 9. 第120回デジタルラテックス編集委員会議事録[技術応用] 10. 第64回資格制度運営委員会議事録[技術応用] 11. 第72回個人認証審査委員会議事録[技術応用] 12. 第64・65回企業認定審査委員会議事録[技術応用] 13. 2020年度全国大会運営委員会・第83回全国大会プログラム委員会第2回合同委員会議事録[事業] 14. 本会共催イベント「スバーコンピュータコンテスト」実施要項等の変更について[教育]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第648回理事会(オンライン開催) 2020年9月23日 議長: 江村克己(会長) 議決可能理事数: 全議案とも27名 出席理事数: 26名	<承認事項> 1. 創立60周年記念事業関係(創立60周年記念実行委員会)[総務] 2. 情報処理学会ウェビナーに関する提案書[企画] 3. 2020年教員割引キャンペーンの報告と提案について[教育] <審議事項> 1. 60周年記念会長宣言内容について[企画] <報告事項> 1. 理事の職務執行状況(6月~8月)[総務] 2. 2020年度会員状況(2020年8月現在)[総務] 3. 第194回総務財務運営委員会/第3・4回広報委員会議事録 付:臨時記念式典実施委員会議事録 4. 2020年度第5回企画政策委員会議事録[総務] 5. 12月役員検討会次第[総務] 6. 第259回会誌編集委員会議事録、モータ評価等[会誌] 7. 会誌への広告提供のお願い 付:会誌広告状況(2020年9月現在)[会誌] 8. 第83回全国大会スポンサー募集および Samurai Coding2020-21スポンサー募集のご支援について[事業] 参. 理事会アクションアイテムリスト	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

決議の省略・報告の省略 2020年9月25日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2020年8月の新規入会申請[総務] 2. 2021年度代表会員理事会推薦候補者(1次案)について[総務] 3. 2020年度シニア会員申請者の承認について[総務] 4. シンポジウム等の開催願い[調査研究] 5. 国内会議への協賛・後援願いについて[事業] 6. 令和2年委託契約「IoT相互運用性に関する国際標準化」締結承認申請[標準化] 7. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2020年8月期開催会議[総務] 2. 2020年度功績賞ならびに顕功賞選定手続きについて[総務] 3. 公益目的支出計画の実施完了の確認書(完了報告)[総務] 4. 第60回新世代企画委員会議事録[総務] 5. 第8回情報システム委員会議事録[総務] 6. ASP-DAG2021国際会議開催会場変更報告[調査研究] 7. 第473回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 8. 第27回トランザクション運営委員会議事録[論文誌・調査研究] 9. 第71回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 10. 第20回ITフォーラム推進委員会議事録[技術応用] 11. 第65・66回資格制度運営委員会議事録[技術応用] 12. 第66回企業認定審査委員会議事録[技術応用] 13. 第1・2回FIT2021船井業績賞選定委員会議事録[事業] 14. 第79回プログラミングコンテスト委員会議事録[事業] 15. 第379回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
決議の省略・報告の省略 2020年10月23日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2020年9月の新規入会申請[総務] 2. 「育児休業等に関する規則」、「介護休業等に関する規則」の改訂について [総務] 3. シンポジウム等の開催願い[調査研究] 4. 第84回全国大会 会場・会期・プログラム委員長・実行委員長(現地)について[事業] 5. 国内会議への協賛・後援等依頼[事業] 6. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2020年9月期開催会議[総務] 2. 2020年度四半期損益管理表(9月)[財務] 3. 期中監査報告(2020年9月)[総務] 4. 2021年度役員候補者推薦状況報告[総務] 5. 2020年度支部長会議事録 [総務] 6. 第61回新世代企画委員会議事録[総務] 7. 第21回デジタルコンテンツ事業検討委員会・第4回電子図書館対応検討WG合同委員会議事録 [総務] 8. 研究会の継続・名称変更について[調査研究] 9. 2021年度研究会登録費の算定について[調査研究] 10. 第88回調査研究運営・第81回コンピュータサイエンス領域・第80回情報環境領域・第80回マイティ知能情報領域合同委員会議事録[調査研究] 11. 第474回論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 12. 第121回デジタルプラクティス編集委員会議事録[技術応用] 13. 第68回電気科学技術奨励賞の結果報告[技術応用] 14. 第73回個人認証審査委員会議事録[技術応用] 15. 第67回企業認定審査委員会議事録[技術応用] 16. 第5回データサイエンティスト戦略委員会議事録[技術応用] 17. 第80回プログラミングコンテスト委員会議事録[事業] 18. 情報処理教育委員会(2020-09-15開催2020年度第2回)議事録[教育] 19. 第380回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第649回理事会(オンライン開催) 2020年11月20日 議長：江村克己(会長) 議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：24名	<承認事項> 1. 創立60周年記念事業関係(創立60周年記念実行委員会)[総務] 2. 2021年度理事会推薦役員候補者立候補依頼順位[総務] 3. 中長期視点に立った本会運営への提言について(中長期計画策定のための提案募集)[中長期戦略] 4. 事務局長の任期について[総務] <審議事項> 1. 2021年度予算編成方針/2021年度事業計画・予算・2020年度事業報告提出依頼[総務・財務] 2. 会長・副会長・各理事との座談会について[総務] <報告事項> 1. 新名誉会員・学会活動貢献賞ほか:推薦のお願い[総務] 2. 第195・196回総務財務運営委員会、第4-6回広報委員会議事録[総務] 3. 2020年度第6・7回企画政策委員会議事録[総務] 4. 第34回IFIP委員会議事録(国際)[調査研究] 5. 第26回技術応用運営委員会・第19回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 創立60周年記念事業

1.1 記念事業実行委員会

◎江村克己、○中川八穂子、○萩谷昌己、窪田 歩、樋口 毅、田中淳裕、上原忠弘、本田新九郎、松尾 豊、長 健太、中小路久美代、清水佳奈、井上創造、下條真司、岸野泰恵、東野輝夫、発田 弘

[7月22日、9月23日、11月20日] 記念事業全体の推進

1.2 記念会誌編集委員会（＝会誌編集委員会）

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田眞城子、△清水佳奈、△井上創造、江渡浩一郎、大石康智、大川徳之、太田智美、折田明子、川上 玲、楠 房子、須川賢洋、中島一彰、西川記史、堀井 洋、福地健太郎、坊農真弓、水野加寿代、山本ゆうか、湯村 翼

[4月15日、5月13日、6月10日、7月1日、8月19日、9月9日、10月7日、11月18日、12月16日、'20年1月15日、2月17日、3月2日]
記念会誌の企画・編集

1.3 記念論文選定委員会（＝論文誌担当理事、調査研究担当理事、各論文誌編集長）

◎湊 真一、谷口倫一郎、下條真司、屋代智之、倉本 到、西垣正勝、中山 泰一、柴山悦哉、棟朝雅晴、吉川正俊、建部修見、西田知博、竹中要一、高橋篤司、斎藤英雄、清原良三

[電子メールベース] 記念論文の企画・選考

1.4 60年のあゆみ編集委員会

◎東野輝夫、○岡部寿男、浅井光太郎、伊藤 智、柴山悦哉、寺田 努、中川八穂子、屋代智之

[5月22日] 60年のあゆみ編集の推進

1.5 記念出版委員会

◎発田 弘、△清水佳奈、旭 寛治、宇田 理、浦城恒雄、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄、小山 透、富高琢磨

[1月26日] 情報処理技術遺産とオーラルヒストリーの書籍化推進

1.6 記念式典実施委員会

◎中川八穂子、○萩谷昌己、○窪田 歩、○田中淳裕、樋口 毅、上原忠弘

[5月27日、6月18日、7月9日、8月28日、9月11日、10月15日、11月13日、12月8日] 記念式典開催の推進

1.7 記念事業総務財務委員会

◎中川八穂子、○萩谷昌己、窪田 歩、田中淳裕、樋口 毅、上原忠弘

[5月27日、6月18日、7月9日、8月28日、9月11日、10月15日、11月13日、12月8日] 記念式典開催の推進
記念事業の全体調整／予算執行管理／記念式典の企画立案

2. 法人運営

2.1 企画政策委員会

◎/△中川八穂子、○/△萩谷昌己、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、高橋尚子、田中淳裕、西垣正勝、本田新九郎、上原忠弘、鎌田真由美、高橋克巳、辰己丈夫、中山泰一、西田知博、樋口 毅、松尾 豊、森嶋厚行

[4月23日、5月27日、6月18日、7月9日、9月11日、10月15日、11月13日、12月8日、'21年1月15日、2月26日、3月17日]
監事付帯意見対応／アドバイザーボード対応／中長期戦略に関する検討／会員サービスに関する検討ほか

2.2 政策提言委員会

◎/△萩谷昌己、○/△本田新九郎、○/△松尾 豊、小野寺民也、窪田 歩、高橋克巳、田中淳裕、西垣正勝、西田知博、森嶋厚行

[電子メールベース] パブコメ対応 ほか

2.3 総務財務運営委員会（倫理委員会）

◎/△中川八穂子、○/△窪田 歩、○/△田中淳裕、△樋口 毅、△上原忠弘、△小野寺民也、△高橋克巳

[4月23日、5月27日、6月18日、7月9日、9月11日、10月15日、11月13日、12月8日、'21年1月15日、2月26日、3月17日]
総会関連事項／損益状況／研究倫理対応／その他運営上の諸課題の検討対応

2.3.1 本部・規格連絡会

◎中川八穂子、○/△伊藤 智、○田中淳裕、△上原忠弘、窪田 歩、樋口 毅、○関 喜一、伊藤雅樹、河内清人、河合和哉、田丸健三郎、福田昭一、山本英朗

〔'21年1月15日〕 本部・規格調査会間の連絡

2.4 情報システム委員会（電子化委員会より名称変更）

◎田中淳裕、○上原忠弘、窪田 歩、砂原秀樹、樋口 毅

〔5月13日、9月9日、11月10日、'21年1月27日、4月9日〕 情報システムに関する諸対応

2.4.1 セキュリティ委員会

◎砂原秀樹、△上原忠弘、大谷和子、△窪田 歩、佐々木良一、△田中淳裕、寺田真敏、鳥居 悟、△樋口 毅、丸山 宏

〔電子メールベース〕 情報セキュリティに関する諸対応

2.5 新世代企画委員会

◎鬼塚 真、○辰己丈夫、五十嵐悠紀、△小野寺民也、桂井麻里衣、△窪田 歩、樺 惇志、△清水佳奈、△高橋克巳、△田中淳裕、△長 健太、△西山博泰、村尾和哉

〔4月24日、5月29日、6月25日、7月30日、8月26日、10月2日、11月6日、12月11日、'21年1月15日、2月19日、3月24日〕
新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

2.6 Info-WorkPlace委員会

◎坊農真弓、△倉本 到、清水佳奈、井上創造、高橋尚子、中山泰一、長 健太、中小路久美代、西山博泰、鎌田真由美、伊東 香、大場みち子、小山清美、加藤由花、木塚あゆみ、楠 房子、永瀬美穂、中野美由紀、渡辺知恵美

〔6月23日、11月30日、'21年3月8日〕 働き方に関する取り組みを実施する

2.7 ジュニア会員活性化委員会（時限）

◎高橋尚子、○中山泰一、本田新九郎、松尾 豊、鬼塚 真、辰己丈夫、清水佳奈、井上創造、長 健太、中小路久美代、西山博泰、鎌田真由美、伊藤一成、兼宗 進、北村操代、杉田由美子、高岡詠子、吉田 葵、和田 勉、中野由章

〔7月1日、9月8日ML、12月8日、'21年2月26日〕 ジュニア会員向け活動の活性化

2.8 データサイエンティスト戦略委員会（時限）

◎中川八穂子、○萩谷昌己、浅井光太郎、旭 寛治、掛下哲郎、加藤 浩、鎌田真由美、高橋尚子、中山泰一、西 直樹、西山博泰、松尾 豊、松永賢次、*高橋克巳

〔4月30日、6月15日、8月11日、9月17日、11月12日、'21年1月13日、3月18日〕
データサイエンティスト領域における当会の活動についての基本方針策定

2.9 支部長会議

◎/△江村克己、△中川八穂子、△萩谷昌己、△窪田 歩、△田中淳裕、△樋口 毅、△上原忠弘、
各支部長：杉本雅則（北海道）、篠原 歩（東北）、間瀬健二（東海）、堀田裕弘（北陸）、増澤利光（関西）、會澤邦夫（中国）、安藤一秋（四国）、梅田政信（九州）

〔9月23日、12月11日（役員検討会）〕 本部-支部の意見交換

2.10 アドバイザリーボード

◎永井良三、有川節夫、稲田修一、鶴飼 佑、宇治則孝、小原 格、喜多羅慈夫、辻 篤子、鳥居高之、藤原 洋

〔11月2日〕 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

3. 調査研究活動

3.1 調査研究運営委員会

◎/△西垣正勝、○/△西田知博、○/△森嶋厚行、石川佳治、清原良三、小林 稔、酒井哲也、長原 一、廣津登志夫

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2020年6月17日	1. 2020年度委員構成確認 2. 今後の研究発表会の開催について 3. 2021年度調査研究活動への学会補助額について 4. 2021年度共通費の賦課について 5. 2021年度シンポジウム事務諸費について 5. シンポジウム開催申請・終了報告について 6. 退任主査への貢献賞の授与について	確認 確認⇒ 各領域・研究会に報告 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 確認
2020年10月8日 (調研・3領域合同)	1. 研究会グループの継続について 2. 2021年度研究会登録費算定方法 3. 研究会の継続・新設について 4. 研究会のハイブリッド開催について	承認 承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会報告 確認
2021年3月16日	1. FITの改革について 2. 情報保障への補助について 3. 情報学の次世代検討会について 4. 全国大会の開催地候補について 5. 事業報告／事業計画 6. 2020年度活動状況／2021年度計画 7. 第34回IFIP委員会報告 8. 第34回IFIP委員会報告	審議 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認

3.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△森嶋厚行、○廣津登志夫、天笠俊之、井上弘士、今井 浩、岩下武史、光来健一、定兼邦彦、関嶋政和、田中清史、中野圭介、中村祐一、丸山勝久

2020年7月7日	領域共通-1. 2020年度山下記念研究賞 領域共通-2. 今後の研究発表会の開催について 領域共通-3. 2021年度調査研究活動への学会補助額について 領域共通-4. 2021年度共通費の賦課について 領域共通-5. 2021年度シンポジウム事務諸費について 領域共通-6. 2019年度調査研究活動状況および決算報告	選定⇒ 理事会提案 確認 承認 承認 承認 確認
2020年10月8日 (調研・3領域合同)	調査研究運営委員会に同じ。	
2021年3月4日	領域共通-1. 情報学の次世代検討会について 領域共通-2. 全国大会の開催地候補について 領域共通-3. 2021年度領域委員長・財務委員について 領域共通-4. 事業報告／事業計画 領域共通-5. 2020年度活動状況／2021年度計画 領域共通-6. 第34回IFIP委員会報告 領域共通-7. 研究会活動貢献賞について	確認 確認 確認・承認 確認 確認 確認 確認

3.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△西垣正勝、○清原良三、秋元良仁、阿倍博信、井上創造、太田 賢、金岡 晃、木村朝子、斉藤典明、重野 寛、田上敦士、内藤 整、難波英嗣、畑山満則、松浦 博、宮下健輔、森信一郎、山内利宏

[7月3日、10月8日(調研・3領域合同)、『21年3月3日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△西田知博、○長原一、大倉和博、緒方広明、兼宗 進、北岡教英、倉田博之、澤田秀之、鹿内菜穂、関根 聡、鶴岡慶雅、土橋宜典、中野倫靖、原田要之助、藤吉弘亘、水口 充

[7月8日、10月8日(調研・3領域合同)、『21年3月1日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

4. 人材育成活動

4.1 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎西 直樹、○吉野松樹、△西山博泰、△鎌田真由美、旭 寛治、掛下哲郎、笥 捷彦、玉井哲雄、林 雅弘、深澤良彰

[4月23日、5月20日、6月22日、7月30日、9月4日、10月5日、11月9日、12月14日、'21年1月19日、2月18日、3月16日]
認定情報技術者制度の検討

4.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎松永賢次、●角田博保、○稲垣知宏、△高橋尚子、△中山泰一、石川 洋、上松恵理子、笥 捷彦、掛下哲郎、加藤 浩、兼宗 進、喜多 一、久野 靖、斎藤俊則、酒森 潔、佐藤真一、佐渡一広、高岡詠子、高田真吾、辰巳丈夫、寺元貴幸、長尾和彦、中谷多哉子、中野 由章、*萩谷昌己、*坂東宏和、松澤芳昭、美馬のゆり、湯瀬裕昭、*鷺崎弘宜、和田 勉

[5月13日、7月1日、9月15日、'21年1月25日、3月15日]

JABEE対応／情報学分野の参照基準／次期学習指導要領改訂／免許更新講習／傘下の小委員会報告ほか

5. 事業活動

5.1 事業運営委員会

◎/△長 健太、●/△中小路久美代、森嶋厚行

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

5.2 全国大会運営委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎萩谷昌己、●/△長 健太、△中小路久美代、西垣正勝、東野輝夫、鬼塚 真

[7月6日、8月17日、11月24日ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

5.3 FIT運営委員会 ※実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎佐藤洋一、●中川八穂子、○西垣正勝、萩谷昌己、△長 健太、△中小路久美代、柏野邦夫、佐藤真一、椿 郁子、河村 圭、寺尾 真、小松佑人、間瀬健二、瀬古俊一

[4月30日、6月29日、11月9日、12月9日ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

5.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎横山大作、大島 聡、新屋良磨、三廻部 大、八木原勇太、渡辺勇士

[5月14日、8月21日、10月16日、12月17日、'21年2月18日] 夏のプロシン／若手の会／冬のプロシンの開催推進

5.5 プログラミングコンテスト委員会

◎横山大作、●平石 拓、*鷺崎弘宜、△長 健太、△松尾 豊、近山 隆、深澤紀子、坂本一憲、高田真吾、小林祐樹、河内谷清久仁、三輪 誠

[7月13日、8月24日、9月28日、11月9日、12月7日、'21年2月4日、3月13日]

プログラミングコンテストの開催推進

5.6 技術応用運営委員会

◎浅井光太郎、○中川八穂子、○/△西山 博泰、△鎌田真由美、樋口 毅、上原 忠弘、松尾 豊、吉野 松樹、旭 寛治、西 直樹、高橋 克巳

[7月20日、12月10日、'21年3月5日 ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

5.7 ITプロフェッショナル委員会（高度IT資格関連WGの活動により休眠）

◎旭 寛治、△窪田 歩、△西山博泰、笥 捷彦、掛下哲郎、西 直樹、林 雅弘、深澤良彰

[電子メールベース] 情報処理技術者のプロフェッションの確立と人材育成

5.8 セミナー推進委員会

◎/△西山博泰、○/△鎌田真由美、田島玲、荒木拓也、北村操代、那須川哲哉、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、杉田由美子、平山敏弘、福島俊一、青木秀一、吉田 葵、稲葉利江子

[4月7日、5月21日、6月30日、7月27日、9月11日、10月16日、11月16日、12月18日、'21年1月22日、2月25日、3月]

連続セミナー・短期集中セミナーの開催推進

5.9 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎/△西山 博泰、○/△鎌田真由美、諏訪良武、河合 洋、浜本 拓、河口信夫

[7月20日、9月9日、12月10日、'21年3月5日 ほか電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

6. 会誌

6.1 会誌編集委員会

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田真城子、△清水佳奈、△井上創造、江渡浩一郎、大石康智、大川徳之、太田智美、折田明子、川上 玲、楠 房子、須川賢洋、中島一彰、西川記史、堀井 洋、福地健太郎、坊農真弓、水野加寿代、山本ゆうか、湯村 翼、樺 惇志、坂東宏和、袖 美樹子、河原 亮、高木拓也、金子 格、細野 繁

[4月13日、5月13日、6月22日、7月28日、8月12日、9月7日、10月23日、11月20日、12月7日、'21年1月22日、2月19日、3月5日]

全回共通：会誌の編集刊行

7. 機関誌／出版活動

7.1 論文誌運営委員会

◎/△下條真司、△岸野泰恵、△西垣正勝、△西田知博、△森嶋厚行

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

7.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎湊 真一、○/△下條真司、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ

*Adam KOZYNIAK、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Sylvain KAMDEM

[海外編集委員] Audun JOSANG（ノルウェー）、Jungsuk SONG（韓国）、M.M. Hafizur Rahman（マレーシア）、Raymond WAI-MAN PANG（香港）

[4月8日、5月12日、6月1日、7月7日、9月10日、10月6日、11月5日、12月1日、'21年1月12日、2月2日、3月2日]

全回共通：JIPの編集刊行

7.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎浅井信吉、○/△岸野泰恵、○市野将嗣、○片山 薫、○末代誠仁、○中嶋秀治、阿倍博信、伊原彰紀、大野正樹、北原鉄朗、里田浩三、和佐州洋、手塚 伸、山田太造

[4月8日、5月12日、6月1日、7月7日、9月10日、10月6日、11月5日、12月1日、'21年1月12日、2月2日、3月2日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

7.4 トランザクション運営委員会

◎/△下條真司、湊 真一、小川剛史、梶田将司、清原良三、倉田博之、斎藤英雄、高橋篤司、建部修見、中野圭介、灘本明代、難波英嗣、棟朝雅晴、吉川正俊、吉野松樹

[8月19日、11月20日] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

7.5 デジタルプラクティス編集委員会

◎吉野松樹、●藤瀬哲朗、●細野 繁、青木学聡、荒木拓也、飯村結香子、石井一夫、今原修一郎、江谷典子、大嶋 嘉人、鬼塚 真、上條浩一、斎藤彰宏、坂下 秀、佐藤 聡、佐藤裕一、澤谷由里子、澤邊知子、立床雅司、新田 清、浜 直史、濱崎雅弘、平井千秋、藤原一毅、横井直明

[4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、9月28日、10月19日、11月16日、12月21日、'21年1月18日、2月18日、3月15日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

7.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△萩谷昌己、○窪田 歩、安達 淳、△清水佳奈、△田中淳裕、△下條真司、△西山博泰、△長 健太、水野慎士、△森嶋厚行

[7月16日、9月18日] デジタルコンテンツ事業の推進

7.7 出版委員会

△清水佳奈、△井上創造、金子 格、嶋田義皓、阪田史郎

[12月28日] 実務書の出版企画に関する検討

7.7.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△清水佳奈、△井上創造、駒谷昇一、辰己丈夫、田名部元成、中島 毅、山本里枝子、沼尾雅之、石井一夫、斎藤典明

[7月3日、10月2日、12月23日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

7.8 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎発田 弘、○旭 寛治、△清水佳奈、△井上創造、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[電子メールベース]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

7.9 著作権委員会

◎△清水佳奈、●△井上創造、天野真家、大谷和子、岸野 泰恵、窪田 歩、下條 真司、西垣 正勝、西田 知博、西山 博泰、森嶋 厚行

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

8. 標準化活動

8.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、○河合和哉、○関 喜一、△上原忠弘、山本英朗、田丸健三郎、伊藤雅樹、福田昭一、
落合真一（～6月）／河内清人（7月～）、* 中野宏和（～6月）／柳澤智也（7月～）

[4月7日、5月12日、6月16日、7月14日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、'21年1月19日、2月16日、3月16日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

9. 国際活動

9.1 IFIP委員会

☆相田 仁、◎/△西垣正勝、○/△森嶋厚行、○/△西田知博、廣川 直、五十嵐淳、斎藤俊則、村山優子、張 勇兵、内木哲也、
小向太郎、金川信康、越前 功、栗原 聡、北村喜文、星野准一、掛下哲郎

[11月11日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2021meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
[コンピュータサイエンス領域]		
データベースシステム（DBS）	天笠俊之（41）	367
ソフトウェア工学（SE）	丸山勝久（41）	425
システム・アーキテクチャ（ARC）	井上弘士（27）	258
システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS）	光来健一（28）	227
システムとLSIの設計技術（SLDM）	中村祐一（29）	201
ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）	岩下武史（38）	430
プログラミング（PRO）	中野圭介（25）	259
アルゴリズム（AL）	定兼邦彦（23）	169
数理モデル化と問題解決（MPS）	関嶋政和（24）	233
組込みシステム（EMB）	田中清史（25）	193
量子ソフトウェア（QS）	今井 浩（19）	111
[情報環境領域]		
マルチメディア通信と分散処理（DPS）	田上敦士（38）	262
ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）	木村朝子（32）	370
情報システムと社会環境（IS）	畑山満則（20）	165
情報基礎とアクセス技術（IFAT）	難波英嗣（8）	105
オーディオビジュアル複合情報処理（AVM）	内藤 整（11）	44
グループウェアとネットワークサービス（GN）	斉藤典明（33）	188
ドキュメントコミュニケーション（DC）	秋元良仁（9）	58
モバイルコンピューティングとパーベシブシステム（MBL）	太田 賢（45）	206
コンピュータセキュリティ（CSEC）	山内利宏（50）	554
高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS）	重野 寛（23）	131
ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）	井上創造（40）	202
インターネットと運用技術（IOT）	宮下健輔（48）	381
セキュリティ心理学とトラスト（SPT）	金岡 晃（16）	105
コンシューマ・デバイス&システム（CDS）	森信一郎（35）	184
デジタルコンテンツクリエイション（DCC）	阿倍博信（19）	94
高齢社会デザイン（ASD）	松浦 博（23）	80
[メディア知能情報領域]		
自然言語処理（NL）	関根 聡（29）	388
知能システム（ICS）	大倉和博（5）	150
コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	藤吉弘亘（54）	472
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG）	土橋宜典（30）	197
コンピュータと教育（CE）	兼宗 進（45）	517
人文科学とコンピュータ（CH）	鹿内菜穂（28）	228
音楽情報科学（MUS）	中野倫靖（29）	278
音声言語情報処理（SLP）	北岡教英（25）	179
電子化知的財産・社会基盤（EIP）	原田要之助（14）	101
ゲーム情報学（GI）	鶴岡慶雅（27）	198
エンタテインメントコンピューティング（EC）	水口 充（22）	154
バイオ情報学（BIO）	倉田博之（14）	97
教育学習支援情報システム（GLE）	緒方広明（22）	185
アクセシビリティ（AAC）	澤田秀之（16）	66
*ネットワーク生態学（NE）	鳥海不二夫（--）	---
*会員の力を社会につなげる（SSR）	寛 捷彦（--）	---
*情報処理に関する法的問題（LIP）	高岡詠子（--）	---
[調査研究運営委員会]		
*ビッグデータ解析のビジネス実務利活用（PBD）	石井一夫（--）	---
*オープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ（RDM）	山地一禎（--）	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第171回	2020年9月5日	オンライン開催	7	54	電子情報通信学会
第172回	2020年12月21日～22日	オンライン開催	16	32	電子情報通信学会

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第205回	2020年7月2日	オンライン開催	11	75	電子情報通信学会
第206回	2020年11月27日	オンライン開催	14	57	
第207回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	42	119	

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第233回	2020年7月30日～31日	オンライン開催	22	76	電子情報通信学会
第234回	2020年10月12日	オンライン開催	11	79	電子情報通信学会
第235回	2021年1月25日～26日	オンライン開催	32	27	電子情報通信学会
第236回	2021年3月25日～26日	オンライン開催	48	40	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第149回	2020年5月28日	オンライン開催	8	36	
第150回	2020年7月30日～31日	オンライン開催	15	83	
第151回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	13	47	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第192回	2020年11月17日～18日	オンライン開催	31	31	電子情報通信学会
第193回	2021年1月25日～26日	オンライン開催	32	23	電子情報通信学会
第194回	2021年3月25日～26日	オンライン開催	48	17	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第174回	2020年5月12日～13日	オンライン開催	12	95	
第175回	2020年7月30日～31日	オンライン開催	25	169	
第176回	2020年9月25日	オンライン開催	8	68	
第177回	2020年12月21日～22日	オンライン開催	24	131	
第178回	2021年3月15日～16日	オンライン開催	24	105	

1.1.7 プログラミング研究発表会

第129回	2020年6月1日～2日	オンライン開催	5	66	
第130回	2020年7月30日～31日	オンライン開催	9	91	
第131回	2020年10月29日～30日	オンライン開催	11	65	
第132回	2021年1月13日～14日	オンライン開催	8	64	
第133回	2021年3月16日～17日	オンライン開催	9	84	

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第178回	2020年5月9日	オンライン開催	14	68	電子情報通信学会
第179回	2020年9月1日～2日	オンライン開催	13	17	電子情報通信学会
第180回	2020年11月25日～26日	オンライン開催	23	26	電子情報通信学会
第181回	2021年1月28日～29日	オンライン開催	5	19	併催：人工知能学会
第182回	2021年3月17日	オンライン開催	12	38	

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第128回	2020年6月29日	オンライン開催	11	7	電子情報通信学会
第129回	2020年7月27日	－	10	0	※海外で国際会議と併催予定だったが開催中止
第130回	2020年9月29日	オンライン開催	8	28	
第131回	2020年12月17日～18日	オンライン開催	28	51	
第132回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	23	42	

1.1.10 組込みシステム研究発表会

第54回	2020年6月26日	オンライン開催	5	19	
第55回	2020年12月1日	オンライン開催	9	25	
第56回	2021年3月25日～26日	オンライン開催	48	30	電子情報通信学会

1.1.11 量子ソフトウェア研究発表会

第1回	2020年10月16日	オンライン開催	26	124	
第2回	2021年3月29日	オンライン開催	23	106	

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第183回	2020年5月28日～29日	オンライン開催	6	52	電子情報通信学会
第184回	2020年9月10日～11日	松江勤労者総合福祉センタ開催 /オンライン開催	22	37	
第185回	2020年12月21日～22日	イイテラス/オンライン開催	17	39	
第186回	2021年3月15日～16日	オンライン開催	73	62	

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第188回	2020年6月1日～2日	オンライン開催	32	128	電子情報通信学会/日本バーチャリティ学会/ ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第189回	2020年9月7日～8日	オンライン開催	19	56	
第190回	2020年12月8日～9日	夢舞台淡路国際会議場/オンライン開催	27	41	
第191回	2021年1月28日～29日	オンライン開催	22	60	
第192回	2021年3月15日～16日	オンライン開催	40	84	

1.2.3 情報システムと社会環境研究発表会

第152回	2020年6月6日	オンライン開催	8	42	
第153回	2020年8月22日	オンライン開催	4	21	
第154回	2020年12月12日	オンライン開催	13	35	
第155回	2021年3月8日～9日	オンライン開催	15	40	

1.2.4 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第139回	2020年7月31日	オンライン開催	8	77	
第140回	2020年9月5日	オンライン開催	7	33	電子情報通信学会
第141回	2021年2月13日	オンライン開催	3	10	
第142回	2021年3月26日	オンライン開催	13	19	

1.2.5 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第109回	2020年6月3日～4日	オンライン開催	12	3	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第110回	2020年9月1日～2日	オンライン開催	13	2	電子情報通信学会/電気学会/ 映像情報メディア学会
第111回	2020年11月26日～27日	オンライン開催	15	14	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第112回	2021年2月26日	オンライン開催	11	17	

1.2.6 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第111回	2020年5月14日	オンライン開催	5	53	電子情報通信学会
第112回	2021年1月25日～26日	オンライン開催	39	47	
第113回	2021年3月15日～16日	オンライン開催	17	39	

1.2.7 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第117回	2020年7月10日	オンライン開催	7	22	電子情報通信学会
第118回	2020年10月2日	オンライン開催	3	8	
第119回	2020年12月11日	オンライン開催	4	10	
第120回	2021年3月26日	オンライン開催	13	9	

1.2.8 モバイルコンピューティングとパーベシブシステム研究発表会

第95回	2020年5月28日～29日	オンライン開催	6	52	電子情報通信学会
第96回	2020年9月29日～30日	オンライン開催	33	114	
第97回	2020年11月24日～25日	オンライン開催	24	54	
第98回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	30	23	電子情報通信学会

1.2.9 コンピュータセキュリティ研究発表会

第89回	2020年5月14日～15日	オンライン開催	21	143	電子情報通信学会
第90回	2020年7月20日～21日	オンライン開催	34	50	電子情報通信学会
第91回	2020年11月25日～26日	オンライン開催	37	74	
第92回	2021年3月15日～16日	オンライン開催	73	107	

1.2.10 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第81回	2020年5月28日～29日	オンライン開催	6	52	電子情報通信学会
第82回	2020年9月8日	オンライン開催	6	10	電子情報通信学会/電気学会
第83回	2020年11月24日～25日	オンライン開催	24	54	
第84回	2021年3月4日	金沢港ターミナル/オンライン	7	24	

1.2.11 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第66回	2020年5月25日	オンライン開催	13	58	
第67回	2020年9月29日～30日	オンライン開催	33	114	
第68回	2020年12月8日～9日	淡路夢舞台国際会議場/オンライン	27	38	
第69回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	30	44	電子情報通信学会

1.2.12 インターネットと運用技術研究発表会

第49回	2020年5月14日～15日	オンライン開催	21	143	電子情報通信学会
第50回	2020年7月10日	オンライン開催	10	94	
第51回	2020年9月3日～4日	オンライン開催	12	92	
第52回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	35	153	電子情報通信学会

1.2.13 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第37回	2020年5月14日	オンライン開催	5	53	電子情報通信学会
第38回	2020年7月20日～21日	オンライン開催	34	67	電子情報通信学会
第39回	2020年9月3日～4日	オンライン開催	12	92	
第40回	2020年11月25日～26日	オンライン開催	37	48	
第41回	2021年3月1日～2日	オンライン開催	49	47	電子情報通信学会

1.2.14 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第28回	2020年9月29日～30日	オンライン開催	33	114	
第29回	2020年12月3日～4日	オンライン開催	10	34	
第30回	2021年1月25日～26日	オンライン開催	39	46	

1.2.15 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第25回	2020年5月27日	オンライン開催	5	27	
第26回	2020年11月5日～6日	オンライン開催	29	46	
第27回	2021年1月25日～26日	オンライン開催	39	28	

1.2.16 高齢社会デザイン研究発表会

第18回	2020年7月30日	オンライン開催	4	22	
第19回	2020年9月29日～30日	オンライン開催	33	114	
第20回	2021年3月5日	オンライン開催	8	28	

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第244回	2020年7月3日	オンライン開催	6	64	
第245回	2020年9月30日	オンライン開催	6	38	
第246回	2020年12月2日～3日	オンライン開催	38	96	
第247回	2021年3月3日	オンライン開催	6	63	

1.3.2 知能システム研究発表会

第200回	2020年9月14日～16日	オンライン開催	13	33	日本ソフトウェア科学会/人工知能学会
第201回	2021年3月9日	オンライン開催	5	7	
第202回	2021年3月29日	オンライン開催	9	14	

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第222回	2020年5月14日～15日	オンライン開催	42	96	電子情報通信学会
第223回	2020年11月5日～6日	オンライン開催	29	56	
第224回	2021年1月21日～22日	オンライン開催	24	100	電子情報通信学会/バーチャリアリティ学会
第225回	2021年3月4日～5日	オンライン開催	50	45	電子情報通信学会

1.3.4 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第178回	2020年6月25日	オンライン開催	15	57	
第179回	2020年9月19日	オンライン開催	7	36	
第180回	2020年11月5日～6日	オンライン開催	29	53	
第181回	2021年2月16日～17日	オンライン開催	12	45	

1.3.5 コンピュータと教育研究発表会

第155回	2020年6月6日	オンライン開催	11	82	
第156回	2020年8月29日	オンライン開催	9	77	
第157回	2020年11月7日	オンライン開催	15	59	
第158回	2021年2月13日～14日	オンライン開催	13	147	
第159回	2021年3月13日～14日	オンライン開催	30	112	

1.3.6 人文科学とコンピュータ研究発表会

第123回	2020年6月6日	オンライン開催	6	46	
第124回	2020年9月5日	オンライン開催	5	39	
第125回	2021年2月13日	オンライン開催	10	54	

1.3.7 音楽情報科学研究発表会

第127回	2020年6月6日～7日	オンライン開催	39	243	電子情報通信学会
第128回	2020年8月24日～25日	オンライン開催	14	79	
第129回	2020年11月2日～3日	オンライン開催	20	56	
第130回	2021年3月16日～17日	オンライン開催	45	83	

1.3.8 音声言語情報処理研究発表会

第132回	2020年6月6日～7日	オンライン開催	39	201	電子情報通信学会
第133回	2020年10月22日～23日	オンライン開催	16	22	電子情報通信学会
第134回	2020年12月2日～3日	オンライン開催	38	79	
第135回	2021年2月18日	オンライン開催	6	60	協賛：電子情報通信学会
第136回	2021年3月3日～4日	オンライン開催	39	23	電子情報通信学会

1.3.9 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第88回	2020年6月4日～5日	オンライン開催	19	41	電子情報通信学会
第89回	2020年9月10日～11日	松江勤労者総合福祉センタ/オンライン	22	27	
第90回	2020年11月25日～26日	オンライン開催	37	59	
第91回	2021年2月19日	オンライン開催	12	39	

1.3.10 ゲーム情報学研究発表会

第44回	2020年6月27日	オンライン開催	11	51	
第45回	2021年3月5日	オンライン開催	16	60	

1.3.11 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第56回	2020年6月1日～2日	オンライン開催	32	128	電子情報通信学会/日本バーチャルリアリティ学会/ ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第57回	2020年12月1日	オンライン開催	2	11	
第58回	2020年12月11日	オンライン開催	2	12	
第59回	2021年3月16日～17日	オンライン開催	45	56	

1.3.12 バイオ情報学研究発表会

第62回	2020年6月29日	オンライン開催	11	16	電子情報通信学会
第63回	2020年9月4日	オンライン開催	3	9	
第64回	2020年12月7日	オンライン開催	11	17	
第65回	2021年3月11日	オンライン開催	10	20	

1.3.13 教育学習支援情報システム研究発表会

第31回	2020年5月30日	オンライン開催	6	46	
第32回	2020年11月27日～28日	オンライン開催	12	47	
第33回	2021年3月25日～26日	東京大学/オンライン	24	72	

1.3.14 アクセシビリティ研究発表会

第13回	2020年8月28日～29日	オンライン開催	7	33	
第14回	2020年12月4日～5日	オンライン開催	7	36	
第15回	2021年3月5日～6日	オンライン開催	19	34	電子情報通信学会

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO 2020)シンポジウム (DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2020年6月24日～26日	オンライン開催	230	410
cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programming (xSIG2020) (ARC, OS, HPC, PRO)	2020年7月29日	オンライン開催	13	174
エンタテインメントコンピューティング2020 (EC)	2020年8月29日～31日	オンライン開催	45	160
DAシンポジウム2020 (SLDM)	2020年9月7日～9日	オンライン開催	32	127
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (SES2020) (SE)	2020年9月10日～12日	オンライン開催	66	333
量子ソフトウェア研究会発足記念講演会「量子コンピュータ最前線」(QS)	2020年10月15日	オンライン開催	10	189
コンピュータセキュリティシンポジウム2020 (GSS2020) (CSEC, SPT)	2020年10月26日～29日	オンライン開催	194	758
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2020) (EMB)	2020年11月9日～10日	オンライン開催	26	91
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2020年11月11日～13日	ホテル暖香園/伊東市観光会館/オンライン開催	42	78
ゲームプログラミングワークショップ (GPW2020) (GI)	2020年11月13日～15日	オンライン開催	31	116
グループウェアとネットワークサービスワークショップ2020 (GN)	2020年11月20日	オンライン開催	12	50
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2020) (OS)	2020年12月1日～2日	オンライン開催	40	113
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2020) (IOT)	2020年12月3日～4日	オンライン開催	27	101
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2020) (CH)	2020年12月12日～13日	オンライン開催	44	135
高齢社会デザイン研究会シンポジウム	2020年12月3日	オンライン開催	7	136
情報教育シンポジウム (SSS2020) (GE, GLE)	2020年12月19日～20日	オンライン開催	42	143
災害コミュニケーションシンポジウム (IS, IOT, SPT)	2020年12月25日	オンライン開催	18	29
ITS研究フォーラム (ITS)	2021年1月22日	オンライン開催	6	286
インタラクション2021 (HCI, GN, UBI, DCC, EC)	2021年3月10日～12日	オンライン開催	191	543

2.2 教育活動分

バーチャル情報入試シンポジウム2020春 on YouTube Live ーバーチャルニューシン2020ー	2020年5月16日	オンライン開催 (YouTube Live)	4	317
高校生のためのコンピュータサイエンスオンラインセッション2020	2020年8月3, 6, 7日	オンライン開催 (YouTube Live)	6	3,684
高校教科「情報」シンポジウム2020秋ージョーシン2020秋ー	2020年10月31日	オンライン開催 (YouTube Live)	4	252

3. 事業活動

3.1 全国大会 *コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止 (オンライン開催)

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第83回全国大会	2021年3月18日～20日	オンライン開催	1,164	4	3,486

3.2 FIT (情報科学技術フォーラム) *コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止 (オンライン開催)

FIT2020 第19回情報科学技術フォーラム	2020年9月1日～3日	オンライン開催	383	1	2,036
-------------------------	--------------	---------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会 (情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)

3.3 連続セミナー2020：テーマ「人間中心社会を支える情報技術の新潮流」

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
IoTやAIを支えるデータ流通基盤	2020年10月13日	オンライン開催	6	61
人工知能技術と人間の思考・感性	2020年10月26日	オンライン開催	4	56
AI技術の産業応用：現在と未来	2020年11月11日	オンライン開催	5	67
ブロックチェーンの社会実装とそのインパクト	2020年11月20日	オンライン開催	5	56
実世界のインタラクションを支えるファブリケーションとアクチュエーション技術	2020年12月2日	オンライン開催	5	38
量子コンピュータとソフトウェア	2020年12月14日	オンライン開催	5	68

※協賛：モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、照明学会、人工知能学会、情報サービス産業協会、インターネット協会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、電気学会、電子情報技術産業協会、新世代M2Mコンソーシアム、情報通信技術委員会

3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
DX時代のITガバナンスとITサービスマネジメント～国際標準化への取り組み～	2021年2月5日	オンライン開催	6	110	※1, 2, 3

※1) 主催：情報処理学会、情報処理学会 情報規格調査会

※2) 後援：日本規格協会、ISACA東京支部、特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

※3) 協賛：システム監査学会、特定非営利活動法人日本システム監査人協会、ISACA大阪支部、ISACA名古屋支部、ISACA福岡支部、日本セキュリティ・マネジメント学会、特定非営利活動法人 itSMF Japan、PMI日本支部、情報セキュリティ大学院大学、日本科学技術連盟、日本情報経済社会推進協会、公益社団法人日本技術士会、電子情報通信学会、電気学会、映像情報メディア学会、照明学会

新生SC 29によるJPEG/MPEG標準化最新動向 ～機械学習応用・実用化技術・将来像も交えて～	2021年2月12日	オンライン開催	13	47	※1, 2
--	------------	---------	----	----	-------

※1) 主催：情報処理学会、情報処理学会 情報規格調査会

※2) 協賛：照明学会、電子情報通信学会、電子情報技術産業協会、ビジネス機械・情報システム産業協会、映像情報メディア学会、電気学会、IEEE Japan Council

3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2020	2020年9月25日～26日	オンライン開催	2	20
第53回情報科学若手の会	2020年9月26日	オンライン開催	6	265
第62回プログラミング・シンポジウム	2021年1月8日～9日	オンライン開催	12	77

3.6 IPSJ International AI Programming Contest

*コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン審査）

名称	開催年月	場所	チーム数	参加数	備考
Samurai Coding 2020-21 (Final Round)	2021年3月19日	オンライン開催	16		※

※) 協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、日本情報システム・ユーザー協会、情報科学国際交流財団、IEEE Computer Society、IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter、IEEE Japan Office、The Korean Institute of Information Scientists and Engineers、China Computer Federation

後援：文部科学省、総務省、経済産業省、情報処理推進機構

ゴールドスポンサー：いい生活、日立製作所、野村ホールディングス

サポーター：日本レジストリサービス、富士通、ナレッジクリエーションテクノロジー

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム（4件）

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
コンタクトセンター	河合 洋
CITP	浜本 拓
勉強会	河口信夫

4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITフォーラム2021	2021年2月3日	オンライン		405	※1, 2

※1) スポンサー：8口

※2) ITフォーラム3件（他団体連携1件（AITC））を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2020（11月21日、オンライン開催） 演題数65件、参加者数140名

5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月10日、書面） 演題数18件、参加者85名
- ・支部研究会 7回（12月7-8日、12月11日、12月26日、'21年1月23日、1月23日、2月18日、3月9日）*オンライン開催
- ・支部講演会 1回（11月9日）*オンライン開催

5.3 東海支部

- ・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月3日-4日、オンライン開催） 演題数347件、参加者数 619名
- ・講演会 6回（9月3日、9月3日、9月4日、10月15日、11月24日、'21年1月28日）
- ・研究会 4回（協賛等）
- ・学生研究発表助成 2件

5.4 北陸支部

- ・電気関係学会北陸支部連合大会（9月13日、オンライン開催） 演題数189件
- ・支部セミナー 全6回（協力）

5.5 関西支部

- ・関西支部支部大会（9月20日、オンライン開催）発表94件
- ・支部研究会：
 - グリーンコンピューティング・組込みコンピューティング研究会（9月20日）
 - 社会と環境のエージェント知能研究会（9月20日）
 - ネットワークサービス研究会（9月20日）
 - 行動変容と社会システム研究会（9月20日）
 - プログラミング・情報教育研究会（9月20日）
- ・支部セミナー 2回（9月30日、11月14日）
- ・講演会 1回（11月20日）*オンライン開催

5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月24日、オンライン開催） 演題数205件、参加者数426名
- ・講演会 5回（9月18日、12月18日、1月7日、'21年2月5日、3月4日）
- ・講習会 1回（11月20日）

5.7 四国支部

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月26日、論文公知） 論文数168名
- ・共催事業 3回（9月17-18日、11月6日、'21年2月6日）*オンライン開催
- ・講演会 2回（'21年1月25日、2月1日）*オンライン開催

5.8 九州支部

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月26-27日、オンライン開催） 聴講者数550名
- ・火の国情報シンポジウム（'21年3月1-2日、オンライン開催）
- ・講演会等 3回（10月31日、11月16-20日、11月20日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数	本文頁数	広告頁数
2020年4月15日	61	5	2050年の情報処理	40	115	6
2020年5月15日	61	6	ハードウェアセキュリティの最新動向／差分プライバシー	32	115	6
2020年6月15日	61	7	サイバー・ウォーズ／さようなら、意味のない暗号化ZIP添付メール	26	133	4
2020年7月15日	61	8	プログラミング教育の最前線／中高生の情報教育に関する支援活動	38	115	6
2020年8月15日	61	9	情報化社会のニューノーマル	18	99	6
2020年9月15日	61	10	データ・AIガバナンスとCOVID-19	23	83	6
2020年10月15日	61	11	DX（デジタルトランスフォーメーション）	14	65	8
2020年11月15日	61	12	情報と防災	11	50	8
2020年12月15日	62	1	AI人材教育	13	59	6
2021年1月15日	62	2	AI画像診断が医療現場を変える	13	59	6
2021年2月15日	62	3	DX（デジタル・トランスフォーメーション）時代のサプライチェーン・セキュリティ～サプライチェーンにおけるトラスト（信頼）の構築に向けて～	14	61	4
2021年3月15日	62	4	面白いぞ量子技術	8	37	4

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2020年4月15日	61	4	ソフトウェア工学／ますます広がる音楽情報処理	28	1	274
2020年5月15日	61	5	情報システム論文	8	1	95
2020年6月15日	61	6	---	7	1	101
2020年7月15日	61	7	---	7	2	47
2020年8月15日	61	8	組込みシステム工学	11	0	90
2020年9月15日	61	9	実社会を支える暗号・セキュリティ・プライバシー技術	37	0	214
2020年10月15日	61	10	ユビキタスコンピューティングシステム(IX)	11	0	81
2020年11月15日	61	11	エンタテインメントコンピューティング	11	1	121
2020年12月15日	61	12	ユーザブルセキュリティ	47	3	190
2021年1月15日	62	1	持続可能な社会を実現するコラボレーション技術とネットワークサービス／5G時代の社会を創るモバイル・高度交通システム	45	0	403
2021年2月15日	62	2	インタラクションの理解および基盤・応用技術／ネットワークサービスと分散処理	43	0	405
2021年3月15日	62	3	若手研究者／組込みシステム工学／快適な運用管理を支えるインターネットと運用技術	24	1	172

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」(年刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2020年4月15日	28	—	トランザクション連携論文：0	5	0	55
2020年5月15日	28	—	トランザクション連携論文：4	4	0	41
2020年6月15日	28	—	トランザクション連携論文：1	1	0	11
2020年7月15日	28	—	トランザクション連携論文：0	4	0	40
2020年8月15日	28	—	トランザクション連携論文：4	7	0	68
2020年9月15日	28	—	トランザクション連携論文：0 Special Issue of Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2019	20	0	204
2020年10月15日	28	—	トランザクション連携論文：0	4	0	45
2020年11月15日	28	—	トランザクション連携論文：2	3	1	33
2020年12月15日	28	—	トランザクション連携論文：1 Special Issue of Discrete and Computational Geometry, Graphs, and Games	32	3	346
2021年1月15日	29	—	トランザクション連携論文：0	9	0	112
2021年2月15日	29	—	トランザクション連携論文：2	9	0	84
2021年3月15日	29	—	トランザクション連携論文：1	9	1	98

4. 「情報処理学会論文誌（トランザクション）」(不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2020年4月27日	13	2	プログラミング	2	19
2020年6月17日	13	3	プログラミング	1	19
2020年10月23日	13	4	プログラミング	2	27
2021年1月27日	14	1	プログラミング	2	21
2020年8月28日	13	2	数理モデル化と応用	10	113
2021年1月27日	14	1	数理モデル化と応用	3	32
2021年3月16日	14	2	数理モデル化と応用	2	23
2020年4月16日	13	2	データベース	6	44
2020年7月16日	13	3	データベース	7	31
2020年10月9日	13	4	データベース	2	26
2021年1月15日	14	1	データベース	4	29
2020年9月17日	13	2	コンピューティングシステム	2	27
2020年11月12日	13	3	コンピューティングシステム	3	28
2021年2月17日	14	1	コンピューティングシステム	2	13
2020年5月13日	10	2	コンシューマ・デバイス&システム	3	25
2020年10月6日	10	3	コンシューマ・デバイス&システム	6	64
2021年3月11日	11	1	コンシューマ・デバイス&システム	3	33
2020年8月25日	8	2	デジタルコンテンツ	3	40
2021年2月26日	9	1	デジタルコンテンツ	5	52
2020年6月15日	6	2	教育とコンピュータ	5	60
2020年10月29日	6	3	教育とコンピュータ	4	30
2021年2月22日	7	1	教育とコンピュータ	4	49
2020年10月15日	1	1	デジタルプラクティス	5	66
2021年1月15日	2	1	デジタルプラクティス	3	28
2021年2月12日	14	—	Bioinformatics	2	21
2020年8月13日	13	—	System LSI Design Methodology	4	30
2021年2月18日	14	—	System LSI Design Methodology	3	22
2020年4月7日	12	—	Computer Vision and Applications	1	13
2020年7月2日	12	—	Computer Vision and Applications	1	13
2020年8月31日	12	—	Computer Vision and Applications	2	51

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」(年4回)				その他参考	
発行年月日	巻	号	特集テーマ	論文数	本文頁数
2020年4月15日	11	2	DXを推進する俊敏なシステム開発・運用 —アジャイルにつなぐビジネスとICT—	13	143
2020年7月15日	11	3	ビッグデータ, IoT, AI: 最新の事例と人材育成	11	142
2020年10月15日	11	4	スポーツテック	14	218
2021年1月15日	12	1	変革の先にあるコンタクトセンター	9	174

6. その他出版(重版) ※判型: A5、委託出版社名: オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2020年4月10日	IT textシリーズ 離散数学(1版6刷)	400	240
2020年5月10日	IT textシリーズ 画像工学(1版3刷)	400	232
2020年4月10日	IT textシリーズ Javaオブジェクト指向プログラミング(1版4刷)	110	270
2020年4月10日	IT textシリーズ プログラム仕様記述論(1版13刷)	80	210
2020年5月10日	IT textシリーズ 情報セキュリティ(1版17刷)	500	288
2020年6月20日	IT textシリーズ コンピュータグラフィックスの基礎(1版1刷)	1,700	278
2020年7月10日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン(1版16刷)	500	212
2020年6月30日	IT textシリーズ 数値最適化(1版4刷)	70	272
2020年6月20日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報システム基礎(1版13刷)	600	218
2020年6月20日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報と社会(1版13刷)	250	236
2020年7月25日	IT textシリーズ Linux演習(1版9刷)	130	224
2020年9月10日	IT textシリーズ Java基本プログラミング(1版7刷)	300	234
2020年9月10日	IT textシリーズ 情報と職業(改訂2版)(2版6刷)	1,000	232
2020年9月10日	IT textシリーズ オペレーティングシステム(改訂2版)(2版4刷)	1,200	260
2020年9月20日	IT textシリーズ メディア学概論(1版3刷)	180	172
2020年9月20日	IT textシリーズ 確率統計学(1版4刷)	100	264
2020年9月20日	IT textシリーズ 情報リテラシー(1版14刷)	150	248
2020年9月20日	IT Textシリーズ データマイニングの基礎(1版10刷)	100	286
2020年9月30日	IT textシリーズ 数値最適化(1版5刷)	100	272
2020年10月20日	IT textシリーズ メディア学概論(1版4刷)	100	172
2020年10月10日	IT textシリーズ Javaオブジェクト指向プログラミング(1版5刷)	120	270
2020年9月30日	IT textシリーズ データベース(1版18刷)	600	196
2020年11月30日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ(1版4刷)	900	206

7. その他出版(新刊) ※判型: A5変形、委託出版社名: 近代科学社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2020年10月31日	「情報処理技術遺産とパイオニアたち」	1,400	336

8. その他出版(新刊) ※判型: A5、委託出版社名: オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2020年11月9日	量子コンピューティング—基本アルゴリズムから量子機械学習まで—(1版1刷)	2,000	304

付4. 国際会議一覧

※以下は、2020年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 10th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2017)	2017年10月3日-5日	日本（富山）	70名	17名	・ IEEE-CS
The 11th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2018)	2018年10月5日-7日	ニュージーランド（オークランド）	85名	18名	・ IEEE-CS
The 14th International Workshop on Security (IWSEC2019)	2019年8月28日-30日	日本（東京）	141名	31名	-
The 25th International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing (CollabTech 2019)	2019年9月3日-6日	日本（京都）	53名	17名	-
International Conference on High Performance Computing in Asia Pacific Region (HPCAsia2020)	2020年1月15日-17日	日本（福岡）	241名	38名	・ ACM

付5. 表彰等 *いずれも所属（ ）内）は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（2名） [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止により] [理事会（2021年1月）]

・ 阪田史郎（千葉大） ・ 喜連川優（NII）

2. 功績賞（3名）・顕功賞：該当なし [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止により] [功績賞選定委員会（2021年3月）]

・ 浅井光太郎（三菱） ・ 岡部寿男（京大） ・ 長谷川亨（阪大）

3. 新フェロー（14名） [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止により] [フェロー選定委員会（2021年2月）]

・ 浅井光太郎（三菱）	「映像符号化技術の研究開発と国際標準化に対する貢献」
・ 阿倍博信（電機大）	「マルチメディア応用システム構築技術の研究開発、実用化及び学会運営に対する貢献」
・ 五十嵐健夫（東大）	「インタラクティブコンピュータグラフィックスに関する先駆的研究」
・ 井戸上彰（KDDI総研）	「モバイルインターネットの移動管理技術の発明ならびに実用化」
・ 稲見昌彦（東大）	「身体性インタラクションおよび人間拡張に関する研究」
・ 岡部寿男（京大）	「大学間連携のための認証連携アーキテクチャの研究開発」
・ 後藤真孝（産総研）	「音楽の自動理解技術とその応用に関する先駆的研究」
・ 中野美由紀（津田塾大）	「大規模データベースにおける並列処理高速化技法に対する貢献」
・ 任 向実（高知工科大）	「ヒューマンコンピュータインタラクションの基礎的研究と教育に対する貢献」
・ 福島俊一（JST）	「高速頑健なテキスト処理のための情報抽出・検索技術の研究開発・実用化」
・ 藤代一成（慶大）	「可視化分野における先駆的研究および同分野における教育・普及に対する貢献」
・ 増井俊之（慶大）	「コンピュータのユーザインタフェースに関わる幅広い研究及び実用化」
・ 宮地充子（阪大）	「安全・安心なデジタル社会を支える楕円曲線暗号に関する先駆的研究」
・ 山名早人（早大）	「ウェブ解析・応用に関する研究および学会運営への貢献」

4. 論文賞（7件25名） [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止により] [論文賞選定委員会（2021年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

・ 鏡像スピーカを用いたスマートフォン高精度3次元測位手法
村上弘晃、中村将成（北大）、橋爪宏達（NII）、杉本雅則（北大）

・ 多次元ストリーミング時系列データの効率的なモチーフモニタリングアルゴリズム
加藤慎也、天方大地、原 隆浩（阪大）

・ Facelot：顔検出と顔属性をエントリとしたアドホックな抽選システム
金子翔麻、渡邊 恵（明大）

・ 相乗りのための将来需要を考慮した経路最適化
大社綾乃、大滝啓介、小出智士、西 智樹（豊田中研）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・ Examination and It's Evaluation of Preprocessing Method for Individual Identification in EEG
Masato Yamashita, Minoru Nakazawa, Yukinobu Nishikawa, Noriyuki Abe（金沢工大）

(3) 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 優秀論文賞

・ Deep Neural Networkのモデル逆解析による識別根拠可視化技術
柿下容弓、服部英春（日立）

(4) 情報処理学会論文誌 データベース 優秀論文賞

・ Compressed Vector Set: A Fast and Space-Efficient Data Mining Framework
Masafumi Oyamada（NEC／筑波大）、Jianquan Liu, Shinji Ito, Kazuyo Narita, Takuya Araki（NEC）、Hiroyuki Kitagawa（筑波大）

5. 業績賞（3件15名、*：代表貢献者） [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止により] [業績賞選定委員会（2021年2月）]

- ・「クラウド型多言語対応音声認識システム「Watson Speech-to-Text」の研究開発と実用化」
*倉田岳人，長野 徹，伊東伸泰，鈴木雅之，福田 隆（日本IBM）
- ・「熟練者ノウハウを反映可能な計画最適化技術の研究開発と実用化」
*小林雄一，鄭 建，高橋由泰，柳田貴志，佐藤達広（日立）
- ・「新規アーキテクチャに基づくベクトル型コンピュータの開発とその AI への応用」
*荒木拓也，石坂一久，今井照之，星 宗王，愛野茂幸（NEC）

6. 情報処理技術研究開発賞（1名） [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止により] [情報処理技術研究開発賞選定委員会（2021年1月）]

- ・劉 健全（NEC） 「未知の人物を対象とした映像解析技術の研究開発」

7. マイクロソフト情報学研究賞（2名） [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会（2021年6月）表彰中止・第83回大会現地開催中止により] [マイクロソフト情報学研究賞選定委員会（2021年1月）]

- ・松田隆宏（産総研） 「高い安全性と機能を有する公開鍵暗号技術のモジュラーかつ汎用的な設計法に関する研究」
- ・松原靖子（阪大） 「大規模時系列データのリアルタイム解析と将来予測に関する研究」

8. IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research（1名） [第83回全国大会（2021年3月）表彰 *2020年6月 ACM Award Banquet招待] [IPSJ/ACM審査会（2020年12月）]

- ・加藤 淳（産総研） 「Pioneering Work in Programming Experience Research for Creativity Support of Both Programmers and Non-Programmers」

9. IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award（3名） [IEEE COMPSAC2021（2021年7月）表彰 *第83回全国大会（2020年3月）発表] [IPSJ/IEEE-CS審査会（2021年1月）]

- ・安積卓也（埼玉大） 「Outstanding Research on Embedded Real-time Platform」
- ・坂本大介（北大） 「Outstanding Research on Designing User Interface and Interaction」
- ・清 雄一（電通大） 「Privacy-Preserving Web/IoT Data Analysis」

10. 山下記念研究賞（51編） [賞状等発送をもって表彰 *第83回全国大会オンライン開催により] [各領域委員会（2020年7月）]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・時系列データのshapeletsを学習するpartial AUCの最大化手法 [DBS] 山口晃広（東芝）
- ・交通経済学に基づく人の時間価値を考慮したタクシー配車戦略の最適化 [DBS] 引間友也（NTT）
- ・探索に基づくローカルリファクタリングの検出 [SE] 筒井湧暉（コーエーテクモゲームス）
- ・重み付きグラフの最大マッチング問題における脳型計算を用いた近似解法の検討 [ARC] 上野洋典（東大）
- ・動的スクリプト言語の高効率実行を目的としたプロセッサアーキテクチャの拡張 [ARC] 眞下 達（東大）
- ・低アクセスレイテンシを実現する不揮発メモリ向けユーザー空間ファイルシステム [OS] 松沢敬一（日立製作所）
- ・ビュースイッチFPGAの部分的再構成における書き換えスイッチ数の最小化 [SLDM] 土井龍太郎（NEC）
- ・MOSFETの統計的選択によるレファレンス不要なCMOS温度センサの設計 [SLDM] 原田彰吾（京大）
- ・実対称帯行列の固有値問題に対する分割統治法の分割戦略 [HPC] 廣田悠輔（福井大）
- ・大規模GPUクラスタにおけるResNet-50/ImageNet学習の高速化 [HPC] 本田 巧（富士通研）
- ・Centaurus: A Just-in-Time Parallel-Parser Generator for Ad hoc Data Processing [PRO] 佐藤重幸（東大）
- ・観測範囲に制限のある条件下で収集された移動履歴データを用いたマルコフ連鎖パラメタの推定手法 [MPS] 幸島匡宏（NTT）
- ・Autaware on Many-core Platform: NoCベース組込みメニーコアプロセッサ向け自動運転プラットフォーム [EMB] 安積卓也（埼玉大）

<情報環境領域>

- ・アンライセンストバンドを使うLPWA規格の実フィールドでの比較評価 [DPS] 高橋 幹（三菱総研）
- ・大規模環境における攻撃グラフを活用したセキュリティ対策立案方式 [DPS] 井ノ口真樹（NEC）
- ・ウェアラブルコンピューティングにおける聴力自在化技術の提案 [HCI] 渡邊拓貴（北大）
- ・飲食サービス業におけるVR業務訓練システムの開発 [HCI] 大槻麻衣（産総研）
- ・防護動機理論に基づくIoTを用いた土砂災害関連情報計測システムの評価 [IS] 上山遥路（NTTドコモ）

・ Author-Oriented Book Recommendation Using Linked Open Data for Improving Serendipity [IFAT]	翁 仁楼 (富士ソフト)
・ Line Segment Detectorを用いたカメラキャリブレーションの高精度化に関する検討 [AVM]	鶴崎裕貴 (KDDI総研)
・ Cognometric方式画像認証のユーザ設定に関する調査 [GN]	石井健太郎 (専修大)
・ 飲酒による認知機能への影響を活用する発散的思考技法の検討 [GN]	下村賢人 (パナソニック)
・ LSTMを用いた大規模イベント向けBLE屋内位置推定手法の検討 [MBL]	浦野健太 (名大)
・ クラウドセンシングによる屋内Wi-Fi APの3次元位置推定手法 [MBL]	天野辰哉 (阪大)
・ 再帰型ニューラルネットワークへのモデル抽出攻撃の精度評価 [CSEC]	竹村達也 (阪大)
・ ユーザのセキュリティ対策行動における心理的な要因の影響評価 [CSEC]	佐野絢音 (KDDI総研)
・ ブロックチェーンのProof-of-workの計算資源を利用して最適化問題の解探索を行うプロトコル [ITS]	柴田直樹 (奈良先端大)
・ 部屋全域への無線電力伝送に向けたマルチモード準静空洞共振器 [UBI]	笹谷拓也 (東大)
・ 相変化材料を用いた熱発電機構により駆動される高温域で動作可能なIoTセンサの理論解析 [UBI]	池田夏輝 (ソニーセミコンダクタソリューションズ)
・ 分散型MQTT Brokerを活用したコンポーネント選択手法の比較評価 [IOT]	安田和磨 (京産大)
・ Transtracer: 分散システムにおけるTCP/UDP通信の終端点の監視によるプロセス間依存関係の自動追跡 [IOT]	坪内佑樹 (さくらインターネット)
・ スマートフォン利用時の不快感を用いた危険なWebサイトに対する警告インタフェースの実装 [SPT]	大塚亜未 (津田塾大)
・ 360度インターネット生放送における視聴者POVキャプチャを用いたコミュニケーション支援手法の提案 [GDS]	齊藤義仰 (岩手県立大)
・ 敵対的生成ネットワーク (GAN) を用いた似顔絵生成手法の検討 [DGC]	中島悠輔 (神奈川工大)
<メディア知能情報領域>	
・ 階層的な注意機構に基づき統語的な先読みを行う文圧縮 [NL]	上垣外英剛 (東工大)
・ 不完全な効用情報下での交渉問題における受け入れ戦略 [ICS]	谷口 直也 (エール)
・ A Novel Catadioptric Ray-Pixel Camera Model and its Application to 3D Reconstruction [CVIM]	川原 僚 (京大)
・ 符号化露光画像を用いた人物の行動認識 [CVIM]	大河原忠 (-)
・ DeepRemaster: Temporal Source-Reference Attentionを用いた動画のデジタルリマスター [CG]	飯塚里志 (筑波大)
・ 福笑いキャラクタの作成による著作権教育 [CE]	布施 泉 (北大)
・ 幼稚園児のビスケットプログラムをつかった作品の表現の分析 [CE]	渡辺勇士 (電通大)
・ Single Interface for Music Score Searching and Analysis (SIMSSA) Project: Optical Music Recognition Workflow for Neume Notation [CH]	藤永一郎 (McGill University)
・ 文化×バイオ×コンピュータでの解析-言語類型論に基づく言語データベースとゲノムデータの統合的解析の提案- [CH]	松前ひろみ (東海大)
・ 音楽音響信号に対するラベル・テキストチャ分離型変分自己符号化器を用いた半教師ありコード推定 [MUS]	呉 益明 (京大)
・ DPGMMと敵対的学習に基づく話者の違いに頑健な特徴抽出とゼロリソース音声認識での評価 [SLP]	樋口陽祐 (早大)
・ 音声認識のためのプライバシー保護音響モデル学習法 [SLP]	太刀岡勇気 (デンソーアイティラボラトリ)
・ EUにおけるプラットフォーム規制の現状と課題 [EIP]	寺田麻佑 (国際基督教大)
・ どうぶつしょうぎを用いたAlphaZeroの手法の調査 [GI]	中屋敷太一 (ゲーム情報学)
・ ブレインツリー: 頭部での植物の成長を表現する触覚インタフェース [EC]	平野祐也 (-)
・ フローサイトメトリーデータ解析のための方向制限付きアースムーバー距離の効率的な計算法 [BIO]	奥 牧人 (富山大)
・ 概念マップ作成の自己説明としての命題-映像区間対応付け演習の設計・開発 [CLE]	林 雄介 (広島大)

11. 大会優秀賞・大会奨励賞

[賞状等発送をもって表彰 *第83回全国大会オンライン開催により] [第82回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会 (2020年6月)]

(1) 大会優秀賞 (9名)

- | | | | |
|------------------|------------------|------------------|--------------|
| ・ 大塚彩秀菜 (和歌山大) | ・ 黒田慧莉 (お茶の水女子大) | ・ 鈴木 励 (近畿大) | ・ 小林聖哉 (会津大) |
| ・ 高井淳光 (小山高専) | ・ 玉置尚吾 (東京農工大) | ・ 中村陽太 (はこだて未来大) | ・ 二見 颯 (京大) |
| ・ 若林勇汰 (はこだて未来大) | | | |

(2) 大会奨励賞 (10名)

- ・ 赤間悠大 (はこだて未来大)
- ・ 上田貴之 (阪大)
- ・ 小笠原萌 (お茶の水女子大)
- ・ 近藤和真 (福井大)
- ・ 佐竹 誠 (京大)
- ・ 高須 恵 (東京電機大)
- ・ 田中啓太郎 (早大)
- ・ 中村亮裕 (静大)
- ・ 樋口稚菜 (東京理科大)
- ・ 森下 誠 (名大)

12. 優秀教材賞 ※優秀教育賞：該当なし [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会 (2021年6月) 表彰中止により] [情報処理教育委員会 (2021年3月)]

(1) 優秀教材賞 (1件)

- ・ 牧野浩二、西崎博光 (山梨大) 「深層学習・深層強化学習を学習するための複数の書籍の執筆」

13. 若手奨励賞 (15件) [当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会 (2020年4月～2021年3月)]

<第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2020年10月) 課題部門>

- ・ ぶらんとこれくしょん-体験型植物観察学習システム-

藤巻晴葵、藤川興昌、吉澤 輝、宮本 明、吉倉勇介 (東京工業高等専門学校)

<第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2020年10月) 自由部門>

- ・ K i s e k i S k e t c h -あなただけの地上絵を-

門脇斎斗、田中颯太、山口翔太、石井晃斗、石井泰斗 (東京工業高等専門学校)

<ETロボコン2020 プログラミング部門 (2020年11月)>

- ・ NKHSチームP

村田直弥、小笠原龍之介、横山やこ、北本佳祐 (日本工学院北海道専門学校)

<パソコン甲子園2020 プログラミング部門 (2020年11月)>

- ・ ひよこなめくじ

松尾凜太郎、杉山衣吹 (麻布高等学校)

- ・ よし、グラフだ!

米田寛峻、神尾悠陽 (開成高等学校)

- ・ eelTree

行方 聖、米山瑛士 (筑波大学附属駒場高等学校)

<パソコン甲子園2020 モバイル部門 (2020年11月)>

- ・ うし食時代

上原直人、神田慧悟 (開成高等学校)

<第20回日本情報オリンピック (2021年3月)>

- ・ 松尾 凜太郎 (麻布学園麻布高等学校)
- ・ 平木 康傑 (灘高等学校)
- ・ 米田 寛峻 (開成高等学校)

<中高生情報学研究コンテスト (2021年3月)>

- ・ 立高天(文)気(象)部

浜島悠哉、田中陽登、馬場光希、安原拓未 (東京都立立川高等学校)

- ・ Kineto

青山柊太郎 (ぐんま国際アカデミー高等部)

- ・ π & cone

二ノ方理仁 (芝中学校)

14. 学会活動貢献賞／感謝状 [賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会 (2021年6月) 表彰中止により] [総務財務運営委員会 (2021年1月)]

(1) 学会活動貢献賞：「学会誌における編集業務への貢献」 (2名)

- ・ 湯村 翼 (NICT)
- ・ 坂東宏和 (獨協医科大)

(2) 学会活動貢献賞：「論文誌への査読貢献」 (3名)

- ・ 河野恭之 (関西学院大)
- ・ 金岡 晃 (東邦大)
- ・ 山井成良 (東京農工大)

(3) 学会活動貢献賞：「デジタルプラクティスへの査読貢献」 (1名)

- ・ 宮下健輔 (京都女子大)

(4) 学会活動貢献賞：「デジタルプラクティスにおけるITベンダユーザ会協業への貢献」 (1名)

- ・ 斎藤彰宏 (日本IBM)

(5) 学会活動貢献賞：「FIT2020第19回情報科学技術フォーラム開催への貢献」 (1名)

- ・ 杉本雅則 (北大)

(6) 学会活動貢献賞：「第82回全国大会開催への貢献」 (1名)

- ・ 齋藤正史 (金沢工大)

(7) 感謝状：「IFIP副会長および日本代表としての国際活動への貢献」 (1名)

- ・ 村山優子 (津田塾大)

<北海道>

- (1) 研究奨励賞 (4名) ・阿部涼介 ・板倉和真 ・大澤知弥 ・永田紘也
- (2) 学術研究賞 (1件) ・菅原 優、小山 聡、栗原正仁
- (3) 技術研究賞 (2件) ・森 雄斗、横山想一郎、山下倫央、川村秀憲、森 正人、加藤士雄
・山崎隆善、徳村光春、鈴木悠斗、湯上 峻、前田駿一、升井 洋
- (4) 優秀プレゼンテーション賞 (4名) ・漆原航平 ・菅原 淳 ・神 優貴 ・鳥木瑛司
- (5) 工業高専奨励賞 (3名) ・釜石健太郎・築山大地・葛西彪斗

<東北>

- (1) 学生奨励賞 (15名) ・佐東力也 ・小比類巻俊 ・佐藤光喜 ・鈴木朱里 ・山中仁斗 ・梅内 翼 ・五十嵐譲
・西田統尊 ・石塚将太 ・千葉翔也 ・佐藤立基 ・高橋大夢 ・栗森達朗 ・田中 慧 ・高瀬優人
- (2) 奨励賞 (5名) ・高橋元春 ・伊藤隆史 ・高橋 愛 ・新井達也 ・高橋幹太
- (3) 野口研究奨励賞 (1名) ・佐藤雅之

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (6名)
・伊東佑真 ・伊藤有生 ・小野瀬良佑 ・大西 諒 ・太古川翔也 ・渡邊南美
- (2) 学生論文奨励賞 (6名)
・小野瀬良佑 ・三津原将弘 ・柳瀬知広 ・林 宏輔 ・酒井恵梨香 ・四ツ谷昂亮

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞 (7名) ・北野龍二 ・坂田拓美 ・藤田良介 ・早水達也 ・藤井翔也 ・高村健也 ・Kien C. Vu
- (2) 優秀学生表彰 (12名) ・竹中志織 ・若栗裕之 ・安達一生 ・足立優也 ・中田友紀 ・山崎晃平
・徳田剣聖 ・東本一希 ・柳 翔善 ・鈴木賢斗 ・西島愛佳 ・田光 太郎

<関西>

- (1) 学生奨励賞 (5名) ・坂本真輝 ・立花巧樹 ・富田周作 ・山田 理 ・引地将大

<中国>

- (1) 優秀論文発表賞 (5名) ・宮崎喬行 ・内村凜香 ・鈴木陵馬 ・福本拓也 ・渡辺桃子
- (2) 奨励賞 (6名) ・浦崎凱聖 ・折中日花莉 ・定 賢吾 ・高杉 頌 ・藤本隆晟 ・藤原裕貴

<四国>

- (1) 奨励賞 (48名)
・石野恭秀 ・丸飯虎太郎 ・高市 陸 ・中村有佑 ・三原貴大 ・宮本敦哉
・中山 颯 ・西尾寛人 ・鈴木康平 ・渡邊智也 ・武村知樹 ・田中 敦
・関 遥夏 ・裕 文弥 ・泉谷 亮 ・辻 亮佑 ・丹後和也 ・福富涼太
・松本真拓 ・橋本駿太郎 ・中田信穂 ・安東伽奈子 ・米津 光 ・板東宏和
・武田響介 ・松本康太郎 ・上山峻央 ・早川晋矢 ・竹田英資 ・古高海陸
・小島脩生 ・澤口直弥 ・田邊茉佑 ・安岡宏展 ・笹岡由唯 ・渡邊大起
・渡辺唯斗 ・高橋慶一郎 ・川柳悦士 ・本田 陸 ・笠松雅史 ・杉田健真
・長川 歩 ・藤村昇矢 ・竹本伊吹 ・渡邊亮汰 ・岡 美波 ・山本廉太

<九州>

- (1) 奨励賞-連合大会 (5名) ・横路海斗 ・松田征也 ・窪園隆介 ・福山貴洋 ・岩崎健太郎
- (2) 奨励賞-火の国ソフ (5名) ・宇佐美智之 ・大西正悟 ・松下義孝 ・工藤千寛 ・呉 夢竹

16. デジタルプラクティス論文賞 (1件1名)

[第83回大会オンライン表彰] [デジタルプラクティス編集委員会 (2020年11月)]

- ・Wi-Fiパケットセンサ商用化に至る課題克服の歩み—産学官連携が生んだ交通流動解析システム—

西田純二 (社会システム総合研究所)

17. ソフトウエアジャパンアワード (1名)

[賞状等発送をもって表彰 *2021年度定時総会 (2021年6月) 表彰中止] [技術応用運営委員会 (2021年3月)]

- ・COVID-19接触確認アプリCovid19Radarの開発

廣瀬一海

18. FIT関連の各賞

- (1) FIT2020船井業績賞（1名）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT船井業績賞選定委員会（2019年9月）]
・ 西田友是（広島修道大学教授（東京大学名誉教授）／プロメテックCGリサーチ所長）
- (2) FIT2020船井ベストペーパー賞（3件）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2021(2021年8月)表彰] [FIT賞選定委員会（2020年11月）]
・ 構造変化に応じるロバスト修復可能マトロイド基問題に対する固定パラメータアルゴリズム
岡本吉央（電通大）、伊藤健洋（東北大）、垣村尚徳（慶大）、神山直之（九大／JST、さががけ）、小林佑輔（京大）
・ 近似レベルを動的制御可能なアーキテクチャのためのコンパイラフレームワークの検討
富田和孝、中村朋生、小泉 透、入江英嗣、坂井修一（東大）
・ 私的観測下の繰り返し四人のジレンマにおける協力のダイナミクス価
西野上和真、五十嵐瞭平、岩崎 敦（電通大）
- (3) FIT2020論文賞（7件） [FIT2021(2021年8月)表彰] [FIT賞選定委員会（2020年11月）]
・ ユーザの感覚に近い多様化検索評価指標
酒井哲也、Zhaohao Zeng（早大）
・ モデルベース強化学習における自動計画を用いた探索戦略
速水陽平（電通大／ニューヨーク州立大）、Amiri Saeid、Chandan Kishan、Shiqi Zhang（ニューヨーク州立大）、高玉圭樹（電通大）
・ AdaBoostを用いた心の健康スコア推定システムの構築
中川 聡、米倉将吾、金沢星慶、西川 鋭、國吉康夫（東大）
・ 脳活動の相互依存モデルに基づく言語・非言語想起過程の高時間分解能判別
西尾啓汰（青学大）、猪又啓太郎（青学大／富士通）、栗原陽介（青学大）
・ 対象物のイメージに基づく図像的ジェスチャの形状推定
二瓶英巳雄、中野有紀子（成蹊大）、東中竜一郎、石井 亮（NTT）
・ 秘匿信号領域におけるLASSOモデリングのためのランダムユニタリ変換の秘匿性強化
坂東幸浩、仲地孝之（NTT）
・ カーネル仮想記憶空間における排他的ページ参照機構によるデータ保護能力と性能評価
葛野弘樹（セコム）、山内利宏（岡山大）
- (4) FIT2020ヤングリサーチアワード（4名） [FIT2021(2021年8月)表彰] [FIT賞選定委員会（2020年11月）]
・ 渡邊良亮（KDDI総合研究所） ・ 邊見貴彦（群馬大） ・ 邊見貴彦（群馬大） ・ 高嶺 潮（琉球大）

19. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞（1名） [情報規格調査会総会（2020年5月）表彰] [情報規格調査会]
・ 谷津行穂
- (2) 標準化顕功賞（該当なし） [情報規格調査会総会（2020年5月）表彰] [情報規格調査会]
- (3) 標準化貢献賞（11名） [情報規格調査会総会（2020年5月）表彰] [情報規格調査会]
・ 畔津布岐（日本情報経済社会推進機構） ・ 入江 満（大阪産業大学） ・ 大山潤爾（産業技術総合研究所）
・ 河村 圭（KDDI総合研究所） ・ 小石健二（パナソニック） ・ 坂無英徳（産業技術総合研究所・永沼美保（日本電気）
・ 日間賀充寿（日立製作所） ・ 吉田博隆（産業技術総合研究所・和田典子（山梨英和大学） ・ 渡邊 修（拓殖大学）
- (4) 国際規格開発賞（13名：14件） [情報規格調査会 技術委員会（2020年4月～2021年3月）表彰] [情報規格調査会]
・ 石川孝明（早稲田大） ・ 坂根広史（産業技術総合研究所・市ヶ谷敦郎（日本放送協会） ・ 関 洋平（筑波大）
・ 武部泰行（エーネットコンソーシアム/テュフ・ラインランド・ジャパン） ・ 峯澤 彰（三菱電機） ・ 菅谷寿鴻（電気通信大）
・ 濱口総志（コスモ・コーポレーション/産業技術総合研究所） ・ 鈴木俊哉（広島大） ・ 岡部雅夫（東北工業大）
・ 星沢 拓（日立エルジーデータストレージ） ・ 小石健二（パナソニック） ・ 畔津布岐（日本情報経済社会推進機構）
- (5) 産業標準化事業表彰 [産業標準化表彰式（2020年10月）表彰] [経済産業省]
・ 産業標準化事業表彰（個人）（経済産業大臣表彰）：鈴木輝彦（ソニー）
・ 産業標準化事業表彰（個人）（経済産業大臣表彰）：関 喜一（産業技術総合研究所）
・ 産業標準化事業表彰（個人）（経済産業大臣表彰）：谷津行穂（谷津ITコンサルティング）
・ 産業標準化事業表彰（組織）（経済産業大臣表彰）：日本電信電話
・ 国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）：小川茂孝（アイシーティーリンク）

その他および附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上

[第 1 号議案]

1-2. 2020 年度財務諸表等

1. 貸借対照表
2. 正味財産増減計算書
付. 参考：事業別サマリー
3. 財務諸表に対する注記
4. 附属明細書
5. 財産目録

2020年度 財務諸表

1. 貸借対照表

2021年3月31日現在

(単位：円)

科目	当期末 2021年3月31日	前期末 2020年3月31日	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	517,720,776	445,325,036	72,395,740
未収会費	4,838,960	7,169,987	△ 2,331,027
未収金	28,298,017	29,379,712	△ 1,081,695
前払金	4,798,846	6,900,887	△ 2,102,041
仮払金	2,553,870	2,605,050	△ 51,180
支部仮払金	1,746,643	2,616,606	△ 869,963
貸倒引当金	△ 230,000	△ 420,000	190,000
商品	2,627,424	3,504,719	△ 877,295
貯蔵品	1,332,843	888,558	444,285
流動資産 合計	563,687,379	497,970,555	65,716,824
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	78,089,260	74,276,860	3,812,400
山下記念研究賞積立資産	2,270,184	3,016,191	△ 746,007
記念事業積立資産	17,889,371	32,827,558	△ 14,938,187
電子化積立資産	21,817,574	25,419,090	△ 3,601,516
公益目的事業積立資産	43,400,238	43,372,078	28,160
調査研究積立資産	160,375,980	149,814,769	10,561,211
音楽情報科学積立資産	1,582,507	1,582,494	13
学術刊行物積立資産	124,004,078	123,994,626	9,452
学術講習会積立資産	138,474,689	138,417,369	57,320
人材育成積立資産	48,474,525	48,469,537	4,988
規格国際会議開催積立資産	51,706,888	51,701,721	5,167
規格国際会議派遣積立資産	66,915,770	66,910,098	5,672
規格電子化積立資産	31,225,510	31,222,868	2,642
規格長期運営積立資産	58,064,265	58,059,347	4,918
特定資産 合計	844,290,839	849,084,606	△ 4,793,767
(2) その他固定資産			
建物付属設備	2,759,900	0	2,759,900
什器備品	17,472,350	19,748,432	△ 2,276,082
リース資産	12,843,600	11,242,800	1,600,800
ソフトウェア	65,380,825	84,419,805	△ 19,038,980
減価償却累計額	△ 67,751,096	△ 89,181,616	21,430,520
敷金	21,939,844	19,868,800	2,071,044
その他固定資産 合計	52,645,423	46,098,221	6,547,202
固定資産 合計	896,936,262	895,182,827	1,753,435
資産 合計	1,460,623,641	1,393,153,382	67,470,259
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	18,227,960	14,747,612	3,480,348
未払消費税等	2,655,900	4,951,200	△ 2,295,300
未払法人税等	70,000	70,000	0
前受金	112,808,848	112,438,657	370,191
預り金	1,390,808	1,130,743	260,065
仮受金	2,111,800	872,691	1,239,109
1年以内返済リース債務	2,568,720	2,248,560	320,160
賞与引当金	17,700,000	17,700,000	0
流動負債 合計	157,534,036	154,159,463	3,374,573
2. 固定負債			
リース債務	8,348,340	3,747,600	4,600,740
退職給付引当金	78,089,260	74,276,860	3,812,400
固定負債 合計	86,437,600	78,024,460	8,413,140
負債 合計	243,971,636	232,183,923	11,787,713
III 正味財産の部			
一般正味財産のみ	1,216,652,005	1,160,969,459	55,682,546
(うち特定資産への充当額)	(766,201,579)	(774,807,746)	-△ (8,606,167)
負債および正味財産合計	1,460,623,641	1,393,153,382	67,470,259

2. 正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位：円)

科目	当期 2020年度	前期 2019年度	増減	備考 (増減の主な理由ほか)
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	184,332	88,129	96,203	
特定資産受取利息	184,332	88,129	96,203	
受取入会金	702,000	678,000	24,000	
受取入会金	702,000	678,000	24,000	
受取会費	183,285,297	194,573,985	△ 11,288,688	
正会員受取会費	141,543,452	150,911,720	△ 9,368,268	*正会員等減
学生会員受取会費	11,491,845	12,612,265	△ 1,120,420	
賛助会員受取会費	30,250,000	31,050,000	△ 800,000	
事業収益	354,258,216	454,957,105	△ 100,698,889	
頒布・購読収益	46,788,382	44,833,451	1,954,931	
掲載・別刷料収益	60,766,474	59,531,633	1,234,841	
広告収益	21,888,369	43,702,548	△ 21,814,179	*調査研究・講習会・会誌広告等減
参加費収益（含予稿集）	69,908,546	167,625,402	△ 97,716,856	*調査研究・講習会等減
審査料・登録料収益	9,608,500	5,005,060	4,603,440	
研究会登録費収益	28,478,134	28,917,456	△ 439,322	
規格賛助員費収益	90,400,000	89,700,000	700,000	
国際会議収益	7,265,214	5,110,036	2,155,178	
分担金収益	2,127,106	1,742,507	384,599	
抄録料、著作権使用料等収益	5,624,877	1,334,765	4,290,112	
受取民間委託費	11,402,614	7,454,247	3,948,367	
受取補助金等	180,000	13,074,301	△ 12,894,301	
受取民間補助金	0	8,156,621	△ 8,156,621	*標準化補助金減
受取民間助成金	180,000	4,917,680	△ 4,737,680	
受取寄付金	5,894,087	2,554,031	3,340,056	
受取寄付金	5,894,087	2,554,031	3,340,056	
雑収益	4,810,819	2,263,607	2,547,212	
受取利息	1,810	1,144	666	
雑収益	4,809,009	2,262,463	2,546,546	
経常収益計	549,314,751	668,189,158	△ 118,874,407	
(2) 経常費用				
事業費	416,654,539	565,752,334	△ 149,097,795	
給料手当	123,702,955	129,334,658	△ 5,631,703	*職員人件費減
賞与引当金繰入額	15,209,984	15,483,381	△ 273,397	
臨時雇賃金	3,951,533	5,657,841	△ 1,706,308	
退職金	0	68,000	△ 68,000	
退職給付費用	2,712,094	2,700,006	12,088	
福利厚生費	27,910,299	28,728,569	△ 818,270	
会議費	2,408,524	93,955,316	△ 91,546,792	*調査研究・講習会・標準化減
旅費交通費	1,987,954	36,597,178	△ 34,609,224	*調査研究・講習会・標準化・国際減
通信運搬費	14,347,505	17,560,695	△ 3,213,190	
減価償却費	6,283,620	8,498,488	△ 2,214,868	
消耗品費	14,080,867	9,498,806	4,582,061	
印刷製本費	66,749,791	76,300,815	△ 9,551,024	*調査研究・講習会・会誌減
光熱水料費	2,251,787	2,877,112	△ 625,325	
賃借料	30,815,906	29,502,426	1,313,480	
保険料	69,256	465,157	△ 395,901	
諸謝金	18,899,673	18,852,154	47,519	
租税公課	12,711,698	13,355,633	△ 643,935	
支払負担金	60,000	1,834,231	△ 1,774,231	
支払助成金	120,000	311,660	△ 191,660	
委託費	65,729,098	68,385,451	△ 2,656,353	
支払手数料	3,535,636	3,166,029	369,607	
支払分担金	2,906,047	2,251,286	654,761	
貸倒引当金繰入額	3,640	22,600	△ 18,960	
雑費	206,672	344,842	△ 138,170	

(単位：円)

科目	当期 2020年度	前期 2019年度	増減	備考 (増減の主な理由ほか)
管理費	76,977,651	75,357,500	1,620,151	
給料手当	20,418,255	18,441,944	1,976,311	
賞与引当金繰入額	2,490,016	2,216,619	273,397	
臨時雇賃金	792,800	793,200	△ 400	
退職給付費用	1,100,306	913,394	186,912	
福利厚生費	5,424,600	4,699,745	724,855	
会議費	1,376,165	4,082,066	△ 2,705,901	
旅費交通費	180,990	3,370,099	△ 3,189,109	
通信運搬費	1,195,096	1,687,492	△ 492,396	
減価償却費	3,012,187	3,182,327	△ 170,140	
消耗品費	1,558,054	1,020,952	537,102	
印刷製本費	3,990,843	404,370	3,586,473	
光熱水料費	453,538	560,044	△ 106,506	
賃借料	4,544,917	4,157,401	387,516	
保険料	79,875	74,829	5,046	
諸謝金	6,233,323	4,748,648	1,484,675	
租税公課	70,605	61,588	9,017	
支払負担金	3,914,374	3,900,226	14,148	
委託費	14,759,544	14,597,268	162,276	
支払手数料	5,122,763	6,334,693	△ 1,211,930	
雑費	259,400	110,595	148,805	
経常費用計	493,632,190	641,109,834	△ 147,477,644	
当期経常増減額	55,682,561	27,079,324	28,603,237	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外費用			0	
固定資産除却損	15	2	13	
経常外費用計	15	2	13	
当期経常外増減額	△ 15	△ 2	△ 13	
当期一般正味財産増減額	55,682,546	27,079,322	28,603,224	
一般正味財産期首残高	1,160,969,459	1,133,890,137	27,079,322	
一般正味財産期末残高	1,216,652,005	1,160,969,459	55,682,546	
Ⅱ 正味財産期末残高	1,216,652,005	1,160,969,459	55,682,546	

2-付. 正味財産増減計算書 事業別サマリー

(単位: 千円)

実施事業	項 目	収益			経費			差額		
		2019決算	2020予算	2020決算	2019決算	2020予算	2020決算	2019決算	2020予算	2020決算
1	調査研究	167,144	116,869	68,947	167,773	134,684	66,491	-629	-17,815	2,456
	研究会,調査委員会	36,568	35,374	37,124	38,145	41,830	27,009	-1,577	-6,456	10,115
	シンポジウム等	128,068	78,995	29,315	110,038	70,415	19,807	18,030	8,580	9,508
	表彰	2,500	2,500	2,500	6,635	8,407	7,649	-4,135	-5,907	-5,149
	運用益,管理費割掛ほか	8	0	8	12,955	14,032	12,026	-12,947	-14,032	-12,018
2	人材育成	10,468	31,836	23,518	11,537	30,127	15,595	-1,069	1,709	7,923
	教育活動	1,662	2,700	1,047	1,710	4,167	1,422	-48	-1,467	-375
	教育活動-受託分	3,799	21,106	12,857	3,456	16,084	6,711	343	5,022	6,146
	資格認定	5,004	8,030	9,608	4,663	7,857	5,205	341	173	4,403
	運用益,管理費割掛ほか	3	0	6	1,708	2,019	2,257	-1,705	-2,019	-2,251
3	学術講習会	69,030	70,710	48,142	86,900	95,124	63,574	-17,870	-24,414	-15,432
	全国大会	23,532	27,029	20,979	20,613	25,806	17,117	2,919	1,223	3,862
	F I T	21,628	24,436	13,193	21,122	22,811	12,751	506	1,625	442
	プロシン	3,731	4,967	306	3,412	4,945	127	319	22	179
	AIプロコン	825	1,000	925	1,356	1,793	1,311	-531	-793	-386
	その他事業	0	0	0	1,539	1,501	1,571	-1,539	-1,501	-1,571
	セミナー	11,689	10,837	7,755	8,115	8,421	6,709	3,574	2,416	1,046
	ITフォーラム	330	0	440	2,394	2,519	1,110	-2,064	-2,519	-670
	支部所管分	7,272	2,441	4,476	15,441	13,083	9,985	-8,169	-10,642	-5,509
	運用益,管理費割掛ほか	23	0	68	12,908	14,245	12,893	-12,885	-14,245	-12,825
	4	会 誌	18,518	20,667	16,845	75,204	85,888	69,370	-56,686	-65,221
会誌		18,518	20,667	16,845	49,093	57,440	45,564	-30,575	-36,773	-28,719
会誌発送経費					18,326	19,231	14,999	-18,326	-19,231	-14,999
運用益,管理費割掛ほか		0	0	0	7,785	9,217	8,807	-7,785	-9,217	-8,807
5	学術刊行物	98,409	100,332	105,353	102,297	115,146	110,478	-3,888	-14,814	-5,125
	ジャーナル	60,177	62,504	61,852	36,517	45,269	42,366	23,660	17,235	19,486
	トランザクション	13,100	13,037	11,385	8,888	10,223	8,724	4,212	2,814	2,661
	出版-電子出版等	24,140	24,676	31,405	25,004	25,818	28,017	-864	-1,142	3,388
	出版-DP	984	115	700	5,886	3,834	4,474	-4,902	-3,719	-3,774
	出版-歴史	0	0	0	2,192	4,271	1,832	-2,192	-4,271	-1,832
	運用益,管理費割掛ほか	8	0	11	23,810	25,731	25,065	-23,802	-25,731	-25,054
7	国際活動	2,353	1,560	3,333	3,957	4,526	949	-1,604	-2,966	2,384
	国際活動	2,353	1,560	3,333	3,588	4,152	626	-1,235	-2,592	2,707
	運用益,管理費割掛ほか	0	0	0	369	374	323	-369	-374	-323
	共通	26	200	70	13,145	14,070	12,574	-13,119	-13,870	-12,504
	運用益／共通経費	26	200	70	13,145	14,070	12,574	-13,119	-13,870	-12,504
本部 実施事業 小計		365,948	342,174	266,208	460,813	479,565	339,030	-94,865	-137,391	-72,822
法人会計		195,490	191,510	188,851	75,358	99,637	76,981	120,132	91,873	111,870
	会員	195,252	191,210	184,042	17,716	18,005	15,151	177,536	173,205	168,891
	会員	195,252	191,210	184,042	5,917	6,995	4,735	189,335	184,215	179,307
	運用益,管理費割掛ほか				11,799	11,010	10,416	-11,799	-11,010	-10,416
	管理	238	300	4,809	49,425	71,823	55,139	-49,187	-71,523	-50,330
	管理	238	300	4,809	17,319	34,640	17,951	-17,081	-34,340	-13,142
	運用益,管理費割掛ほか				32,106	37,183	37,188	-32,106	-37,183	-37,188
	支部所管				8,217	9,809	6,691	-8,217	-9,809	-6,691
本部 当期正味財産増減		561,438	533,684	455,059	536,171	579,202	416,011	25,267	-45,518	39,048
6	標準化活動	106,751	109,052	94,256	104,939	111,961	77,621	1,812	-2,909	16,635
本部＋標準化の合計		668,189	642,736	549,315	641,110	691,163	493,632	27,079	-48,427	55,683
								1,133,889	1,160,969	1,160,969
								1,160,969	1,112,542	1,216,652

３．財務諸表に対する注記

３－１．重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は、先入先出法による原価法によります。

(2) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、法人税法で定める定額法によります。なお、取得価額が30万円未満のものについては費用処理しています。

(3) 引当金の計上基準

- 1) 退職給付引当金は、職員に対する退職給与の支給に備えるため、自己都合による期末要支給額を計上しています。
- 2) 賞与引当金は、職員に支給する賞与の支出に充当するため、支給見込額を計上しています。
- 3) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒実績率法により計上しています。

引当金の明細は、次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	74,276,860	3,812,400	0	0	78,089,260
賞与引当金	17,700,000	17,700,000	17,700,000	0	17,700,000
貸倒引当金	420,000	3,640	193,640	0	230,000

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

３－２．特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	74,276,860	3,812,400	0	78,089,260
山下記念研究賞積立資産	3,016,191	500,029	1,246,036	2,270,184
記念事業積立資産	32,827,558	769,214	15,707,401	17,889,371
電子化積立資産	25,419,090	1,161	3,602,677	21,817,574
公益目的事業積立資産	43,372,078	33,249	5,089	43,400,238
調査研究積立資産	149,814,769	10,562,406	1,195	160,375,980
音楽情報科学積立資産	1,582,494	15	2	1,582,507
学術刊行物積立資産	123,994,626	11,157	1,705	124,004,078
学術講習会積立資産	138,417,369	67,682	10,362	138,474,689
人材育成積立資産	48,469,537	5,888	900	48,474,525
規格国際会議開催積立資産	51,701,721	6,099	932	51,706,888
規格国際会議派遣積立資産	66,910,098	6,696	1,024	66,915,770
規格電子化積立資産	31,222,868	3,117	475	31,225,510
規格長期運営積立資産	58,059,347	5,805	887	58,064,265
合 計	849,084,606	15,784,918	20,578,685	844,290,839

3-3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りです。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
退職給付引当資産	78,089,260	—	—	(78,089,260)
山下記念研究賞積立資産	2,270,184	—	(2,270,184)	—
記念事業積立資産	17,889,371	—	(17,889,371)	—
電子化積立資産	21,817,574	—	(21,817,574)	—
公益目的事業積立資産	43,400,238	—	(43,400,238)	—
調査研究積立資産	160,375,980	—	(160,375,980)	—
音楽情報科学積立資産	1,582,507	—	(1,582,507)	—
学術刊行物積立資産	124,004,078	—	(124,004,078)	—
学術講習会積立資産	138,474,689	—	(138,474,689)	—
人材育成積立資産	48,474,525	—	(48,474,525)	—
規格国際会議開催積立資産	51,706,888	—	(51,706,888)	—
規格国際会議派遣積立資産	66,915,770	—	(66,915,770)	—
規格電子化積立資産	31,225,510	—	(31,225,510)	—
規格長期運営積立資産	58,064,265	—	(58,064,265)	—
合 計	844,290,839	—	(766,201,579)	(78,089,260)

3-4. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高は、次の通りです。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
民間 補助金・助成金						
講演会助成金 (東海支部講演会)	IEEE Nagoya Section	0	30,000	30,000	0	
研究発表会等開催助成金 (中国支部連合大会)	公財) 中国電力技 術研究財団	0	150,000	150,000	0	
合 計		0	180,000	180,000	0	

※注) いずれも当該事業年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はありません。

4. 附属明細書

4-1. 特定資産の明細

「公益法人会計基準」の運用指針(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略します。

4-2. 引当金の明細

「公益法人会計基準」の運用指針(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記1(3)に記載しているので、内容の記載を省略します。

以上

5. 財産目録

2021年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管	運転資金	357,826
	三菱UFJ銀行 本店	同上	93,414,068
	みずほ銀行 虎ノ門支店	同上	189,531,241
	三井住友銀行 三田通支店	同上	151,632,208
	三井住友銀行 本店	同上	3,474,546
	三菱UFJ信託銀行 本店	同上	3,000,510
	ゆうちょ銀行 019店 (本部)	同上	72,362,385
	ゆうちょ銀行 008店	同上	3,947,992
未収会費	会費に関する未収額	法人会計の未収分	4,838,960
未収金	参加費等に関する未収額	調査研究事業の未収分	5,500,936
	認定情報技術者等に関する未収額	人材育成事業の未収分	2,547,000
	参加費、広告等に関する未収額	学術講習会事業の未収分	7,174,900
	頒布、購読、広告他に関する未収額	会誌事業の未収分	2,080,864
	頒布、掲載、購読に関する未収額	学術刊行物の未収分	8,748,317
	会費に関する未収額	規格事業の未収分	700,000
	受託に関する未収額	標準化事業の未収分	1,546,000
前払金	次年度職員通勤費等の前払い	実施事業および法人の管理運営業務に関連した前払分	2,055,520
	次年度事務所家賃等の前払い	実施事業および法人の管理運営業務に関連した前払分	2,306,801
	関連団体年会費等の前払い	法人の管理運営業務の前払分	106,000
	次年度開催シンポジウム関連経費の前払い	調査研究事業の前払分	177,725
	次年度海外出張者の包括保険	規格包括契約保険料分	152,800
仮払金	国際会議開催準備の仮払金	国際事業の仮払分	2,500,000
	研究会等会場取消の仮払	調査研究事業の仮払分	53,870
支部仮払金	支部小口現金および関西支部への仮払分	学術講習会事業の仮払分	1,746,643
貸倒引当金	短期債権の貸倒れによる損失対応額	各実施事業に関連した引当金 (貸倒実績率法)	△230,000
商品	頒布用バックナンバーの図書相当額	学術刊行物事業の保有分 (先入先出法による原価法)	2,627,424
貯蔵品	封筒、手提げ袋、ノベルティ消耗品相当額	各実施事業の保有分 (先入先出法による原価法)	1,332,843
流動資産 合計			563,687,379
(固定資産)			
特定資産			
退職給付引当資産	三井住友銀行 三田通支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連した退職給付引当金に対応する積立資産	78,089,260
山下記念研究賞積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通預金)	調査研究事業の積立資産	2,270,184
記念事業積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連する積立資産	17,889,371
電子化積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連する積立資産	21,817,574
公益目的事業積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連する積立資産	43,400,238
調査研究積立資産	三井住友銀行 三田通支店 (普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	160,375,980
音楽情報科学積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	1,582,507
学術刊行物積立資産	三井住友銀行 三田通支店 (普通・定期預金)	学術刊行物事業の積立資産	123,867,833
同上	三菱UFJ銀行 本店 (普通・定期預金)	学術刊行物事業の積立資産	136,245
学術講習会積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (普通・定期預金)	学術講習会事業の積立資産	138,474,689
人材育成積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (普通・定期預金)	人材育成事業の積立資産	48,474,525
規格国際会議開催積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	51,706,888
規格国際会議派遣積立資産	三井住友銀行 本店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	66,915,770
規格電子化積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	31,225,510
規格長期運営積立資産	三菱UFJ銀行 本店 (定期預金)	標準化事業の積立資産	58,064,265
その他固定資産			
建物付属設備	建物付属設備、本部関連設備	調査研究事業で使用する設備	348,851
	建物付属設備、本部関連設備	人材育成事業で使用する設備	58,234
	建物付属設備、本部関連設備	学術講習会事業で使用する設備	346,367
	建物付属設備、本部関連設備	会誌事業で使用する設備	266,772
	建物付属設備、本部関連設備	学術刊行物事業で使用する設備	718,126
	建物付属設備、本部関連設備	国際活動事業で使用する設備	8,832
	建物付属設備、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する設備	1,012,718
什器備品	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	調査研究事業で使用する備品	3,209,746
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	人材育成事業で使用する備品	240,874
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	学術講習会事業で使用する備品	3,235,693
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	会誌事業で使用する備品	1,103,845
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	学術刊行物事業で使用する備品	2,528,936
	PC、サーバ、書庫ほか、規格関連設備	標準化活動事業で使用する備品	2,926,508
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	国際活動事業で使用する備品	36,434
	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する備品	4,190,314

リース資産	コピー機	調査研究事業で使用するリース資産	1,623,431
	コピー機	人材育成事業で使用するリース資産	271,000
	コピー機	学術講習会事業で使用するリース資産	1,611,872
	コピー機	会誌事業で使用するリース資産	1,241,462
	コピー機	学術刊行物事業で使用するリース資産	3,341,905
	コピー機	国際活動事業で使用するリース資産	41,100
	コピー機	法人の管理運営業務で使用するリース資産	4,712,830
ソフトウェア	会員管理システム、経理システム、選挙システムほか	法人の管理運営業務のシステム	29,854,300
	研究会受付システム	調査研究事業で使用するシステム	5,990,640
	認定情報技術者管理システム	人材育成事業で使用するシステム	745,800
	出版歴史CMSソフト	学術刊行物事業で使用するシステム	3,150,000
	規格投票プログラム、セキュリティシステムほか	標準化事業で使用するシステム	25,640,085
減価償却累計額	什器備品・ソフトウェアの減価償却累計額（定額法）	実施事業と法人の管理運営業務に関連した左記累計額	△67,751,096
敷金	事務室借室 化学会館／機械振興会館	法人の管理運営に供している資産	21,939,844
固定資産 合計			896,936,262
資産 合計			1,460,623,641
(流動負債)			
未払金	研究会・シンポジウム開催に関する未払経費	調査研究事業の未払分	638,060
	教育認定情報技術者に関する未払経費	人材育成事業の未払分	3,045,590
	全国大会、AI7+ ロボ、支部講習会に関する未払経費	学術講習会事業の未払分	979,030
	会誌刊行に関する未払経費	会誌事業の未払分	1,352,270
	学術刊行物の刊行に関する未払経費	学術刊行物事業の未払分	235,606
	JointAward関係通信費に関する未払経費	国際事業の未払分	1,936
	標準化業務に関する未払経費	標準化事業の左記未払分	745,313
	社会保険料等の未払経費	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	4,450,278
	法人の管理運営に関する未払経費	法人の管理運営業務の未払分	6,779,877
未払消費税等	未払消費税等	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	2,655,900
未払法人税等	未払法人税等	法人税法上の実施事業に関連した未払分	70,000
前受金	次年度研究会登録費ほか受入額	調査研究事業の前受分	13,413,150
	次年度会誌購読料受入額	会誌事業の前受分	475,200
	次年度論文誌等購読料受入額	学術刊行物事業の前受分	13,430,760
	次年度講習会参加費受入額	学術講習会事業の前受分	70
	次年度規格賛助員費受入額	標準化事業の前受分	3,900,000
	次年度会費・入会金受入額	法人の管理運営業務に関連した前受分	81,589,668
預り金	源泉所得税等預り金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した預り分	1,390,808
仮受金	誤入金、未清算金等仮受金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した仮受分	2,111,800
1年以内返済リース債務			2,568,720
賞与引当金	2021年6月の職員賞与支給に関する引当金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金	17,700,000
流動負債 合計			157,534,036
(固定負債)			
リース債務			8,348,340
退職給付引当金	2021年3月末日における自己都合による期末要支給額	各実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金（簡便法）	78,089,260
固定負債 合計			86,437,600
負債 合計			243,971,636
正味財産			1,216,652,005

[第 1 号議案]

1-3. 2020 年度監査報告書

監査報告書

2021 年 5 月 17 日

一般社団法人 情報処理学会

会 長 江村 克己 殿

一般社団法人 情報処理学会

監 事 渡辺



監 事 河内谷清久仁



私たち監事は、2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 2020 年度事業年度における事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (4) あすなろ監査法人の監査の方法および結果は正当であると認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

2021年5月17日

一般社団法人 情報処理学会

会長 江村 克己 殿

あすなろ監査法人

代 表 社 員

業 務 執 行 社 員

公認会計士

嶋 茂



監査意見

当監査法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人情報処理学会の2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

[第 2 号議案]

2. 新名誉会員の推薦

新名誉会員の推薦

第 650 回理事会（2021 年 1 月 22 日開催）の議を経て，定款第 5 条 1 項 2 号
および名誉会員候補者推薦基準にもとづき，下記の方々を新名誉会員に推薦する
こととしたい（順不同，敬称略）。

記

阪田 史郎

喜連川 優

[第 3 号議案]

3. 一部役員の任期満了による 新役員の選任

一部役員任期満了による新役員選任

定款第 27 条により、一部役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任となるので、2021 年 3 月に行われた役員選挙を踏まえ、下記の候補者をそれぞれ選任することとしたい。（参考：選挙投票率：★17.4%）

記

理事：徳田 英幸
 理事：上田 修功
 理事：荒川 豊
 理事：小野寺民也（再任）
 理事：河合 和哉
 理事：清原 良三
 理事：佐古 和恵
 理事：高岡 詠子
 理事：高倉 弘喜
 理事：高橋 尚子
 理事：田上 敦士
 理事：長谷川 亘
 理事：前川 卓也
 理事：湊 真一
 理事：吉濱佐知子
 監事：中野美由紀

注）代表理事および業務執行理事は、本総会直後に開催の新体制理事会において選定。

（参考）

留任役員	退任役員
代表理事（副会長）： 萩谷 昌己	代表理事（会 長）： 江村 克己 代表理事（副会長）： 中川八穂子
業務執行理事： 井上 創造、上原 忠弘、鎌田真由美、 岸野 泰恵、高橋 克巳、辰己 丈夫、 中小路久美代、中山 泰一、西田 知博、 樋口 毅、松尾 豊、森嶋 厚行	業務執行理事： 伊藤 智、鬼塚 真、小野寺民也、 窪田 歩、清水 佳奈、下條 真司、 高橋 尚子、田中 淳裕、長 健太、 西垣 正勝、西山 博泰、本田新九郎
監 事： 河内谷清久仁	監 事： 渡辺 尚

[第 1 号報告]

1-1. 2021 年度事業計画書

1. 概況：重点活動
2. 会員の異動予想
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
5. 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
12. 法人運営

2021 年度 事業計画書

1. 概況および重点活動

新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、感染拡大防止に向けたテレワークによる在宅勤務やイベントのオンライン化などが急速に進み、社会課題解決や社会経済活動を支える根幹として情報処理技術が果たす役割の重要性は非常に大きい。このような情報処理分野での指導的役割を担う立場として、本会の果たすべき役割はますます拡大しており、社会と文化の発展に寄与するための、より長期的視点に基づいた事業の推進が求められている。2020 年の本会創立 60 周年記念で掲げた学会宣言“More local and more diverse for global values”を実現すべく学会体制や各事業の見直し、強化を図りながら新価値創造に繋げていく。

学会の価値向上については、IT エンジニア向け活動の強化として、相互理事制を取り関係を強化した日本 IT 団体連盟（IT 連）との連携を活用し、より広範囲な IT エンジニアに寄与し得る各種イベント、セミナーなどの充実を図り、本会が日本の産業界の成長に資する役割を拡大する。学生・若手研究者育成の活動推進として、2025 年の大学入試の「情報」出題の検討など情報教育を取り巻く状況は大きく変わりつつあり、情報教育を担う教員への支援やデータサイエンス教育カリキュラムの策定など、今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

学会のコア活動としては、会誌については、オンライン記事の強化、デジタルプラクティス、論文誌との連携を強化し、魅力的なコンテンツ作りを進め、「読まれる会誌」「魅力ある会誌」を目指した活動を推進する。調査研究活動では、新たな研究領域開拓やグローバル化などの取り組みにより研究コミュニティの国際的かつ持続的発展を促す環境整備を継続して実施するとともに、イベントも含めて各種オンラインツールを活用した効果的な研究会活動を推進する。

また、60 周年学会宣言の戦略的推進、ニューノーマル時代に対応した効率的な業務推進を目指し、委員会体制を見直すとともに、広報・マーケティング・営業を一貫的な活動として推進する CMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）、学会情報システムの見直しや学会事業・事務局業務の BCP/DX 化を推進する CDO（チーフ・デジタル・オフィサー）の採用も検討していく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて本会が社会に提供する価値拡大に寄与する。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激にオンライン化が進む環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、各種活動のニューノーマル対応や業務の DX 化などに積極的に取り組み、学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施する。

- ① 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取組み、会員数減少幅の縮小を目指す。
- ② IT 連とそれぞれの委員会にメンバを出し合い、新たなイベント、サービスを検討し、より多くの IT エンジニアへのサービス提供を目指す。
- ③ 委員会体制を見直し、CMO、CDO の採用検討、60 周年学会宣言の戦略的推進、事業・業務の DX 化を行い、新サービス提供、安定した運営基盤を確立していく。
- ④ 長期戦略理事を中心に、各事業の健全な継続性に向けて前年度整理をした各事業の課題について、その解決方法について大型投資案件の検討も進めていく。
- ⑤ ジュニア会員活性化委員会を中心にジュニア会員制度を定着・活用し会員数の増加を図る。
- ⑥ 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等を目標に2018年度より運用を開始した学会システムの有効利用とサービスの充実を図る。

- ⑦ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。
- ⑧ 財務状況の見える化，進捗管理化を図るとともに健全な法人運営を行う。

1.2 IT エンジニア向け活動の強化

従来からの認定技術者制度，各種セミナー，イベントの実施，各種団体，企業との連携による活動推進に加え，相互理事制を取り関係を強化した日本 IT 団体連盟（IT 連）との連携を活用し，活動内容の見直しや新しい企画立案を推進する。

- ① 日本 IT 団体連盟（IT 連）のメンバを IT 産業界アドバイザーとして技術応用委員会に招聘し，連携を強化する。より広範囲な IT エンジニアに寄与し得るセミナー，イベント，資格制度とする検討を開始し，IT 連加盟団体会員へのサービス機会の拡大を目指す。
- ② 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度については，引き続き個人認証および企業認定の応募者の拡大に取り組む。2019-20 年度と個人認証による受審者が増大基調にある中，企業認定の再拡大を図るべく企業への勧誘活動に取り組む。Society 5.0 やデジタルトランスフォーメーション（DX）に代表される IT 技術分野の広がり和社会ニーズを踏まえ，データサイエンティストの個人認証の実現に向けて，教育委員会での取り組みと連携しつつ検討を引き続き進める。また，CITP コミュニティの更なる活性化を目指す。2022 年度には IFIP IP3 の更新審査が控えておりこの準備に着手する。
- ③ デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，IT フォーラムなどにより，IT エンジニアの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。具体的にはメーリングリストやフォーラムなど，CITP の交流・発表の基盤の拡大を進め，コミュニティへの参加を促し，活性化を図る。また，会誌を含め多様な媒体を駆使して活動を紹介し，利用者の増加を図る。デジタルプラクティスに関しては，トランザクション（TDP），デジタルプラクティスコナー（会誌），DP レポートの 3 本柱の新体制にて，投稿数の確保，認知度の向上，財政面の改善施策を継続実施する。施策の効果を定量的な KPI（投稿数，ダウンロード数，収支など）で計測して PDCA を回す。CITP や IT フォーラム・研究会，業界団体とも連携する。
- ④ 日本 IT 団体連盟（IT 連），全国地域情報産業団体連合会（ANIA），情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA），科学技術振興機構（JST），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），インターネット協会（IAJ），情報通信技術委員（TTC），日本データ通信協会（JADAC），新世代 M2M コンソーシアム（M2M），日本規格協会（JSA），モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）などの IT エンジニアを対象とする団体や企業との連携をさらに深め，共同イベントの開催などを推進して，会員増に貢献する。

1.3 学生・若手研究者育成の活動推進

初等中等教育を含む情報教育プログラムの推進，今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

- ① 2025 年実施の大学入学共通テストへの「情報」の出題実現に向け，関係する学術団体等と連携し推進するとともに，2022 年度から始まる新指導要領の高校「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修に対し，講師の派遣やオープン教材 MOOC の提供を行っていく。また，2020 年度に引き続き，小中高の教職員を対象とした会費割引キャンペーンを実施する。
- ② 国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」によりさらに上を目指すトップクラスのエリート養成を行う。
- ③ 教育理事を中心とする「ジュニア活性化委員会」において，小中高校生，高専生，大学学部 1～3 年生を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し，学生・生徒の育成を支援するとともに，学部 4 年生以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を促進する。若い IT 人材を育成し

日本の将来の成長に資する。

- ④ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者、ジュニア会員のためのイベントを企画開催する。

1.4 会員サービスと広報広聴活動の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のため、「広報」と「広聴」を戦略的に推進する広報広聴戦略委員会を新設し、魅力ある学会作りを進めていく。

- ① これまでの政策提言委員会と広報委員会を統合し、学会活動を外部に発信する「広報」と外部からの声を聴き、マーケティングにつなげる「広聴」を戦略的に推進する広報広聴戦略委員会を新設する。
- ② 広報広聴戦略委員会で立案する施策方針を具体的な活動に落とし込み、広報・マーケティング・営業を一貫的な活動として推進するCMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）の採用を検討する。
- ③ 学会のセミナー・イベント、委員会など各種活動をオンライン開催、現地開催、ハイブリッド開催など適切な形態で開催できるよう試行を継続する。
- ④ オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進する。
- ⑤ 学会 Web ページを見直し、スマホなど様々なユーザデバイスからの申込や参加費決済などのアクセシビリティと利便性の向上を図る。
- ⑥ 小中高教員のための新規入会キャンペーンを継続し、効果検証を行う。

1.5 情報システム・DXの推進

学会情報システムの見直しに加え、事務局業務のBCP/DX化を推進するため、情報システム委員会を情報システム・DX委員会と改名し、ニューノーマル時代に対応したデジタル化を推進する。

- ① 情報システム委員会を、これまでの学会情報システムの検討に加え、学会業務のニューノーマル対応ならびにDXを推進する情報システム・DX委員会と改名する。
- ② 情報システム・DX委員会で立案するDX戦略を具体的な活動に落とし込み、基幹システムのクラウド化や財務システムの電子化などを推進するCDO（チーフ・デジタル・オフィサー）の採用を検討する。
- ③ 支部 Web サイトのシステム統合について、2020年度に先行実施した九州支部での実績をベースに、残り支部のシステム移行を完了させる。
- ④ 学会 Web サイトやメールサーバなどの本部情報システムについて、クラウド移行やCMSの刷新など、学会のDX活動と連動した改善項目を抽出・精査し、2022年度以降のシステム更改実施に向けた方針を検討する。

1.6 会誌・イベント・調査研究活動の継続推進

ニューノーマル時代での学会誌・研究論文の在り方を継続検討していく。学会誌はオンライン記事の強化を行うとともに、好評だった過去の特集などのオンライン化を推進する。論文誌については、オープンアクセス時代に向けた在り方について継続検討していく。

- ① noteなどを活用し学会誌オンラインの充実化を進めるとともに、オウンドメディアを活用した会誌記事の発信なども試行する。
- ② 各種オンラインツールを利用した新しい研究会やシンポジウム、全国大会、FIT、セミナーなど各種イベントのよりよい開催方式(オンライン開催、ハイブリッド開催を含む)や、研究活動活性化の検討、実施、知見の共有を行う。

1.7 グローバル化の推進

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会との連携を推進する。

- ① IEEE や ACM 等のグローバルトップの国際学会活動を参考にして、学会のグローバル運営戦略を検討

し、これを実施する。また、Joint Award の継続、浸透を図る。

- ② アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) と中長期的な CJK 連携の強化活動を加速し、国際会議の合同開催等を継続する。

2. 会員数について

下記の取り組みを実施し、会員数の増加を目指す。

2.1 新規会員の獲得と会員減の防止

- ① 各活動において学会の価値向上に取り組み、新規会員の獲得に努める。
- ② 理事を中心に新規会員獲得の地道な勧誘と企業への働きかけを継続するとともに、引続き、退会要因の分析による退会抑止に努める。
- ③ 会費の口座引落、クレジットカード決済等の推進により「滞納→資格喪失」を防止するよう継続して対応する。
- ④ 外部 IT 団体との連携推進により、産業界に属する会員への学会価値向上に向けた検討を進める。
- ⑤ 会員マイページのアクセス率向上を推進する。

2.2 小中高校教員、学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進する。
- ② 学生会員の 1 研究会無料登録を継続し、研究会活動への参画を通じて学生会員の育成に努める。
- ③ 学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上のため、学生から企業若手社員をターゲットとしたコンテンツの拡充によって学会の魅力を向上させる。
- ④ ジュニア会員獲得の施策として、2020 年度に引き続き、小中高校の教職員を対象とした会費割引キャンペーンを実施する。
- ⑤ 2018 年度に新たに発足した、教育担当理事をはじめ関連担当理事が参画した「ジュニア会員活性化委員会」により、上記の活動をさらに推進する。

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2021 年度の異動内訳				
	① 2021 年度末	② 2020 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	45	43	2	0 2	新入会 正会員から異動			
正会員	14,729	15,008	-279	500 820 0	学生会員から異 動 ジュニアから異動	1,040 2	名誉会員に異動	557
学生会員	2,472	2,525	-53	1,300 69	ジュニアから異動	570 820	正会員に異動	32
ジュニア会員	2,396	2,182	214	820		537 0 69	正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	19,642	19,758	-116	3,511		3,038		589
賛助会員 (口数)	256 (588)	265 (609)	-9 (-21)	15 (15)		24 (36)		

*2021 年度期末正会員数には終身会員 724 名を含む。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を活用し効率的な運用に努める。

3.1 2021 年度通常総会

2021 年 6 月 8 日（火）に、学士会館（東京都千代田区）にてハイブリッド開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とし、理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。また、各種委員会は必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

3.3 アドバイザリーボード

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。

4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学会のコアの活動として重点的に取組み、関連諸活動とも連携して研究会登録数の減少を食い止めるとともに活動の拡大・発展を目指す。

具体的には下記の取り組みを推進する。

- ① 長期的な研究のグランドデザインや 2019 年度に開催した「情報学の次世代検討会」での検討を元に、第 6 期科学技術基本計画に向けて、情報処理分野における学術大型研究計画の企画・立案の検討を継続する。
- ② 国の政策や方針に関する各研究分野の提言提案活動を推進する。
- ③ 本会として必要なグローバル化のための議論を継続する。国際会議を積極的に主催、共催し財務の健全化に努める。CCF, KIISE との連携を軸に CJK での活動を加速し CNCC での CJK Joint Technical Forum の継続推進と、国際会議の開催等を継続する。
- ④ 研究会活動の国際化、特に、海外学会との共同シンポジウム、合同ワークショップを積極的に開催し、国際的かつ継続的な“研究コミュニティの形成”を行い、新しい研究、技術の国際的発信を継続的に行う研究活動環境を構築する。
- ⑤ 調査研究運営委員会直下に設置・移動する 2 つの研究グループを中心に、領域横断的な研究分野に対する研究活動実施体制の深化を含む、研究コミュニティの持続的発展を支える体制構築を促す環境整備を継続して検討・実施する。
- ⑥ 学生・若手に向けた積極的な取り組みにより、将来を担う学生・若手研究者の育成を図る。学生会員の 1 研究会無料登録制度や学生プログラムコンテスト等、若手研究者の積極性を促すような企画を計画・実施する。
- ⑦ 調査研究積立資産を活用し、個々の研究会活動を超えて、領域単位のプロジェクト、若手表彰、国際化の推進など調査研究全体の活動も積極的に展開する。研究会の収支の透明化を図り、適切な管理費の負担を行う。
- ⑧ 若手の意見を吸上げ、研究会の動画配信・動画コンテンツを含む研究会資料などの取組を継続して実施する。その他、必要に応じて、研究会組織の見直し、研究発表会への新たな参加方法の検討などを行う。
- ⑨ IT を活用した効果的な研究会活動を推進する。特に各種オンラインツールを利用した新しい研究会

やシンポジウムのよりよい開催方式(オンライン開催、ハイブリッド開催を含む)や、研究活動活性化の検討、実施、知見の共有を行う。

4.1 研究発表会 [所掌：調査研究運営委員会]

全41研究会、5研究グループ(詳細はp.82「付表1」参照)により、156回程度(前年度154回)の研究発表会を開催する。

4.2 シンポジウム・ワークショップ等 [所掌：調査研究運営委員会]

シンポジウム・ワークショップ等については、マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOM02021)シンポジウム、コンピュータセキュリティシンポジウム(CSS2021)やインタラクション2022など計19回の開催を計画する(詳細はp.83「付表2」参照)。

4.3 表彰 [所掌：各選奨等委員会]

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、情報処理技術研究開発賞、マイクロソフト情報学研究賞、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research、IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award、若手奨励賞などを贈呈する。

5. 実施事業2：人材育成(定款第4条1項4号)

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施する。

5.1 情報教育 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) J17 カリキュラム標準の普及活動

2017年度に策定したJ17-CS、J17-IS、J17-CE、J17-SE、J17-ITの情報専門学科用カリキュラム標準および、一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEについて、フォローアップ作業を行う。

(2) 初等中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して、初等中等教育現場の情報分野の教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進する。国の情報教育の方向および内容に関して、関係する学術団体等とも連携して意見書や試作学習指導要領の公表などの提言を行う。また、NAPROCK(高専プロコン交流育成協会)、ITジュニア育成交流協会などとの連携により、高専生向け産学連携シンポジウムの実施や、各地での勉強会・大会の実施を支援する。

5.2 アクレディテーション(技術者教育プログラムの認定) [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構(JABEE)委託の認定評価を継続する。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の品質保証に努め、ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を継続推進する。

5.3 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会、個人認証審査委員会、企業認証審査委員会]

認定情報技術者(Certified IT Professional:略称CITP)制度については、引き続き個人認証および企業認定の応募者の拡大に取り組む。2019-20年度と個人認証による受審者が増大基調にある中、企業認定の再拡大も図るべく勧誘活動に取り組む。Society 5.0やデジタルトランスフォーメーション(DX)

に代表される IT 技術分野の広がり和社会ニーズを踏まえ、データサイエンティストの個人認証の実現に向けて、教育委員会での取り組みと連携しつつ検討を引き続き進める。また、CITP コミュニティの更なる活性化を目指すとともに、技術士会等関連組織との連携強化を引き続き進める。2022 年度には IFIP IP3 の更新審査が控えておりこの準備に着手する。

5.4 情報教育を担う教員のへの支援 [所掌：情報処理教育委員会]

2014 年度から実施している選択必修領域「ICT 活用」、および選択領域（プログラミングなど）の教員免許更新講習を引き続き実施する。本会が講習を実施することで、「情報」に関する更新講習不足を補うとともに、高校の情報科教員の養成を支援する。加えて、2022 年度から始まる新指導要領の高校「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修に対し、講師の派遣やオープン教材 MOOC の提供を行っていく。また、2020 年度に引き続き、小中高の教職員を対象とした会費割引キャンペーンを実施する。

5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営する。高校教科「情報」シンポジウムを開催する。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために、情報システム教育コンテストを開催する。また、若い世代への本会のプレゼンス向上をめざして、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進する。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

「情報科」での「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための試験問題について、今までに作った問題の整理（問題集や解説本）や新たな作問を継続して行う。大学入試センターが 2025 年実施の大学入学共通テストに「情報」の出題を検討している状況であり、関係する学術団体等と連携し、大学入学共通テストへの「情報」の出題の実現に向けた活動を行う。

(3) ジュニア（中高生）世代の活性化をはかる活動

全国大会において、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストを継続実施するとともに、初等中等教員の研究発表セッションを開催し、教員を取り込んで中高生の活性化を図る。「ジュニア会員活性化委員会」により、活動をさらに推進する。国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」によりさらに上を目指すトップクラスのエリート養成を行う。

(4) 情報学分野に隣接する領域の教育への協力

データサイエンス・AI 教育に関して、高等教育向けモデルカリキュラム、および教育プログラム認定制度の動向を調査し策定に貢献するとともに、データサイエンティスト資格認定プログラムの策定に向けて協力する。また、2020 年度に策定したデータサイエンスのカリキュラムについて、引き続きフォローアップ作業を行う。

(5) 情報教育の国際化への活動

2022 年に開催予定の WCCE2021（IFIP/TC3 との共催）の準備を本格化させ、具体的な実施計画を策定する。ソフトウェア工学教育を始め国際化に関して引き続き国際動向を調べる。

(6) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」、「note オンライン記事」などの教育関連連載記事を企画・編集する。

(7) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈する。
- ② 教材、講義素材、講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討する。

6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

学術講習会は、学会の重要な収入源であるとともに、学生も含めた若手研究者の活動の場あるいは企業のIT技術者の情報交換の場でもある。2021年度は下記の方針で取り組む。

- ① 全国大会は、例年通りに愛媛大学にて開催する。
- ② 情報科学技術フォーラム（FIT）は、全体的にオンライン開催とする。プログラム編成を伴う選奨・一般セッションなどはオンラインとし、Covid-19の鎮静化をみながら、可能な範囲でイベント（特に地域向け）の実開催を検討していく。
- ③ 企業のITエンジニア向けの連続セミナー、短期集中セミナーなどは魅力的なテーマを選定し、連続回数や一回当たりの講演時間の適正化を図りつつ活動を活性化させる。
- ④ イベント周知のため、学会誌への定期的な記事掲載、WebやSNSなど各種媒体での告知を検討する。
- ⑤ ジュニア会員向けのプログラミング教室やプログラミングコンテスト、中高生情報学研究コンテストを継続する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第84回全国大会 [所掌：全国大会運営委員会]

会期：2022年3月3日（木）～5日（土）、会場：愛媛大学

参加者見込：約3,500名（前年度3,486名）

ニコニコ生放送、中高生情報学研究コンテスト（ポスターセッション）も継続実施する。

(2) 第20回情報科学技術フォーラム（FIT2021） [所掌：FIT運営委員会]

会期：2021年8月25日（水）～27日（金）、会場：東北学院大学（オンライン）

参加者見込：約2,100名（前年度2,036名）

選奨セッション、トップコンファレンスセッションを継続実施する。研究会との合同開催も継続し、集客とスポンサー獲得にも注力する。

(3) 表彰 [所掌：全国大会運営委員会]

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 セミナー／その他イベント

(1) 連続セミナー2021 [所掌：セミナー推進委員会]

産業界向けのイベントとして以下を企画、オンライン開催する。参加者数見込：延1,185名。

オンライン開催にあたり、集中力持続の観点から1回の開催時間を2時間程度に圧縮し、年12回に変更する。開催回数変更に伴い参加費も改訂する。

全体テーマ 「ニューノーマル時代に向けた情報技術の潮流」

- ①・②「情報技術のポストコロナ社会への貢献」2時間×2日
- ③・④「IT分野の研究開発動向を俯瞰する」2時間×2日
- ⑤・⑥「AI関連(SF, 未来技術, 脳)」2時間×2日
- ⑦「AI×ロボティクス-深層学習によるロボットの知能化-」2時間×1日
- ⑧「AI×ロボティクス -AIとロボットの共進化-」2時間×1日
- ⑨・⑩「デジタルシフトに向けたセキュリティとプライバシーとトラスト」2時間×2日
- ⑪「量子インターネットと量子サイバースペース」2時間×1日
- ⑫「生成系AI（GPT-3等）とその信頼されるAI」2時間×1日

(2) 短期集中セミナー等 [所掌：セミナー推進委員会]

学生・若手開発者向けの1日開催のセミナーを6回程度開催する。ITエンジニア向けのイベントをタイムリーに開催する。関連団体と共催しセミナーを開催する。ジュニア会員向けのプログラミング教

室をジュニア会員活性化委員会と連携し開催する。

(3) IT フォーラム 2022 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

4 つの IT フォーラムの年間活動発表を含め産業界の課題を中心に議論する。

会期：2022 年 2 月予定、会場：東京都内予定、参加者数見込：500 名

- ① 本イベント開催形態、プログラム等の改善などにより、集客力を強化する。
- ② IT フォーラム、デジタルプラクティスとの連携によりシナジー強化を図る。

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

以下3つのシンポジウムを開催する。

- ① 夏のプログラミング・シンポジウム 会期：2021年9月頃予定 オンラインまたは合宿形式
- ② 情報科学若手の会 会期：2021年10月頃予定 オンラインまたは合宿形式
- ③ 第63回プログラミング・シンポジウム 会期：2022年1月頃予定 オンラインまたは合宿形式

6.3 IT フォーラム [所掌：IT フォーラム推進委員会]

- ① 次の 4 つのフォーラムで活動する。

サービスサイエンス／CITP／コンタクトセンター／勉強会

- ② 年1回の成果報告と評価を実施し、それに基づくフォーラム組み替えの仕組みを確立し、新たなフォーラムの立ち上げを検討する。
- ③ 戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため、日本IT団体連盟（IT連）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）、一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）、インターネット協会（IAj）など、ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また、ITエンジニアが学会に何を期待するのかを、フォーカスグループなどにより調査する。
- ④ 論文誌トランザクションデジタルプラクティス編集委員会／会誌デジタルプラクティスWG、ITプロフェッショナル委員会との連携を強化して、ITエンジニアに魅力のあるコミュニティに向けて検討する。

6.4 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

各支部において支部連合大会、講習会、ジュニア会員向けイベント等を開催する。

7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

全会員に冊子で配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」、「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に、特集と連載中心の編集を行う。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービスという観点からも、会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにする。動画・ソースコードなどを加えた学会誌オンラインを充実する。オンラインのみの記事の検討も行うとともに、紙媒体の会誌は一覧性を考慮しつつ厳選する。

- ① 時事性・話題性の高い「特別解説」や連載記事のバラエティを増やすなど、幅広い読者に読まれる会誌を目指す。
- ② 毎月の季節を考慮した定番記事を工夫する。

- ③ ジュニア会員を含めた会員モニタによる意見をフィードバックする。
- ④ note などのオンライン記事の強化を行う。
- ⑤ デジタルプラクティス、論文誌との連携を強化し、連動した特集を企画していく。
- ⑥ 小中高生（ジュニア会員）向け記事を増やす。
- ⑦ 女性編集委員増を委員会活性化、記事の魅力の増加、新たな企画提案につなげる。
- ⑧ 冊子体では伝えきれないような、体験型の情報提供・啓蒙に資するため、会誌に付録をつける。
- ⑨ 記事と連動したマルチメディアデータの情報学広場への掲載についても検討する。
- ⑩ 会員へ国内外会議の周知、また、積極的な参加を呼びかけるため会議レポートを毎月 1, 2 本は掲載する。
- ⑪ 会員外にも訴求するように記事を工夫する。
- ⑫ 研究室、研究所のインタビュー・取材記事を検討する。
- ⑬ 非専門家や学びたい初学者、教えたが教員のためにフレッシュマンコースや学校での講義素材となるような記事を企画する。
- ⑭ 分野を越え、多くの領域とつながる情報技術に目を向けた記事を増やす。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 技術書典など技術者の集まるイベントへの出展とグッズ販売を通し、学会の認知度を高める。
- ② 一貫した編集方針のもとで円滑に編集作業を進められるよう、編集長の業務をサポートしフォローできる役職として副編集長制度を継続する。
- ③ 会誌への広告掲載、IPSJ メールニュースへの広告掲載、Web サイトへのバナー広告掲載、カタログ同封サービスへの広告掲載の魅力を高め、広報広聴戦略委員会と協力して広告獲得に一層努力する。
- ④ 別刷の購入、書籍化を視野に入れた特集等の企画を積極的に行う。
- ⑤ 特集記事に関連した広告を掲載できるように広報活動を強化する。
- ⑥ 一般読者が読み物として気軽に読めるように、各記事のページ数を減らす。
- ⑦ Kindle, Fujisan において会誌電子版、特集別刷電子版の販売・購読を促進する。
- ⑧ LINE スタンプの販売を促進する。
- ⑨ amazon に加え書店連携等による拡販を促進する。
- ⑩ 学校への出前授業を毎年継続して行う。
- ⑪ note や Twitter による情報発信の強化を行う。
- ⑫ フィードバックシステムのフォーム化を行う。
- ⑬ Youtube や GitHub など、紙媒体の枠を超えた発信を行う。
- ⑭ オウンドメディア配信プラットフォーム「OPTMS CONTENT」にて会誌記事の発信を行う。

8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

論文誌の論文投稿数、採録数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）は基幹英文論文誌として育成・強化する。トランザクションのインパクトファクタの取得も目指す。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

1) 論文投稿数の増加に向けた取り組み、および採択数の増加に向けた取り組み

- ① 年間の論文採択数は、240 編以上を目標とする。
- ② 論文執筆のための心構えの広報の強化による投稿論文の質の向上を図るとともに、「べからず集」

の徹底による査読の質の向上とそれに伴う採択率の安定・向上を目指す。

- ③ 研究会推薦論文制度や招待論文制度等を積極活用し、良質の論文の投稿を喚起する。
- ④ 付録データの活用を促進し、論文の価値の向上を目指す。
- ⑤ 論文誌編集委員会企画の特集号を継続する。
- ⑥ 全国大会でイベント企画（論文必勝法）を実施する。イベント企画におけるトランザクションデジタルプラクティスとの連携も検討する。
- ⑦ ジュニア会員の掲載料無料化を実施し広報を行う。

2) 編集体制と論文査読管理システム運用の見直し

- ① 2017 年度に整備された編集体制にもとづき、論文誌担当理事とは独立した編集長（任期は 1 期 2 年で再任まで）のもとで、引き続き編集委員会を運営する。グループ主査および副査の任期についても柔軟に対応し、編集委員会の継続性向上やノウハウの伝承がよりの確に行われるように配慮する。
- ② 査読システムに関する中長期的な検討を行う。ScholarOne Manuscripts の適切な利用方法に関するマニュアル等を整備し、安定的運用を図る。あるいは、システムの変更も含め検討を行う。

3) 電子化を有効活用した改善

論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の有効利用を検討する。

4) その他

オープンアクセス時代に向けた中長期的な論文誌のあり方について随時検討を行う。また、デジタルコンテンツ事業検討委員会とともに電子図書館のプラットフォームについても引き続き検討を進める。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

1) JIP の海外投稿促進と国際化

Web of Science 収録基準を満たし、インパクトファクタ（IF）の取得に向けた施策を実施する。

- ① 年間論文採択数は 70 編以上を目指す。
- ② 研究会推薦論文の英語化を促し JIP に掲載するというパスを確立させ、良質の論文を呼び込む。
- ③ 編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。
- ④ 国際会議の優秀論文、著名な研究者の招待論文、国内の大規模プロジェクト等の成果論文を積極的に採録する。また、国際会議・海外の学会との連携等、JIP 独自の特集号を企画する。
- ⑤ arXiv などパブリックなプレプリント・サーバーを活用して JIP 論文のビジビリティ向上を図る。
- ⑥ クラリベイト・アナリティクス社の Emerging Sources Citation Index (ESCI) への登録による citation の向上計測を行う。

(3) トランザクション (10 誌) [所掌：各トランザクション編集委員会]

発行の安定性と永続性、ジャーナルとの協調、JIP との連携、購読数の拡大を目標に、トランザクション 10 誌合計で採択論文数 130 編以上を目指す。特に研究会との連携による投稿数増大を目指すとともに、分野の特性に応じた論文の種類について検討する。ジャーナルと同様に英文論文の投稿促進、および英文トランザクションのインパクトファクタ取得の検討を進める。また、トランザクションにおける論文査読管理の電子化の推進を行う。

(4) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞等を贈呈する。

編集委員の貢献に報いるため、論文誌編集委員会の貢献賞を贈呈する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

発行済 61 冊の教科書の改訂を着実に進めるとともに、新規企画の検討を行う。改訂と新規企画にあたっては、書籍の電子化を進めるとともに、産業界向けに話題性の高い技術の企画出版を検討する。2021

年度早期に「ディープラーニング～音声，言語，画像への応用」，「データサイエンス」他を刊行予定である。また，昨年からオーム社と共同で始めた一般向けの企画本シリーズを継続し，「クラウドシステム」を発刊予定であり，それ以降の企画テーマについても検討を行う。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会，コンピュータ博物館小委員会]

現存している歴史的に価値のある機器の保存活動を継続して行う。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① 多くのユーザへのビジビリティ向上を目的に2014年4月よりサイトライセンスサービスを開始した。2014年度36件（大学のみ），2015年度50件（大学＋企業），2016年度59件，2017年度62件，2018年度67件，2019年度70件，2020年度78件とサービスを拡大した。2021年度は80件を目指す。
- ② サイトライセンス機能のユーザビリティ向上等，会員からの要望に応え，情報学広場のサービスの充実を図る。
- ③ 研究会，論文誌編集委員会と連携し，マルチメディアコンテンツを含む論文の採録に取り組む。
- ④ 電子図書館の財政面，運用面，プラットフォーム等の抜本的な改革検討を継続して行う。

9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

ISO/IEC JTC 1 対応を主に，情報技術に関する国際規格の審議およびこれに関する調査研究，国内規格の審議などによる標準化活動を行う。より戦略的かつ健全な運営を行うために，標準化活動の重み付けのさらなる検討と，規格賛助員および委員会メンバのためのサービス向上に努める。

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO/IEC JTC 1 直属の19のSC（全22SC委員会中）および各AG（Advisory Group），WG，AHG（Ad Hoc Group）の対応を行う。さらに国際提案準備と，JIS 原案作成を適宜行う。

- ① メディア符号化（SC29），デジタル記憶媒体（SC23），文字コード（SC2）などの重点領域の議長，幹事国役職引き受けを継続する。
- ② 2020年11月に開催されたJTC 1総会で設置されたAG 18（語彙）については，関連する情報処理用語JISの改定とも関連するため，サブグループ対応小委員会で担当し，積極的に対応していく。その他のAGについても，優先度を見極めながらサブグループ対応小委員会，あるいはディレクティブズ小委員会で対応していく。
- ③ 議長，幹事国，コンビーナ，プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め，活動の優先度を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。
- ④ ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMA），電子情報技術産業協会（JEITA），情報通信技術委員会（TTC）などの協力を得ながら積極的に対応を図る。JTC 1が取り組むテーマがISO，IEC，およびITU-Tと重複する傾向があることから，日本として整合の取れた対応をすべく，関連の国内対応委員会との情報交換を推進する。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 次世代情報システムについては，本会本部の次世代システムの検討と歩調を合わせながら，本部システムとの統合を視野に入れつつ情報規格調査会としてのシステムのあり方を検討する。
- ② 本部と情報規格調査会との連絡会を継続して開催し，予算計画など本部との情報共有を図りつつ健全な運営を図る。

- ③ 今年度も引き続きCOVID-19感染拡大防止への取組みを想定するとともに、オンライン化による委員会活動の効率化や利便性の向上を積極的に活用していく。ウェブ会議等のツールの拡充に努め、所在地にかかわらず専門家が委員会等へ積極的に参加できるよう促す。また、事務局業務のDX化をさらに推進し、ニューノーマルに適応した情報規格調査会の運営の確立をめざす。

(3) 標準化活動の支援と広報

- ① 2020年度に引き続き、有料の標準化セミナーを開催し、国際標準化におけるホットトピックスや各委員会における活動内容を紹介することで、国際標準化に対する意識を高め、国際標準化活動への参加者を募る。
- ② 広報活動を強化し、情報規格調査会の存在と活動に関する認知度を高める。
- ③ 2020年度に引き続き、システムのセキュリティ強化と委員会活動の効率化を推進する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会との連携を推進する。

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP 委員会]

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
- ② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加と IFIP 活動周知の活性化
- ③ IFIP IP3の活動に参加し、CITP 資格の国際的相互認証の仕組みを継続
- ④ 2022年に日本での開催が決定した国際会議「World Conference on Computers in Education(WCCE)」の開催に向けてコンピュータと教育研究会および教育学習支援情報システム研究会で準備

(2) IEEE ならびに IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① The 45th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2021) への技術協力
日程：2021年7月12日（月）～16日（金）、場所：Virtual
- ② 全国大会での IEEE-CS 会長招待講演実施と連携の為のミーティングを継続
- ③ IEEE-CS との姉妹学会 MOU を継続するとともに、会員向けの連携サービスを検討
- ④ IEEE-CS と本会との Joint Award として、3名以内に「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」を授与

(3) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と双方の全国大会への交互招聘を継続し連携・協力を推進する。
- ② Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力および双方の全国大会での会長の交互招聘・招待講演を実施する。
- ③ CJK-meeting (中国・日本・韓国)、CJK Joint Technical Forum (CNCC2021にて) を継続する。
- ④ Association for Computing Machinery (ACM) との連携・協力を推進し、本会との Joint Award として、1名に「IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research」を授与する。
- ⑤ 下記の海外学協会との協力関係を継続する。
- ・ Computer Society of India (CSI)
 - ・ Australian Computer Society (ACS)

- ・ South East Asia Regional Computer Confederation (SEARCC) とともに協力関連構築を模索
- ⑥ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加。
- ⑦ 日本に留学生を多く輩出しているアジア地域などの国々の情報系学会との共同シンポジウムなどによる連携の機会を検討し、新たな取り組みを企画する。

(4) 国際会議

COMPSAC2021の他、下記3件の国際会議を開催する。

- ・ International Workshop on Security (IWSEC2021)
2021年9月8日～10日、立教大学池袋キャンパス（日本）
- ・ International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2021)
2021年11月17日～19日、日本科学未来館（日本）
- ・ International Conference on High Performance Computing in Asia Pacific Region (HPCAsia2022)
2022年1月12日～14日、神戸（日本）

1 1. その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

関連学協会との連携および協力を行う。日本IT団体連盟（IT連）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）等とこれまでの協力関係をさらに強化する。

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会に参加し、関連学協会との協力連携を図る。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前6項参照）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として参加協力する。

11.2 会議の協賛後援等

関連学協会（機械学会など）からの要請に応じて適宜、連携イベントや会議の協賛後援等を行う。

1 2. 法人運営

会員の視点での会員サービスのあり方を検討し、必要に応じて会員制度および学会情報システムの見直しを実施する。

12.1 政策提言活動の推進

政策提言委員会は、新たに広報広聴戦略委員会として学会各種委員会と連携して、国の政策および方針について学会としての意見を積極的に提言・情報発信することにより、国および関連機関から「頼られ＆相談される学会」を目指して、学会の一層の発信力向上に繋げる。

12.2 運営体制の充実・改善等

(1) ニューノーマルに向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により社会が急激に変化していく中で、学会のイベント、委員会等各種活動のオンライン化ならびに現地開催、ハイブリッド開催を含めた適切な活動形態の試行、事務局のBCP/DX化推進を2020年度に引き続き進めていく。また、「情報処理学会60周年宣言～More local and more diverse for global values～」のとおり、以下の3つを柱として学会の更なる進展を目指し継続的に検討をしていく。

- ① 情報社会において各地域や各分野の担い手とともに先端技術で社会課題を解決し、そのプラクティスをグローバルに通ずる新価値創造に繋げる。
- ② 情報処理の最先端を先導する学会として常に新しい領域の開拓と人材ネットワークの構築に寄与する。
- ③ 情報に関する学びの場を提供し、生涯にわたる個々人の成長に寄与する。

(2) 運営体制の見直し

60周年学会宣言の戦略的推進、ニューノーマル時代に対応した効率的な業務推進を目指し、委員会体制を見直す。

- ① 学会のビジネスモデルを変革しつつ60周年学会宣言を戦略的に実行するため、総務財務運営委員会、企画政策委員会、新世代企画委員会を統合し、経営企画委員会を新設する。
- ② 60周年学会宣言の鍵となる学会活動を外部に発信する「広報」と外部からの声を聴き、マーケティングにつなげる「広聴」を戦略的に推進するため、政策提言委員会と広報委員会を統合し、広報広聴戦略委員会を新設する。
- ③ 学会情報システムの検討に加え、学会業務のニューノーマル対応ならびにDXを推進するため、情報システム委員会を情報システム・DX委員会と改名する。
- ④ 情報学広場以外のオンラインコンテンツも含めた先鋭化を検討するため、デジタルコンテンツ事業検討委員会に電子図書館対応検討WGを吸収する。
- ⑤ 広報広聴戦略委員会で立案する施策方針を具体的な活動に落とし込むCMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）と情報システム・DX委員会で立案するDX戦略を具体的な活動に落とし込むCDO（チーフ・デジタル・オフィサー）の採用又は外部コンサルチーム委託を検討する。

(3) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に進めてきた、中長期計画の方向性骨子と大型投資を伴う中長期施策について、具体的な検討を進めていく。

(4) ワークプレイスへの取り組み

Info-WorkPlace委員会を中心に、働き方改革に対する取り組みを実施する。具体的にはさまざまなメディアを通じて、個々人の働き方を紹介し、イベント企画(全国大会等との連動企画)を継続的かつ積極的に行っていく。

(5) 新世代発想の学会運営への取り組み

新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」の活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。若手研究者によるトークイベント「IPSJ-ONE」は継続し発展させる。また、2019年度新たに開始した企業と研究者のマッチング、学会イベント支援として、受付のオンライン化の試行を引き続き行う。学生会員・ジュニア会員の育成に資するサービスやイベントの充実に向けた施策を、関係委員会やエンジニア教育に熱心な企業等との連携を視野に入れて検討し、試行するとともに引続きジュニア会員活性化委員会・企画政策委員会・政策提言委員会・調査研究運営委員会などと連携して対応する。若手研究者のための新たな施策として、国際的活動ノウハウの共有イベントの実施、研究会アーカイブの拡充を図る。

(6) 財務基盤の強化

- ① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続する。
- ② 終身会員や仕事をリタイアされた個人および企業の皆様に幅広く寄付の御願いをし、学会活動の更なる活性化を図っていく。寄付は現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産、ボランティアで提供いただける役務なども可能とする。

(7) アドバイザリーボードによる運営改善

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。IT ユーザ業界からのメンバ増強も検討する。

(8) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter, 情報処理学会公式ニコニコチャンネル, You Tube, Kindle, などソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進する。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介, IPSJ メールニュースの内容充実に継続して努める。
- ③ 諸活動データの収集・分析により, その評価・改善を継続する。
- ④ 学会 Web サイトのアクセシビリティ, ユーザビリティの課題洗い出しと改善策検討を進める。

12.3 情報システムの拡充

支部 Web サイトのシステム統合について, 2020 年度に先行実施した九州支部での実績をベースに, 残り支部のシステム移行を完了させる。また, 学会 Web サイトやメールサーバなどの本部情報システムについて, クラウド移行や CMS の刷新など, 学会の DX 活動と連動した改善項目を抽出・精査し, 2022 年度以降のシステム更改実施に向けた方針を検討する。

12.4 その他表彰等

功績賞, 学会活動貢献賞, 感謝状の贈呈のほか, フェロー認定, シニア会員認定, 情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。

以上

【付表 1：研究会・研究グループ】

【コンピュータサイエンス領域：研究会（11）（括弧内は英略称）】

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），システム・アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムとLSIの設計技術（SLDM），ハイパフォーマンズコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB），量子ソフトウェア（QS） 各研究会

【情報環境領域：研究会（16）（括弧内は英略称）】

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），ドキュメントコミュニケーション（DC），モバイルコンピューティングと新社会システム（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS），ユビキタスコンピューティング（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス&システム（CDS），デジタルコンテンツクリエーション（DCC），高齢社会デザイン（ASD） 各研究会

【メディア知能情報領域：研究会（14），研究グループ（3）（括弧内は英略称）】

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE），アクセシビリティ（AAC） 各研究会
ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（SSR），情報処理に関する法的問題（LIP） 各研究グループ

【調査研究運営委員会：研究グループ（2）（括弧内は英略称）】

ビッグデータ解析のビジネス実務利活用（PBD），オープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ（RDM） 各研究グループ

【付表 2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開催日	場所
マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO 2021)シンポジウム (DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2021. 6. 30(水)～7. 2(金)	花巻温泉 ホテル千秋閣
cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programminG (xSIG2021) (ARC, OS, HPC, PRO)	2021. 7. 20(火)	いわて県民情報交流 センター アイーナ
画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2021) (CVIM)	2021. 7. 27(火)～30(金)	名古屋国際会議場
情報教育シンポジウム (SSS2021) (CE, CLE)	2021. 8.	福岡工業大学
エンタテインメントコンピューティング 2021 (EC)	2021. 8.	慶應義塾大学 日吉キャンパス
DA シンポジウム 2021 (SLDM)	2021. 9. 1(水)～ 3(金)	鳥羽シーサイド ホテル/オンライン
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (SES2021) (SE)	2021. 9. 6(月)～ 8(水)	オンライン
コンピュータセキュリティシンポジウム 2021 (CSS2021) (CSEC, SPT)	2021. 10.	(神戸)
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2021. 11.	(未定)
ゲームプログラミングワークショップ (GPW2021) (GI)	2021. 11.	箱根セミナーハウス
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2021) (OS)	2021. 11.	(未定)
グループウェアとネットワークサービスワークショップ 2021 (GN)	2021. 11.	(未定)
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2021) (EMB)	2021. 11.	(タイ)
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2021) (IOT)	2021. 12. 2(木)～ 3(金)	東北大学 (予定)
災害コミュニケーションシンポジウム (IS, IOT, SPT)	2021. 12.	(未定)
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2021) (CH)	2021. 12.	関西大学 100 周年 記念会館
ITS 研究フォーラム (ITS)	2022. 1.	慶應義塾大学 日吉キャンパス
ウィンターワークショップ 2022 (SE)	2022. 1.	(未定)
インタラクション 2022 (HCI, GN, UBI, DCC, EC)	2022. 3.	学術総合センター

[第 1 号報告]

1-2. 2021 年度収支予算書

2021年度収支予算書（損益計算ベース）

2021年4月1日から2022年3月31日まで

（単位：円）

※公益法人会計基準（2008年4月11日 内閣府公益認定等委員会）に準拠。

科目	2021年度予算	2020年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
※一般正味財産のみ				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
特定資産運用益	228,000	228,000	0	
特定資産受取利息	228,000	228,000	0	
受取入会金	600,000	600,000	0	
受取入会金	600,000	600,000	0	
受取会費	180,150,000	189,400,000	△ 9,250,000	
正会員受取会費	138,600,000	146,500,000	△ 7,900,000	*個人会員減
学生会員受取会費	11,700,000	12,000,000	△ 300,000	
賛助会員受取会費	29,850,000	30,900,000	△ 1,050,000	
事業収益	405,541,000	430,118,000	△ 24,577,000	
頒布収益	44,564,000	44,600,000	△ 36,000	
掲載料収益	60,551,000	62,799,000	△ 2,248,000	
広告収益	36,698,000	33,536,000	3,162,000	
参加費収益	125,614,000	133,676,000	△ 8,062,000	*講習会減
審査料、登録料収益	5,830,000	8,030,000	△ 2,200,000	
研究会登録費収益	26,500,000	28,574,000	△ 2,074,000	
規格賛助員費収益	90,400,000	90,400,000	0	
国際会議収益	790,000	2,360,000	△ 1,570,000	
分担金収益	878,000	871,000	7,000	
抄録料、著作権使用料等収益	650,000	650,000	0	
受取民間委託費	13,066,000	24,622,000	△ 11,556,000	*人材育成受託事業、標準化委託益減
受取補助金等	4,646,000	19,570,000	△ 14,924,000	
受取民間補助金	1,000,000	13,498,000	△ 12,498,000	*標準化国際会議現地開催減
受取民間助成金	3,646,000	6,072,000	△ 2,426,000	
受取寄付金	6,500,000	2,500,000	4,000,000	
受取寄付金	6,500,000	2,500,000	4,000,000	*受託事業寄付増
雑収益	320,000	320,000	0	
受取利息	160,000	160,000	0	
雑収益	160,000	160,000	0	
経常収益計	597,985,000	642,736,000	△ 44,751,000	
（2）経常費用				
事業費	527,135,000	591,526,000	△ 64,391,000	
給料手当	127,419,000	128,207,000	△ 788,000	
賞与引当金繰入額	15,288,000	15,404,000	△ 116,000	
臨時雇賃金	6,639,000	7,793,000	△ 1,154,000	
退職給付費用	2,556,000	2,836,000	△ 280,000	
福利厚生費	29,375,000	29,483,000	△ 108,000	
会議費	59,651,000	82,467,000	△ 22,816,000	*講習会・標準化会議費現地開催減
旅費交通費	22,954,000	44,911,000	△ 21,957,000	*調査研究・講習会・標準化現地開催減
通信運搬費	16,875,000	19,476,000	△ 2,601,000	
減価償却費	8,347,000	7,669,000	678,000	
消耗品費	8,124,000	11,728,000	△ 3,604,000	
印刷製本費	69,013,000	82,327,000	△ 13,314,000	*会誌オンライン化・60周年記念事業関係減
光熱水料費	3,664,000	3,673,000	△ 9,000	
賃借料	32,493,000	29,819,000	2,674,000	
保険料	172,000	700,000	△ 528,000	
諸謝金	23,395,000	24,535,000	△ 1,140,000	
租税公課	13,284,000	14,455,000	△ 1,171,000	
支払負担金	165,000	430,000	△ 265,000	
支払助成金	450,000	450,000	0	
委託費	80,604,000	78,813,000	1,791,000	
支払手数料	3,020,000	2,168,000	852,000	
支払分担金	3,547,000	4,045,000	△ 498,000	
研修費	10,000	10,000	0	
雑費	90,000	127,000	△ 37,000	

科目	2021年度予算	2020年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
管理費	85,100,000	99,637,000	△ 14,537,000	*各種会議オンライン開催、60周年記念事業関係減
給料手当	19,741,000	18,853,000	888,000	
賞与引当金繰入額	2,412,000	2,296,000	116,000	
臨時雇賃金	906,000	958,000	△ 52,000	
退職給付費用	944,000	1,064,000	△ 120,000	
福利厚生費	5,529,000	5,197,000	332,000	
会議費	2,730,000	10,684,000	△ 7,954,000	
旅費交通費	4,111,000	7,092,000	△ 2,981,000	
通信運搬費	1,259,000	2,549,000	△ 1,290,000	
減価償却費	3,920,000	3,704,000	216,000	
消耗品費	412,000	1,394,000	△ 982,000	
印刷製本費	425,000	5,193,000	△ 4,768,000	
光熱水料費	736,000	727,000	9,000	
賃借料	4,722,000	4,231,000	491,000	
保険料	80,000	100,000	△ 20,000	
諸謝金	6,896,000	6,160,000	736,000	
租税公課	72,000	109,000	△ 37,000	
支払負担金	3,900,000	3,900,000	0	
委託費	19,063,000	18,143,000	920,000	
支払手数料	6,788,000	6,788,000	0	
雑費	454,000	495,000	△ 41,000	
経常費用計	612,235,000	691,163,000	△ 78,928,000	
当期経常増減額	△ 14,250,000	△ 48,427,000	34,177,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
(該当なし)	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
(該当なし)	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期正味財産増減額	△ 14,250,000	△ 48,427,000	34,177,000	
正味財産期首残高	1,216,652,005	1,160,969,459	55,682,546	
正味財産期末残高	1,202,402,005	1,112,542,459	89,859,546	

注) 収支予算書は、「公益法人会計基準」により、損益ベースで作成しています。

付. 正味財産増減計算書 事業別サマリー

(単位: 千円)

実施事業	項 目	収益			経費			差額		
		2020予算	2020決算	2021予算	2020予算	2020決算	2021予算	2020予算	2020決算	2021予算
1	調査研究	116,869	68,947	127,981	134,684	66,491	138,643	-17,815	2,456	-10,662
	研究会, 調査委員会	35,374	37,124	31,510	41,830	27,009	34,516	-6,456	10,115	-3,006
	シンポジウム等	78,995	29,315	93,971	70,415	19,807	82,312	8,580	9,508	11,659
	表彰	2,500	2,500	2,500	8,407	7,649	7,870	-5,907	-5,149	-5,370
	運用益, 管理費割掛ほか	0	8	0	14,032	12,026	13,945	-14,032	-12,018	-13,945
2	人材育成	31,836	23,518	23,636	30,127	15,595	23,250	1,709	7,923	386
	教育活動	2,700	1,047	2,700	4,167	1,422	4,477	-1,467	-375	-1,777
	教育活動-受託分	21,106	12,857	15,106	16,084	6,711	10,939	5,022	6,146	4,167
	資格認定	8,030	9,608	5,830	7,857	5,205	5,084	173	4,403	746
	運用益, 管理費割掛ほか	0	6	0	2,019	2,257	2,750	-2,019	-2,251	-2,750
3	学術講習会	70,710	48,142	50,605	95,124	63,574	76,774	-24,414	-15,432	-26,169
	全国大会	27,029	20,979	19,048	25,806	17,117	18,393	1,223	3,862	655
	F I T	24,436	13,193	14,883	22,811	12,751	14,409	1,625	442	474
	プロシン	4,967	306	4,967	4,945	127	4,945	22	179	22
	AIプロコン	1,000	925	0	1,793	1,311	0	-793	-386	0
	その他事業	0	0	0	1,501	1,571	1,624	-1,501	-1,571	-1,624
	セミナー	10,837	7,755	9,425	8,421	6,709	8,013	2,416	1,046	1,412
	ITフォーラム	0	440	330	2,519	1,110	2,636	-2,519	-670	-2,306
	支部所管分	2,441	4,476	1,952	13,083	9,985	11,757	-10,642	-5,509	-9,805
	運用益, 管理費割掛ほか	0	68	0	14,245	12,893	14,997	-14,245	-12,825	-14,997
4	会 誌	20,667	16,845	19,379	85,888	69,370	78,936	-65,221	-52,525	-59,557
	会誌	20,667	16,845	19,379	57,440	45,564	50,410	-36,773	-28,719	-31,031
	会誌発送経費				19,231	14,999	16,970	-19,231	-14,999	-16,970
	運用益, 管理費割掛ほか	0	0	0	9,217	8,807	11,556	-9,217	-8,807	-11,556
5	学術刊行物	100,332	105,353	98,136	115,146	110,478	106,630	-14,814	-5,125	-8,494
	ジャーナル	62,504	61,852	59,998	45,269	42,366	40,756	17,235	19,486	19,242
	トランザクション	13,037	11,385	13,037	10,223	8,724	10,311	2,814	2,661	2,726
	出版-電子出版等	24,676	31,405	25,101	25,818	28,017	26,886	-1,142	3,388	-1,785
	出版-DP	115	700	0	3,834	4,474	0	-3,719	-3,774	0
	出版-歴史	0	0	0	4,271	1,832	2,194	-4,271	-1,832	-2,194
	運用益, 管理費割掛ほか	0	11	0	25,731	25,065	26,483	-25,731	-25,054	-26,483
7	国際活動	1,560	3,333	380	4,526	949	2,851	-2,966	2,384	-2,471
	国際活動	1,560	3,333	380	4,152	626	2,493	-2,592	2,707	-2,113
	運用益, 管理費割掛ほか	0	0	0	374	323	358	-374	-323	-358
	共通	200	70	200	14,070	12,574	13,070	-13,870	-12,504	-12,870
	運用益／共通経費	200	70	200	14,070	12,574	13,070	-13,870	-12,504	-12,870
本部 実施事業 小計		342,174	266,208	320,317	479,565	339,030	440,154	-137,391	-72,822	-119,837
法人会計		191,510	188,851	182,260	99,637	76,981	85,100	91,873	111,870	97,160
	会員	191,210	184,042	181,960	18,005	15,151	18,038	173,205	168,891	163,922
	会員	191,210	184,042	181,960	6,995	4,735	6,845	184,215	179,307	175,115
	運用益, 管理費割掛ほか				11,010	10,416	11,193	-11,010	-10,416	-11,193
	管理	300	4,809	300	71,823	55,139	58,604	-71,523	-50,330	-58,304
	管理	300	4,809	300	34,640	17,951	17,681	-34,340	-13,142	-17,381
	運用益, 管理費割掛ほか				37,183	37,188	40,923	-37,183	-37,188	-40,923
	支部所管				9,809	6,691	8,458	-9,809	-6,691	-8,458
本部 当期正味財産増減		533,684	455,059	502,577	579,202	416,011	525,254	-45,518	39,048	-22,677
6	標準化活動	109,052	94,256	95,408	111,961	77,621	86,981	-2,909	16,635	8,427
本部＋標準化の合計		642,736	549,315	597,985	691,163	493,632	612,235	-48,427	55,683	-14,250
								1,160,969	1,160,969	1,178,228
								1,112,542	1,216,652	1,163,978

[第2号報告]

2. 会費滞納会員の取り扱い

会費滞納会員の取扱い

定款第 10 条 1 項 1 号にもとづき、2019 年度からの会費を滞納した会員 589 名については、その会員資格を喪失したものと扱う。